

＜集計分析結果＞

(クロス集計版)

在宅介護実態調査の集計結果

～第8期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和2年5月

＜守谷市＞

目次

I	調査の概要及び回答者の属性	1
1	調査の概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象及び調査方法	1
(3)	配布数及び回収結果	1
2	本調査報告書の基本的な事項	2
(1)	数値の基本的な取り扱いについて	2
II	調査結果	3
1	在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	3
(1)	施設等の検討状況	3
(2)	主な介護者が不安に感じる介護	4
(3)	サービス利用の組み合わせ	6
(4)	「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係	9
(5)	「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	11
(6)	「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係	14
(7)	「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	16
2	仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	22
(1)	世帯類型・介護者と本人との関係等	22
(2)	就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み	24
(3)	「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係	27
(4)	「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係	30
(5)	就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況	31
(6)	就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援	34
3	保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	38
(1)	保険外の支援・サービスの利用状況	38
(2)	世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス	39
(3)	「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」	41
(4)	「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」	45
4	将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	49
(1)	要介護度と世帯類型	49
(2)	「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」	50
(3)	「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」	52
(4)	「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」	54
5	医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	58
(1)	主な介護者が行っている介護	58
(2)	訪問診療の利用割合	61
(3)	訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ	62

(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無	63
6 サービス未利用の理由など	64
(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由	64
(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由	68
(3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス	72
(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢	76
(5) 要介護度別の抱えている傷病	77
(6) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病	78

※図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示しています。

I 調査の概要及び回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、「第8期守谷市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の策定にあたり、本市に居住する在宅の高齢者の生活状況や介護サービスの利用状況等を把握することを目的として実施したものである。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	要支援・要介護認定を受けている守谷市民（施設居住者を除く）とその家族
配布数	611 票
調査方法	訪問による
調査時期	平成 30 年 10 月～令和元年 10 月
調査地域	守谷市全域

(3) 配布数及び回収結果

配布数	611
有効回収数	611
有効回収率	100.0%

2 本調査報告書の基本的な事項

(1) 数値の基本的な取り扱いについて

- ① 比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出している。従って、合計が100%を上下する場合もある。
- ② 基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出している。
- ③ 質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良い問であり、従って各回答の合計比率は100%を超える場合がある。
- ④ 図表タイトルに記載されている記号については、次の内容を意味する。
 - ◆ 「***」 : 0.1%水準で有意な差がある
 - ◆ 「**」 : 1%水準で有意な差がある
 - ◆ 「*」 : 5%水準で有意な差がある
 - ◆ 「+」 : 10%水準で有意な差がある
 - ◆ 「(記号なし)」 : 有意な差がない
- ⑤ ただし、「有意な差がない」とは、「調査結果を統計学的に否定するに足る差が認められていないこと」であり、調査結果が実際の状況と同じであることを意味するものではない。また、調査結果の検定手法は複数存在するが、国配布のツールでは、「カイ二乗検定」と呼ばれる検定手法のみを使用しているため、本報告書の調査結果はあくまで参考情報として取り扱われるべきものである。

Ⅱ 調査結果

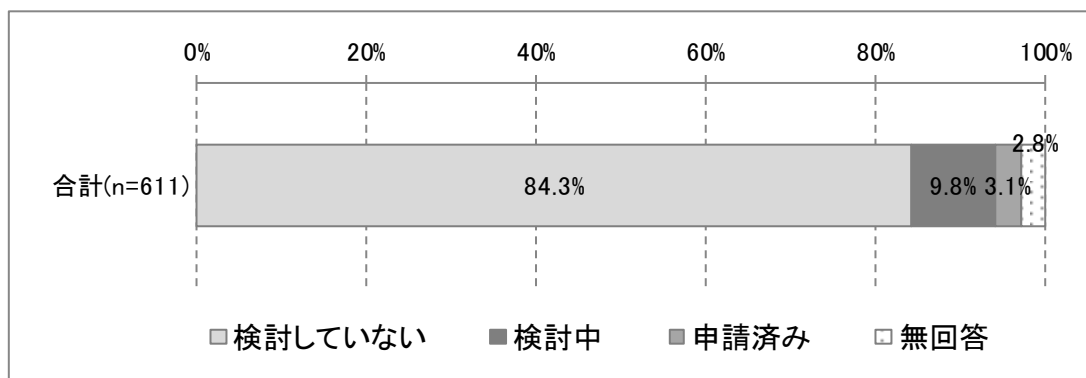
1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

(1) 施設等の検討状況

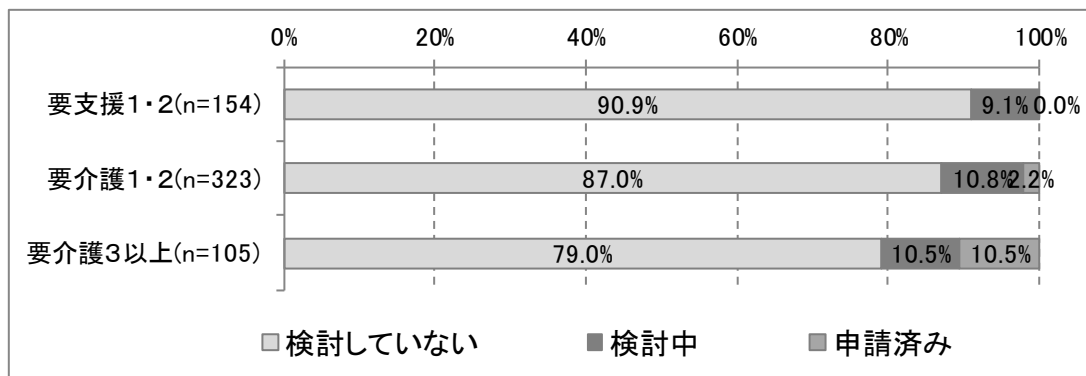
施設の検討状況についてたずねたところ、「検討していない」が84.3%、「検討中」が9.8%、「申請済み」が3.1%となっている。

要介護度別にみると、要介護3以上では「検討中」・「申請済み」がともに10.5%を占めている。世帯類型別にみると、夫婦のみ世帯とその他では「検討していない」が9割強を占めているのに対し、単身世帯では「検討中」が2割強、「申請済み」は1割強を占めている。

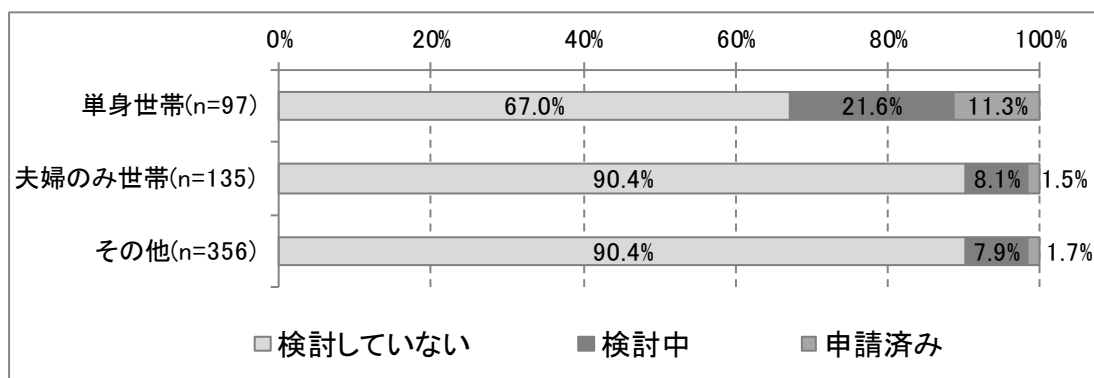
図表 1-1 施設等検討の状況



図表 1-2 要介護度別・施設等検討の状況 (***)



図表 1-3 世帯類型別・施設等検討の状況 (***)

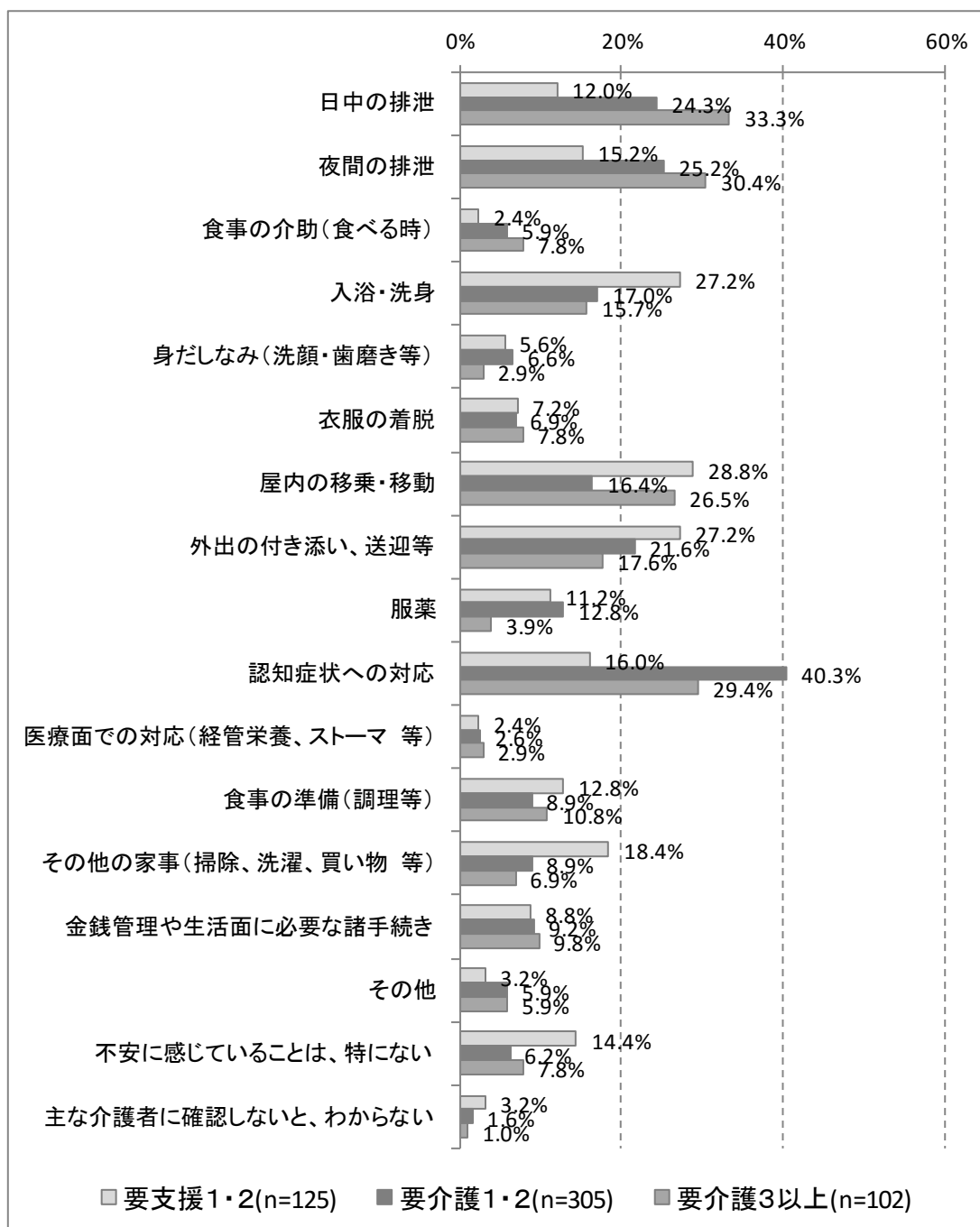


(2) 主な介護者が不安に感じる介護

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護についてたずねたところ、「認知症状への対応」が大きな割合を占めている。特に「要介護1・2」では4割以上を占めている。

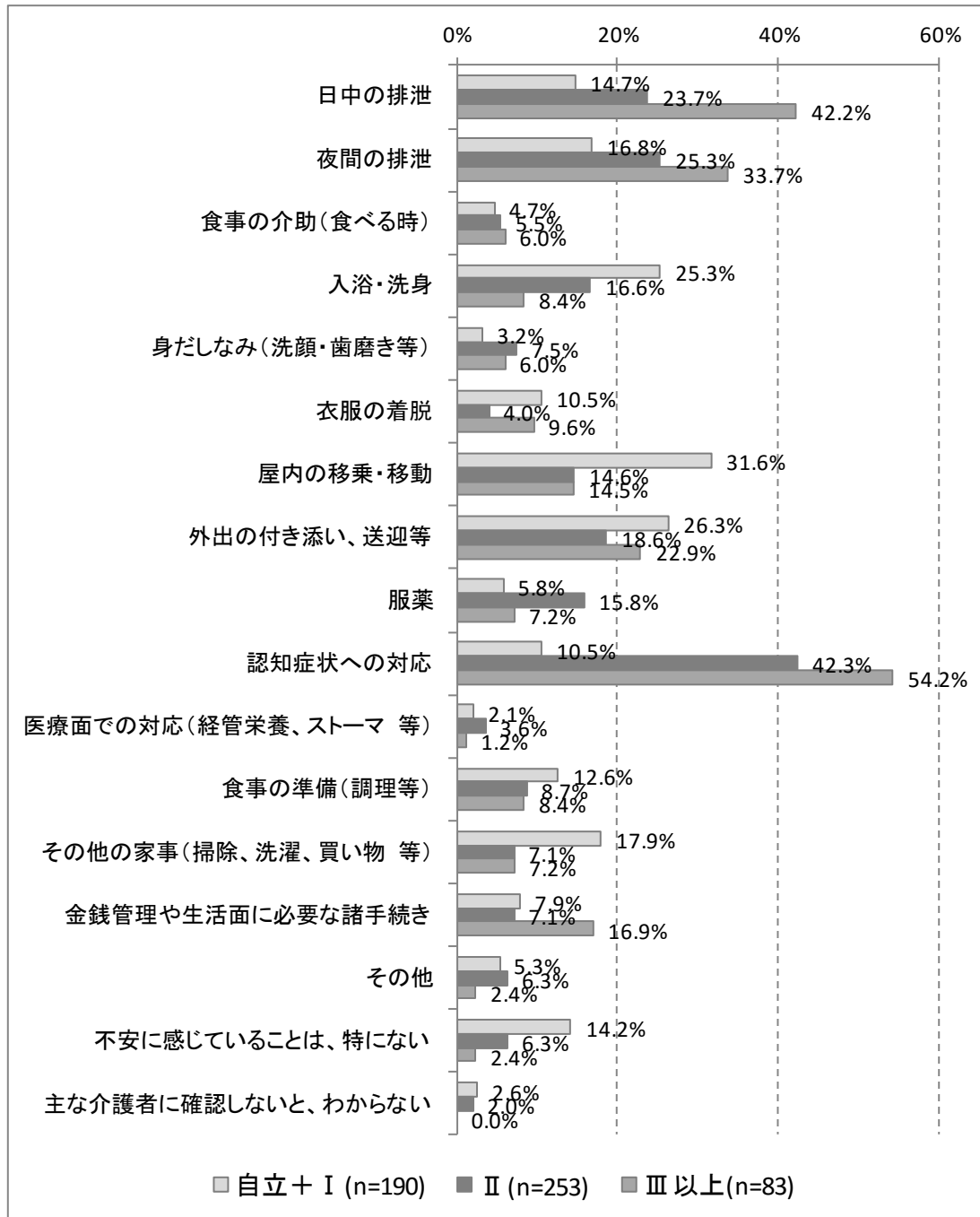
また、要介護3以上では「日中の排泄」と「夜間の排泄」がいずれも3割強を占めている。

図表 1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



認知症自立度別にみても、「認知症状への対応」に不安を抱えている介護者が多く、特にⅡでは42.3%、Ⅲでは54.2%となっている。

図表 1-5 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護

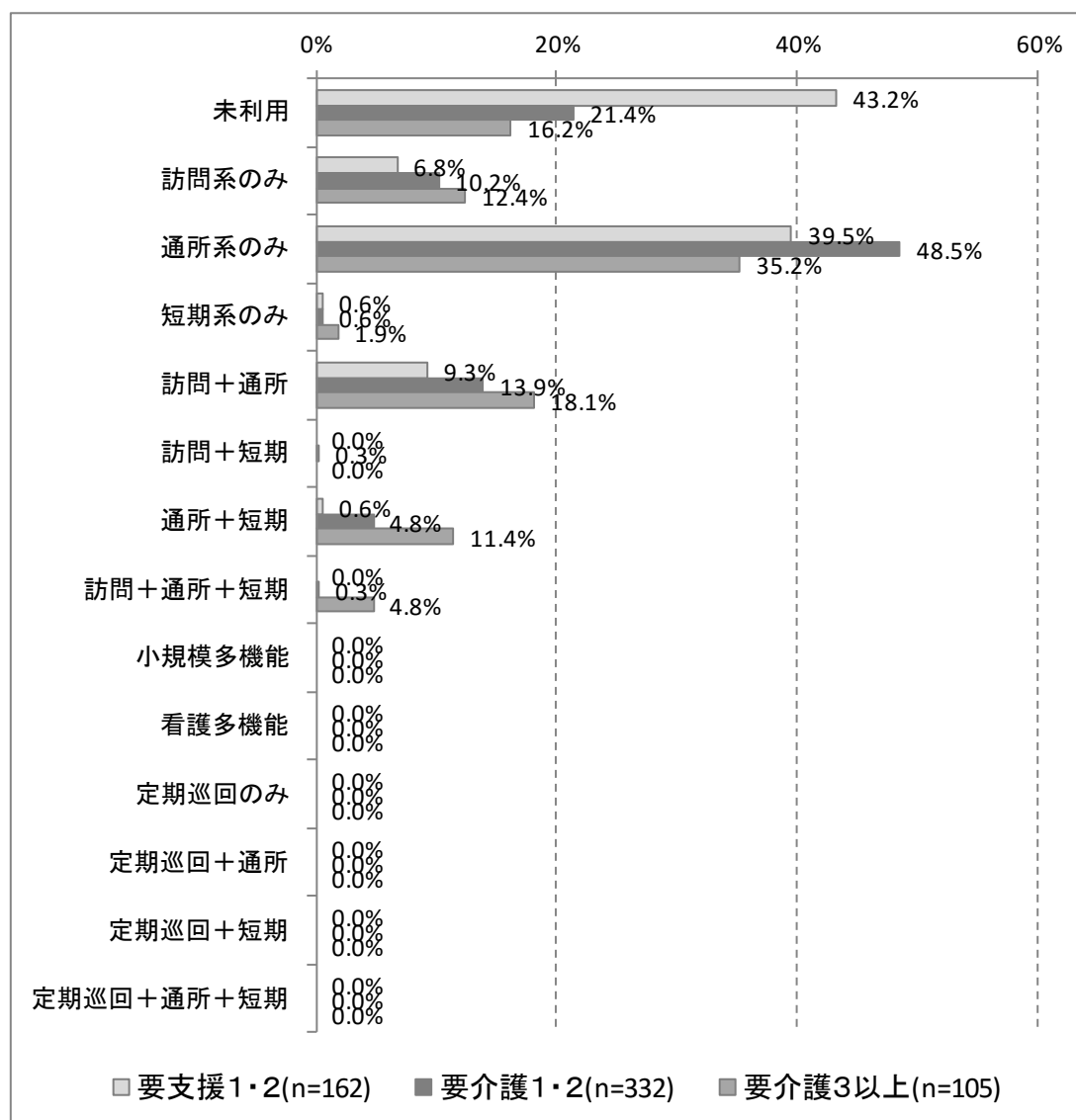


(3) サービス利用の組み合わせ

要介護度別に利用しているサービスについてみると、要支援1・2では「未利用」が4割強を占める。要介護1・2では「通所系のみ」が5割弱を占めるほか、要介護3以上でも「通所系のみ」が4割弱を占めている。

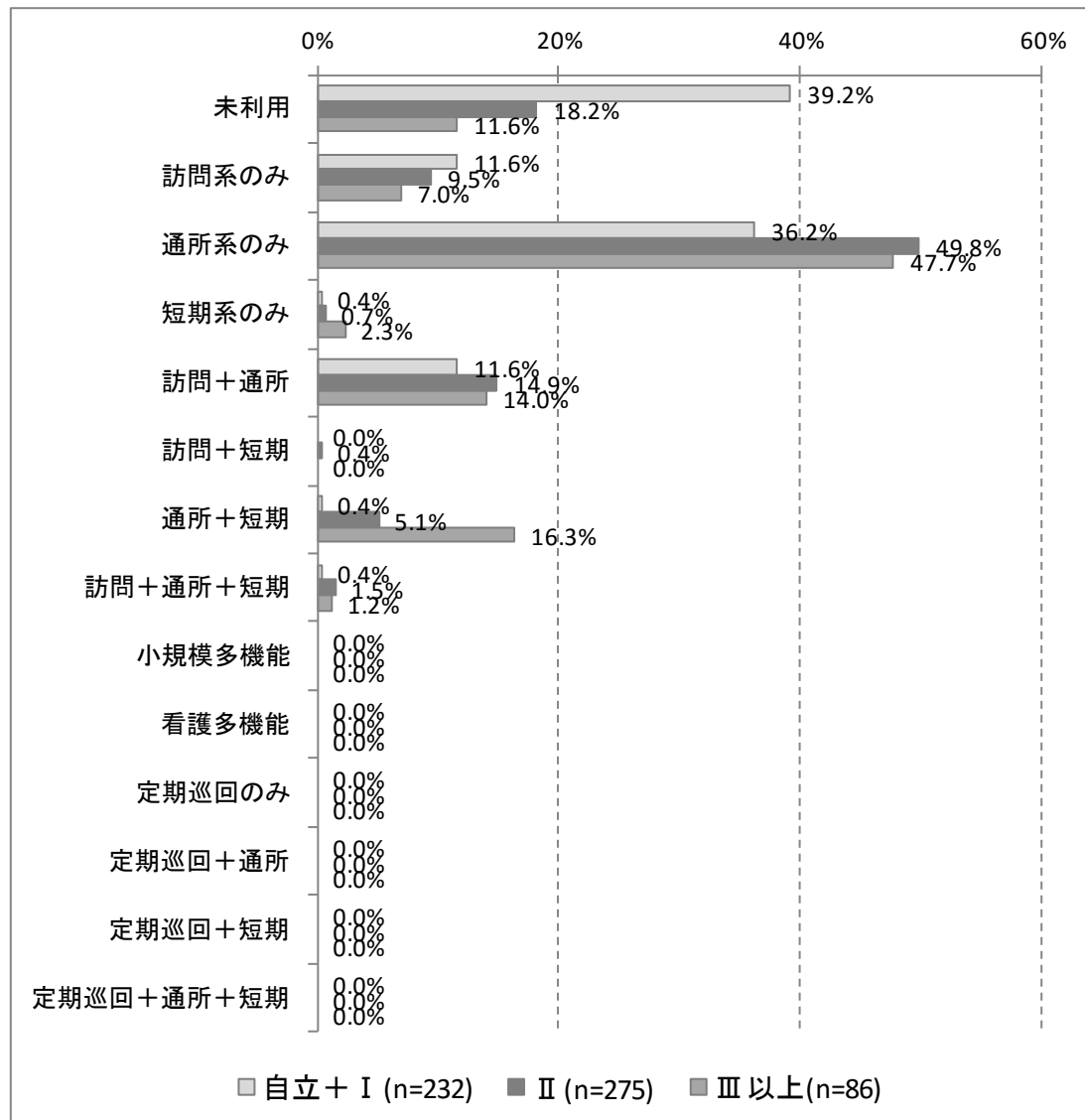
要介護度の重度化に伴って、「訪問系のみ」と「訪問＋通所」、「通所＋短期」の割合が高くなる傾向がうかがえる。

図表 1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ (***)



認知症自立度別にみると自立＋Ⅰでは「未利用」と「通所系のみ」が4割弱を占めているのに対し、ⅡとⅢ以上では「通所系のみ」がいずれも5割弱を占めている。

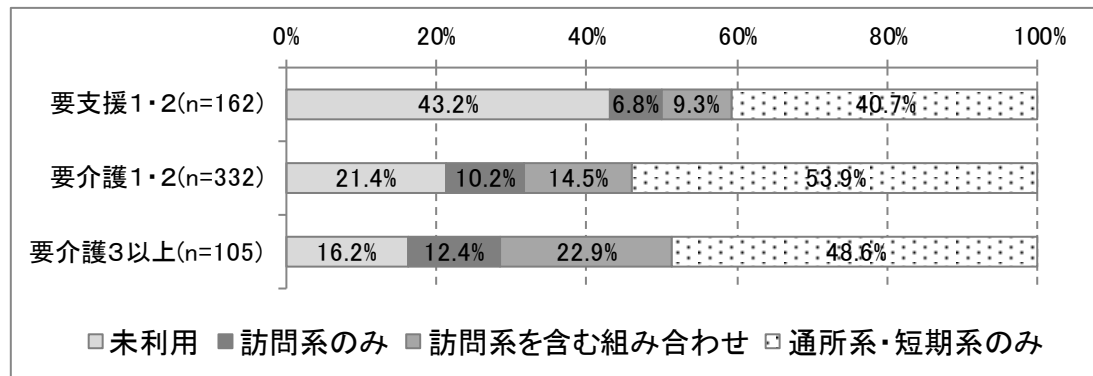
図表 1-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ (***)



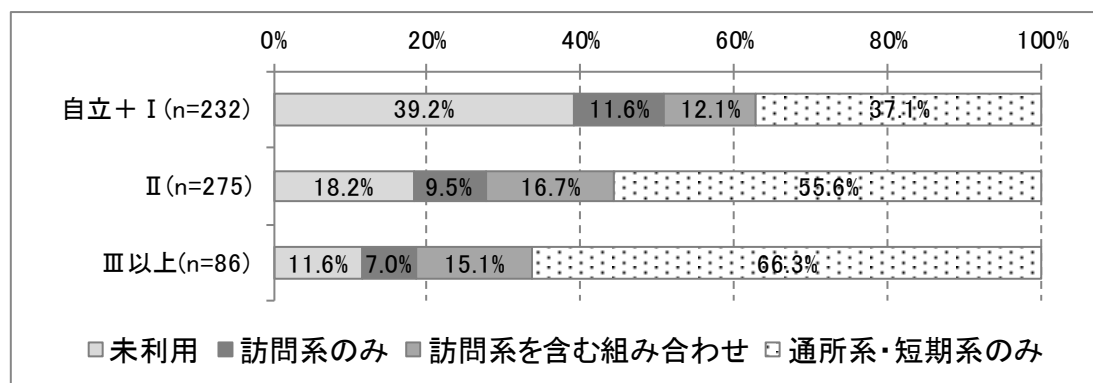
サービス利用の組み合わせについて、「未利用」、「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」の4つに分類すると、要介護度が重度化するにつれて「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなる傾向がうかがえる。

また、認知症自立度が重度化するにつれて、「通所系・短期系のみ」の割合が高くなる傾向がうかがえる。

図表 1-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ (***)



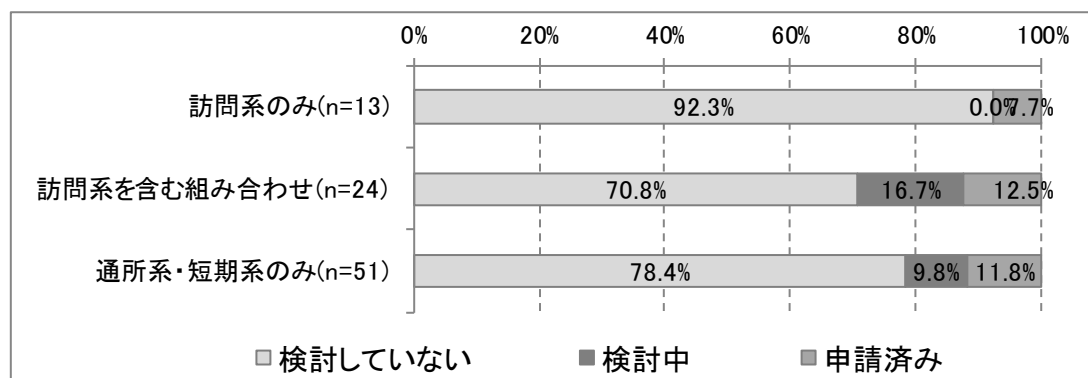
図表 1-9 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ (***)



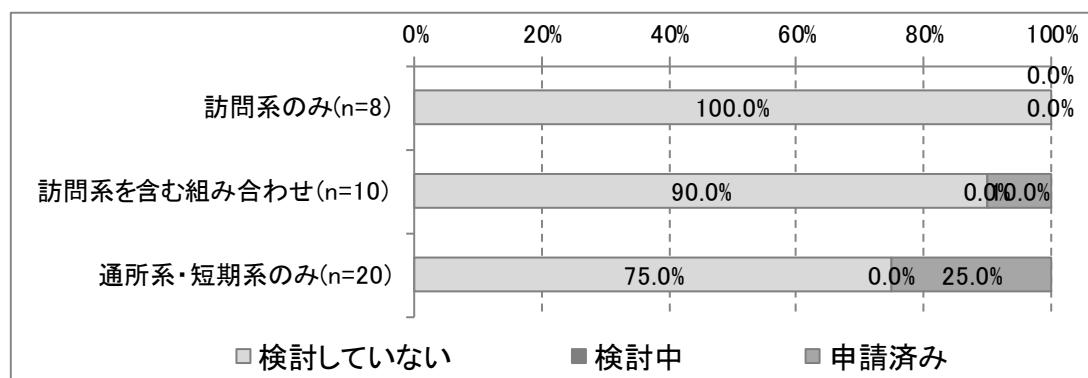
(4)「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

要介護3以上及び要介護4以上における「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」についてみると、「検討していない」の割合が高いのはいずれも訪問系のみとなっている。また、要介護3以上でみると、訪問系を含む組み合わせでは「検討中」と「申請済み」が1割以上を占めている。

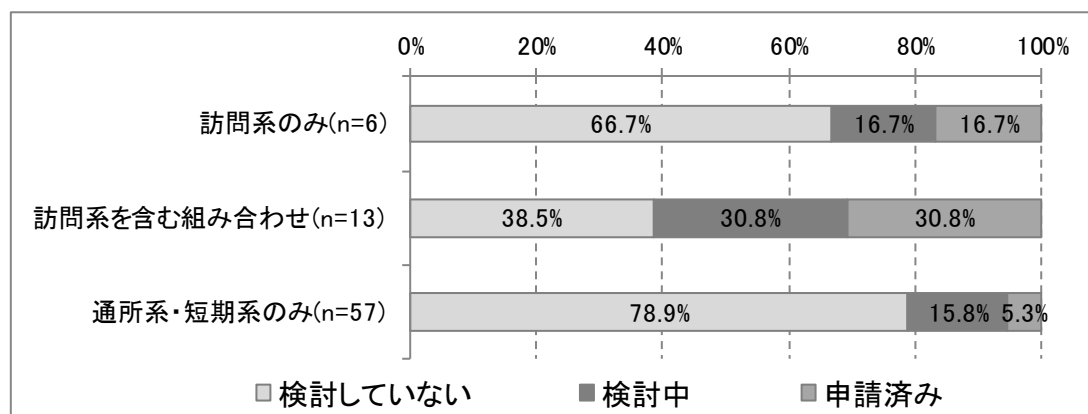
図表 1-10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



図表 1-11 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



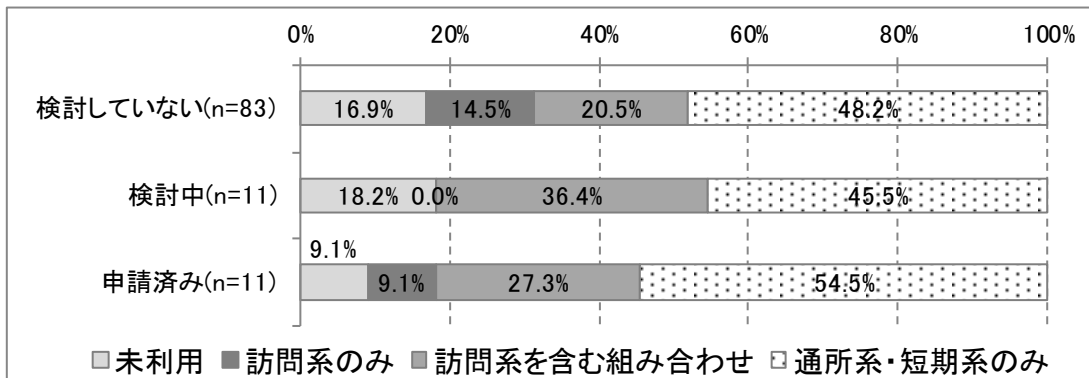
図表 1-12 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）(*)



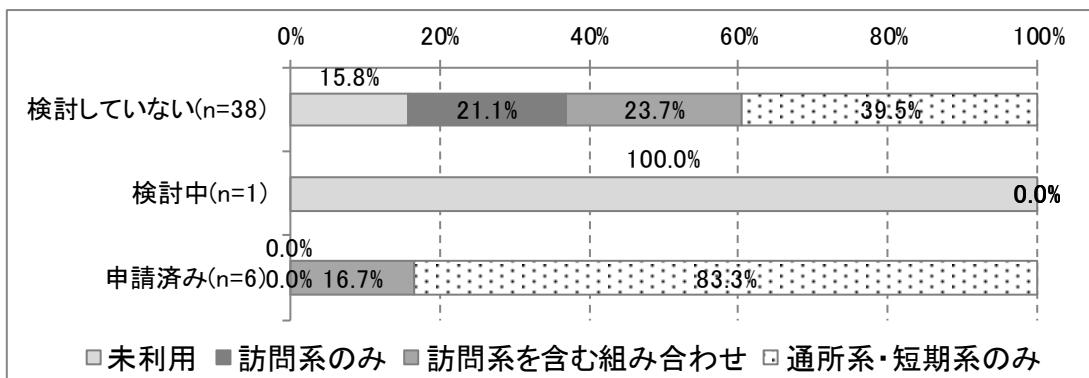
要介護3以上において、施設等検討の状況別にサービス利用の組み合わせをみると、検討していないグループでは、「通所系・短期系のみ」が5割近くを占めている。

認知症Ⅲ以上においては、申請済みのグループでは「訪問系を含む組み合わせ」が44.4%を占めており、他よりも高い割合となっている。

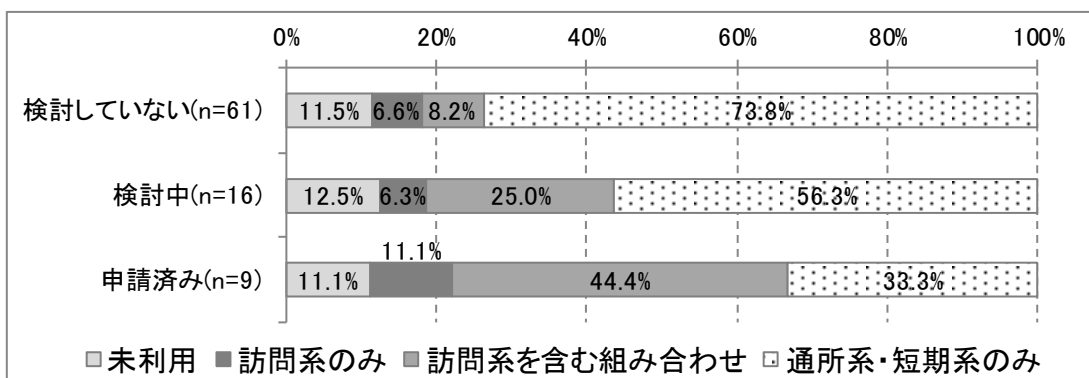
図表 1-13 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



図表 1-14 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



図表 1-15 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）

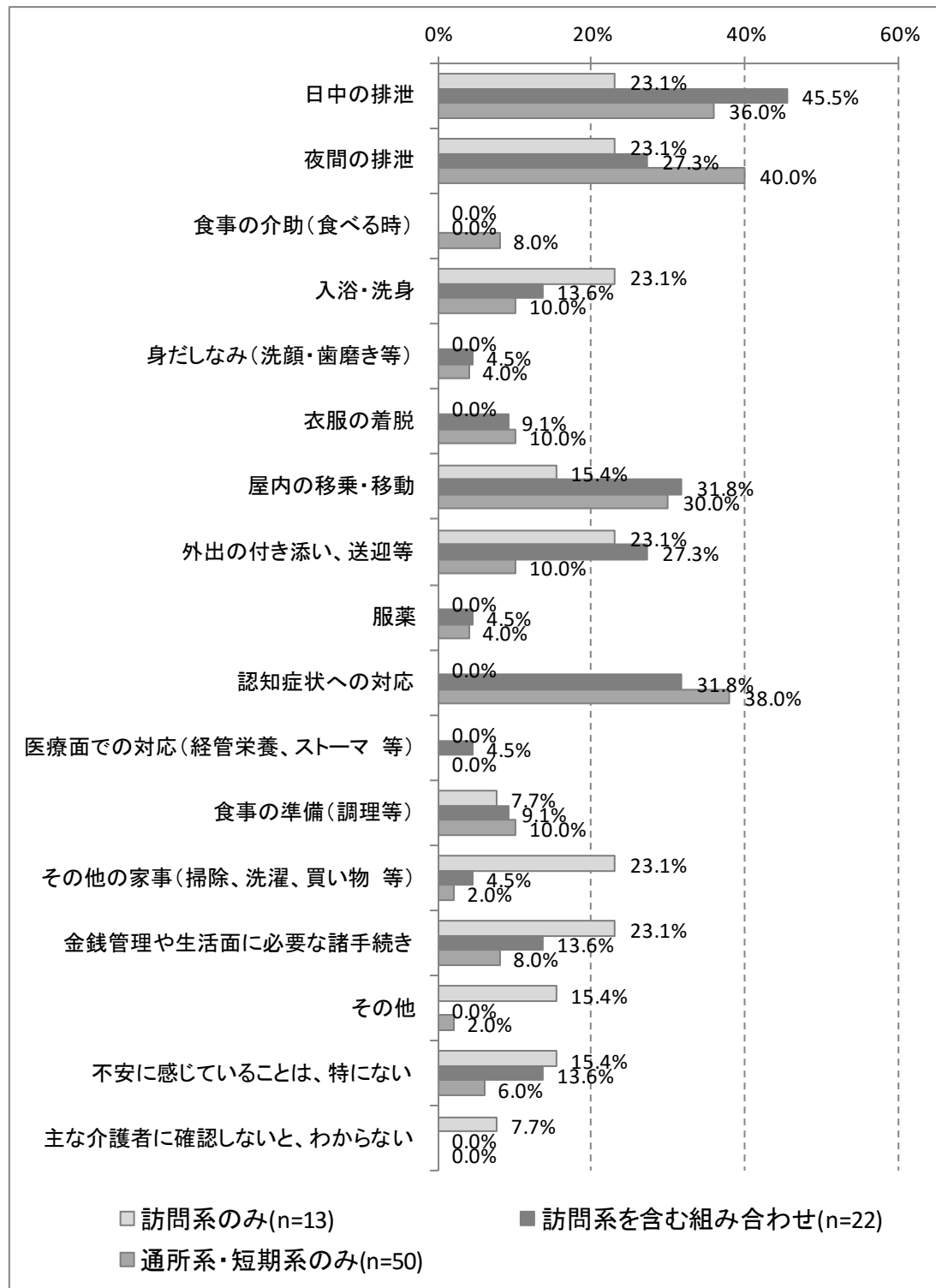


(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

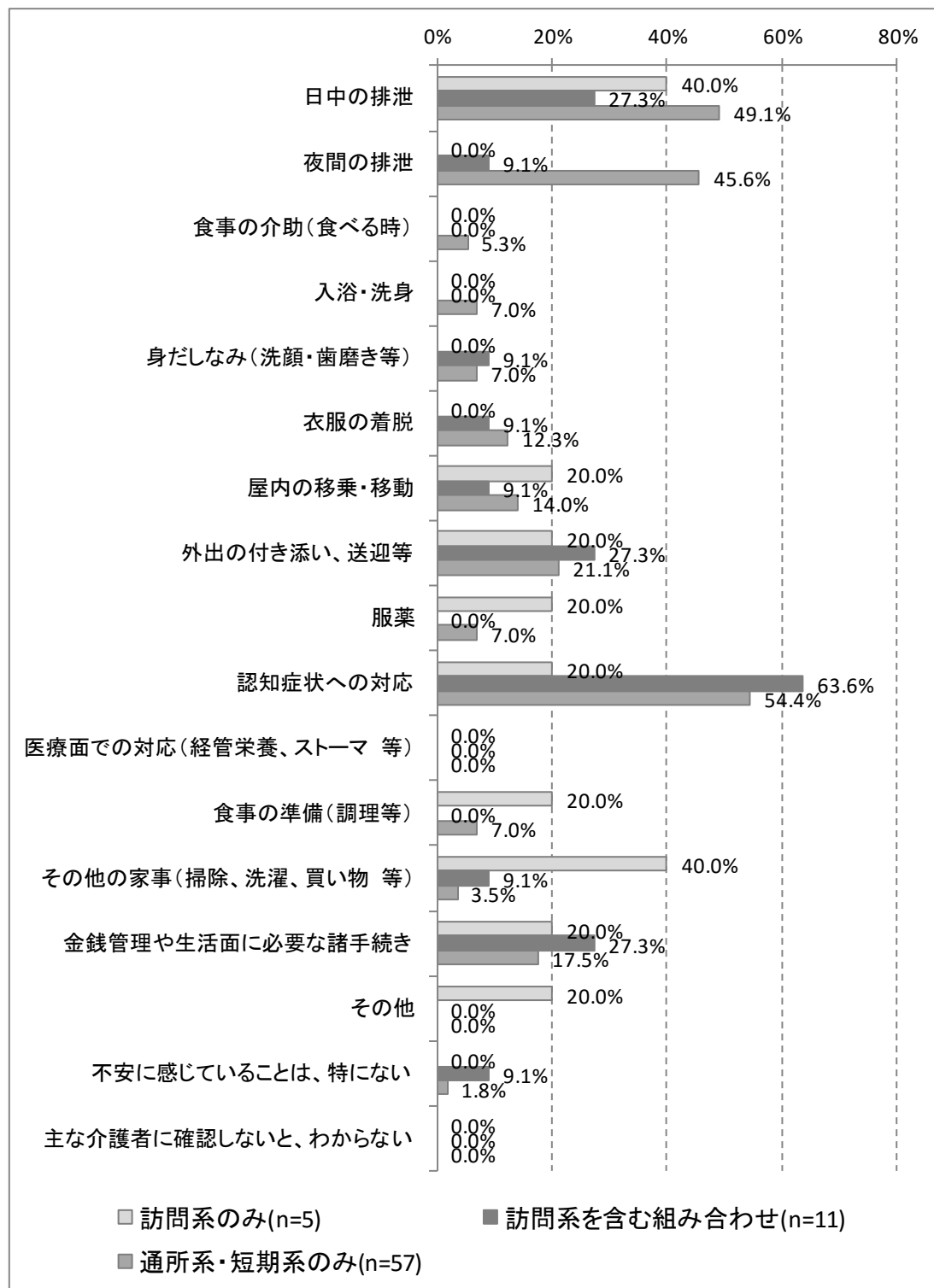
「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係について、特に在宅限界点のポイントとなる「夜間の排泄」及び「認知症状への対応」についてみると、「夜間の排泄」では、訪問系のみの人の方が不安を感じている人が少なくなる傾向がうかがえる。「認知症状への対応」も同様の傾向がうかがえ、訪問系のみでは回答者ゼロとなっている。

介護者の負担が大きく、レスパイト中心のサービス利用となっているケースであっても、必要に応じて訪問系のみあるいは訪問系を含む組み合わせのサービス利用を推進していくことで、介護者の不安を軽減し、在宅限界点の向上につなげていくことができる可能性が示されている。

図表 1-16 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）



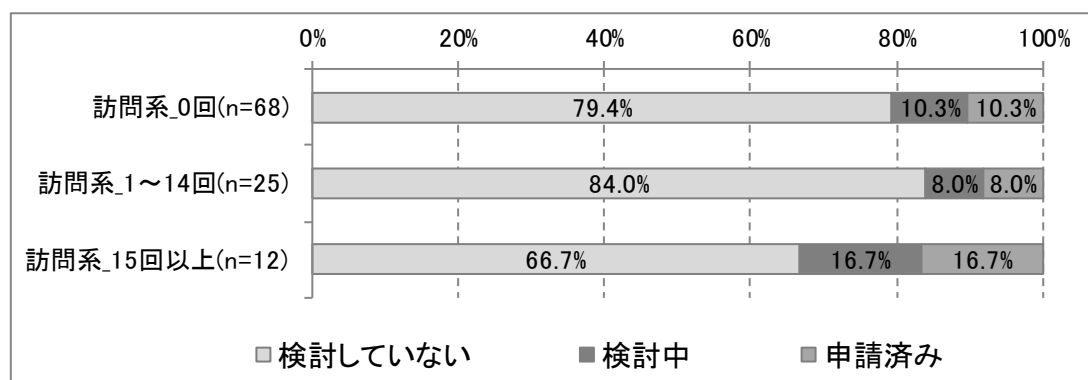
図表 1-17 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）



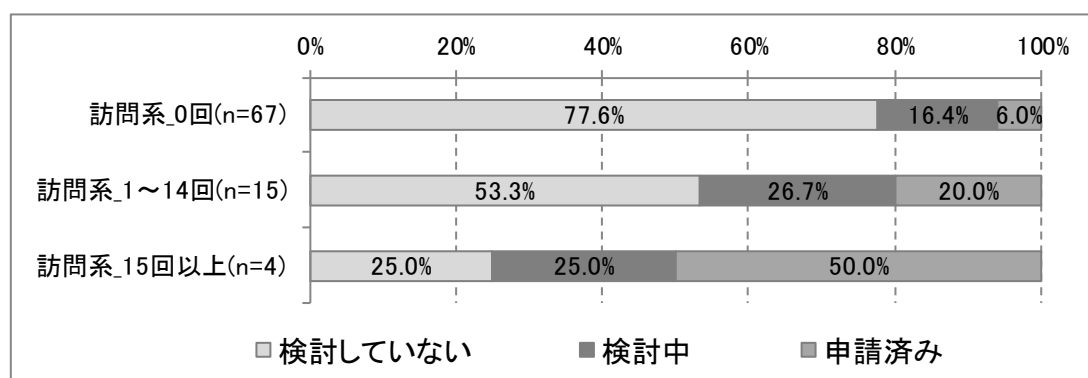
（６）「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

要介護３以上及び認知症自立度Ⅲ以上のケースについてみると、訪問系サービスの利用回数が１～１４回の人の「検討していない」の割合が高くなっている。要介護４以上における「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」についてみると、「検討していない」の割合が高いのはいずれも訪問系のみとなっている。また、要介護３以上でみると、訪問系を含む組み合わせでは「検討中」と「申請済み」が１割以上を占めている。

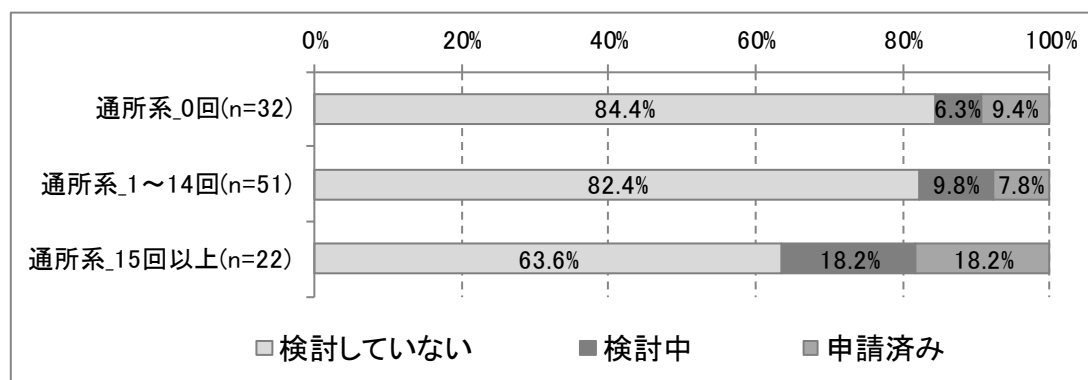
図表 1-18 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護３以上）



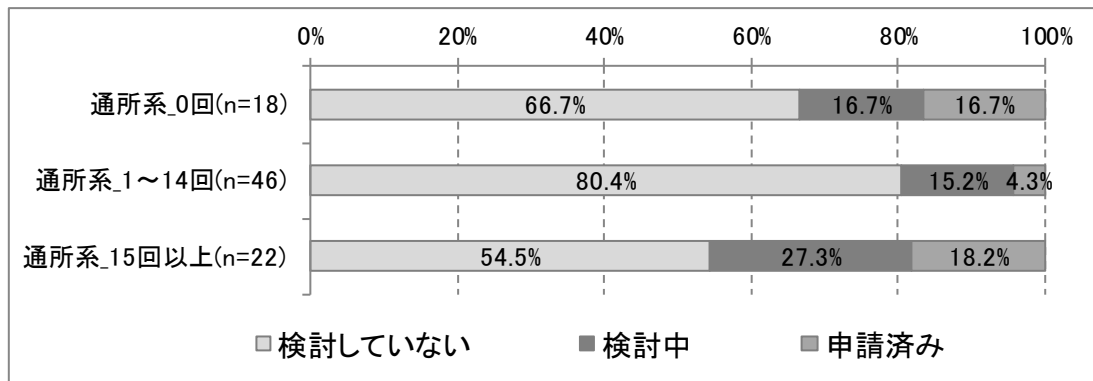
図表 1-19 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）



図表 1-20 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護３以上）

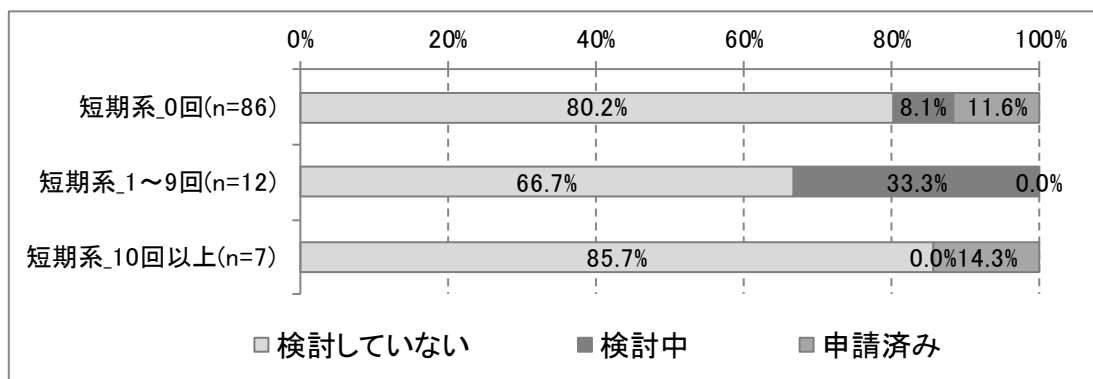


図表 1-21 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）

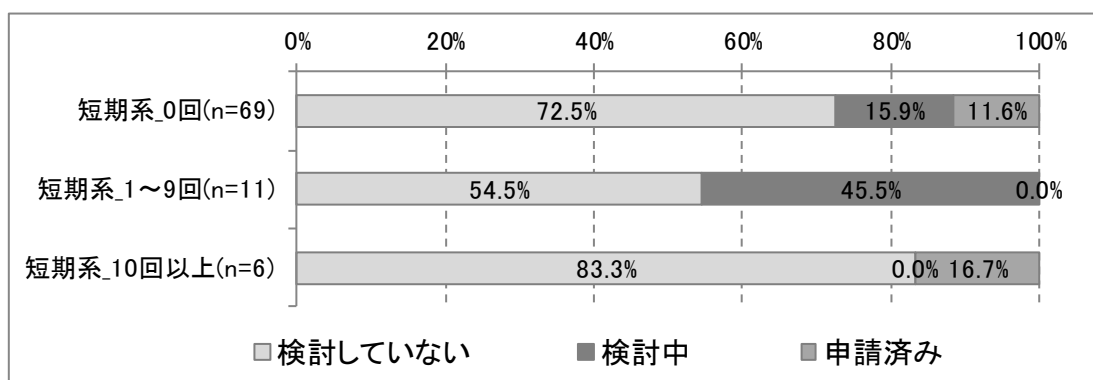


短期系サービスについてみると、1月あたり1～9回の利用では施設等検討の状況における「検討していない」の割合が他と比べて低いことがわかる。

図表 1-22 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）(+)



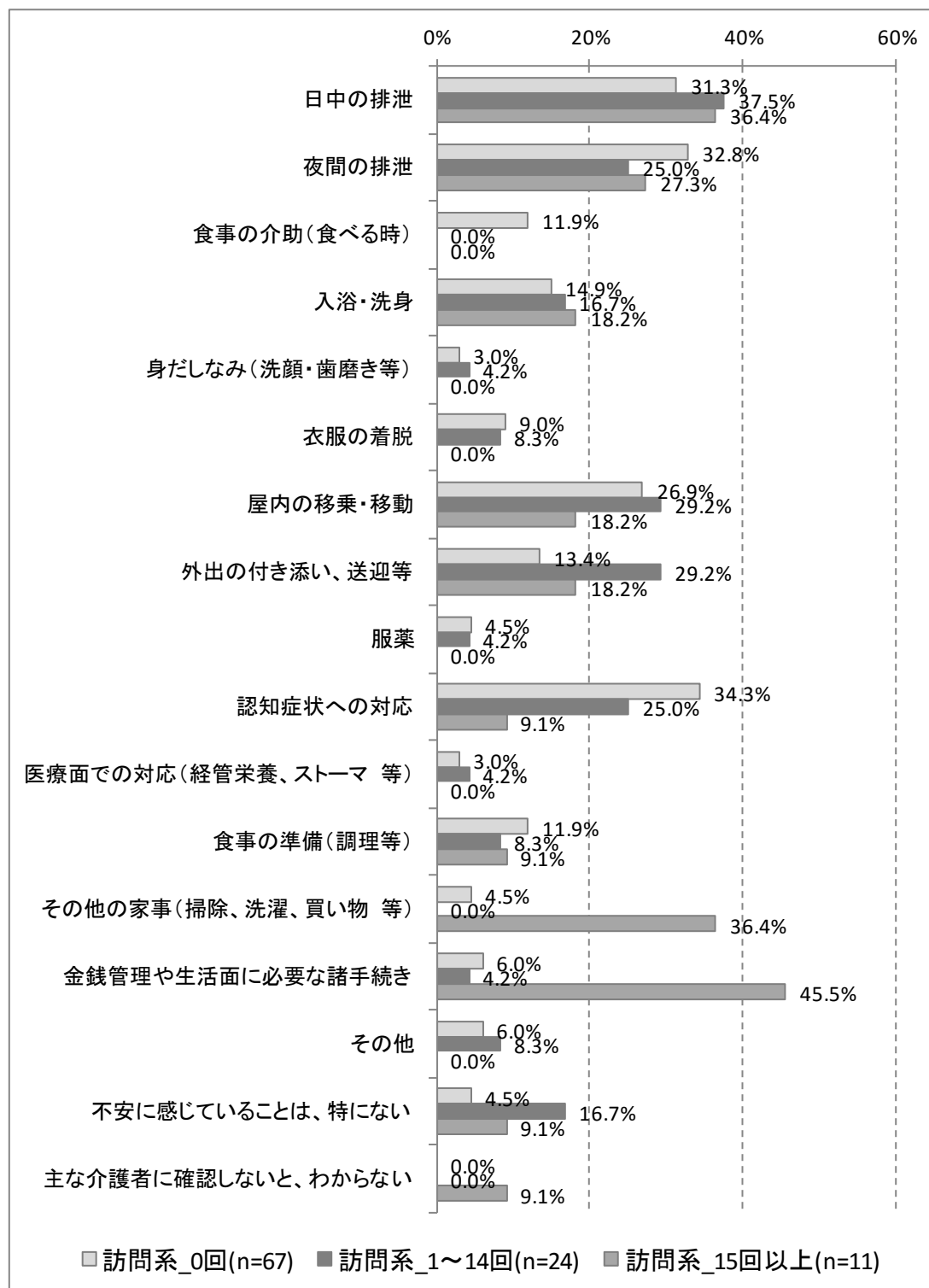
図表 1-23 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）



(7)「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係

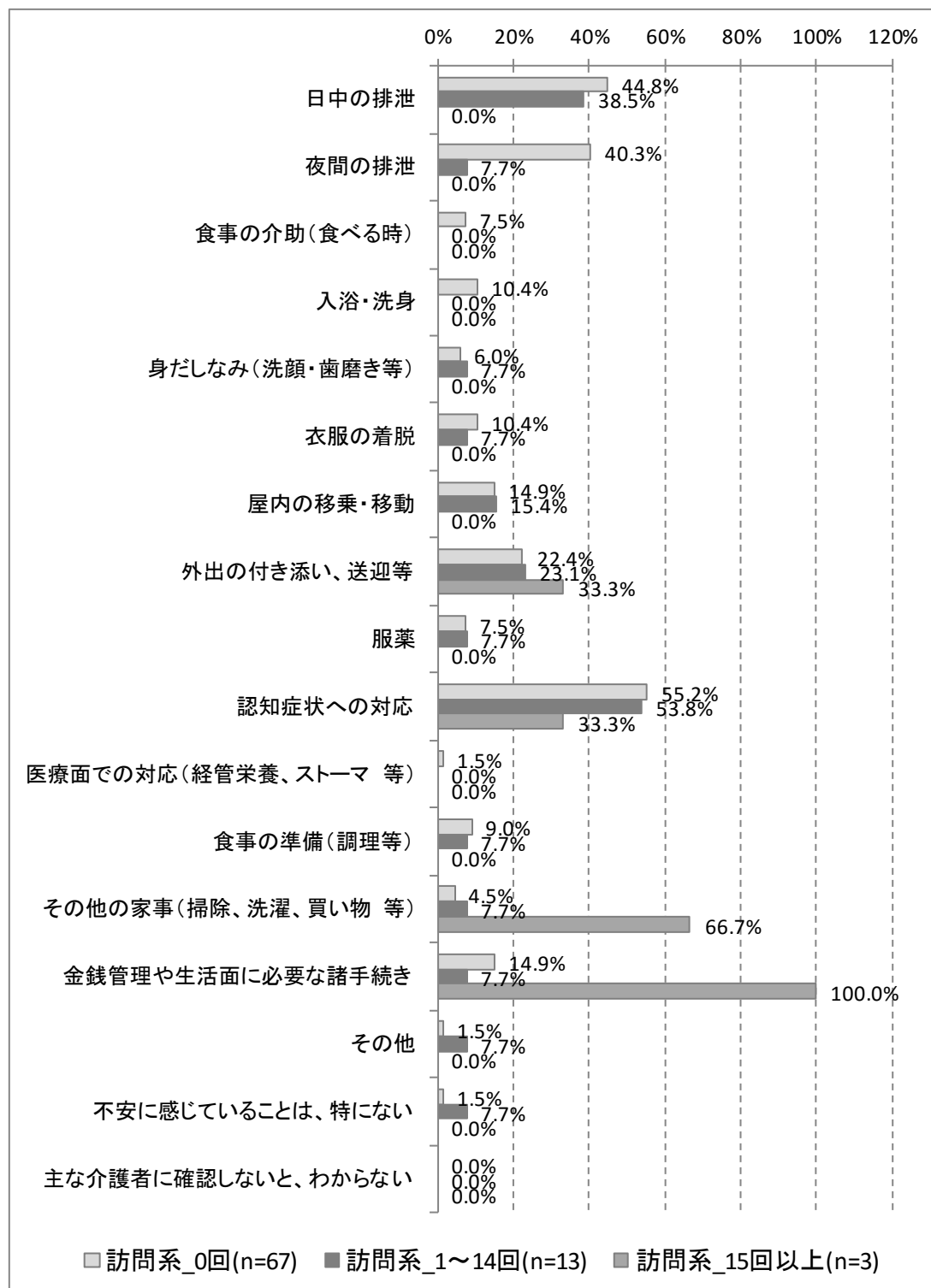
要介護3以上のケースをみると、訪問系サービスの利用回数の増加に伴って、「認知症状への対応」に係る不安が軽減されていることがうかがえる。

図表 1-24 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



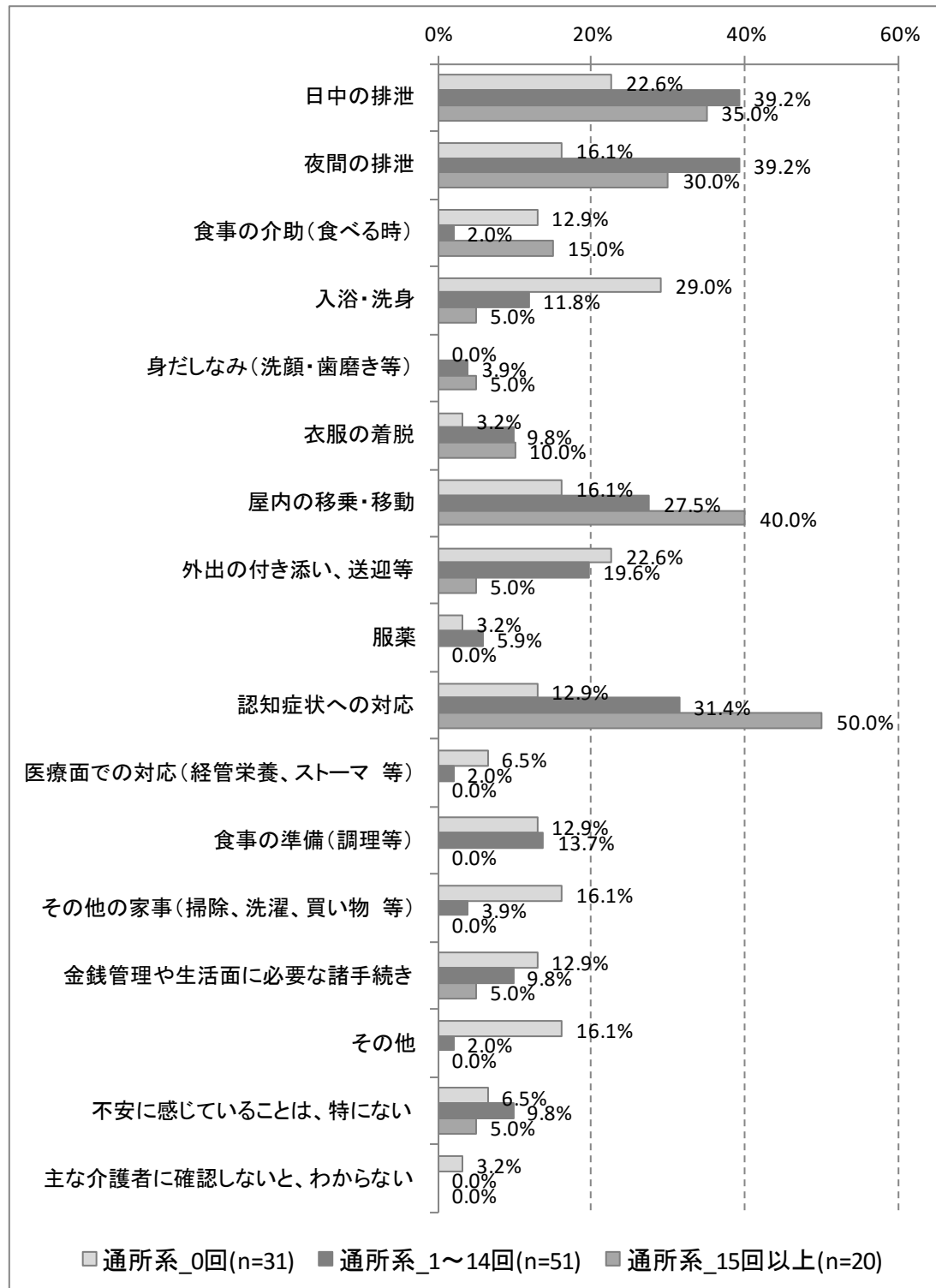
認知症自立度Ⅲ以上のケースをみると、訪問系サービスの利用回数の増加に伴って、「日中の排泄」と「夜間の排泄」、「認知症状への対応」に係る不安が軽減されていることがうかがえる。

図表 1-25 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）



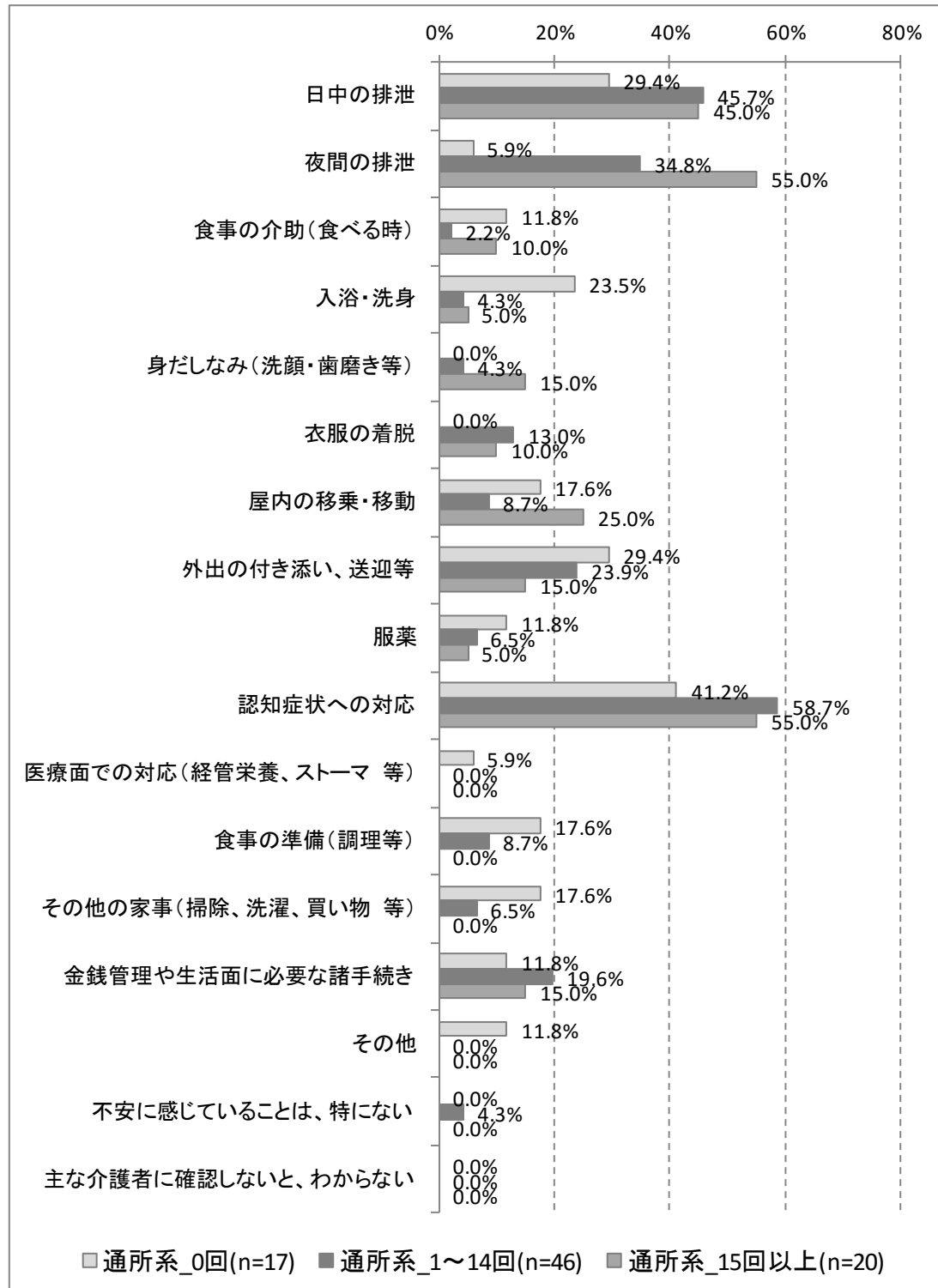
要介護3以上のケースにおける通所系サービスの利用についてみると、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」では利用回数の増加に伴って不安が軽減されていることがうかがえる。

図表 1-26 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）



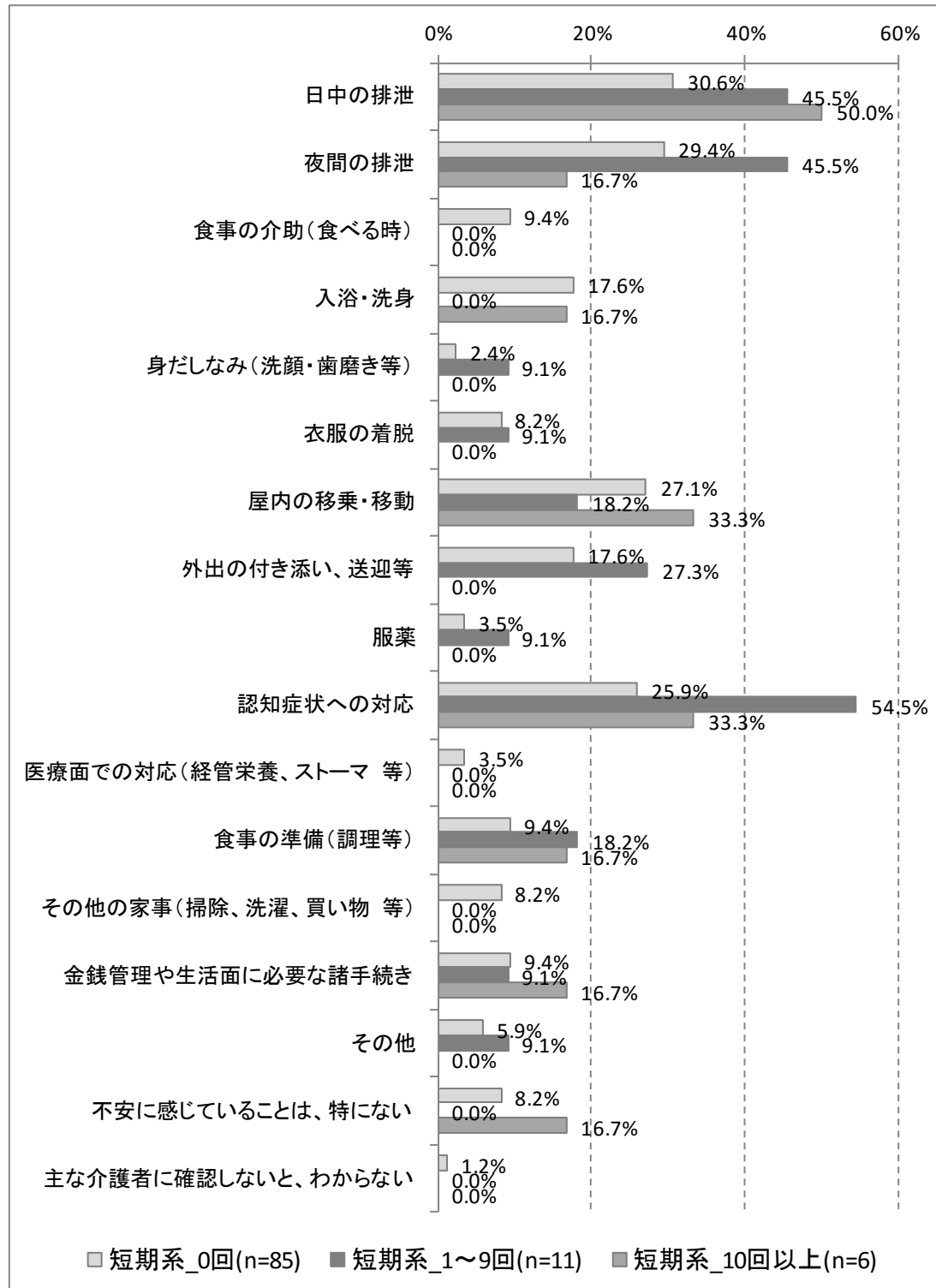
認知症Ⅲ以上のケースにおける通所系サービスの利用についてみると、「外出の付き添い、送迎等」などでは利用回数の増加に伴って不安が軽減されていることがうかがえる。

図表 1-27 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）



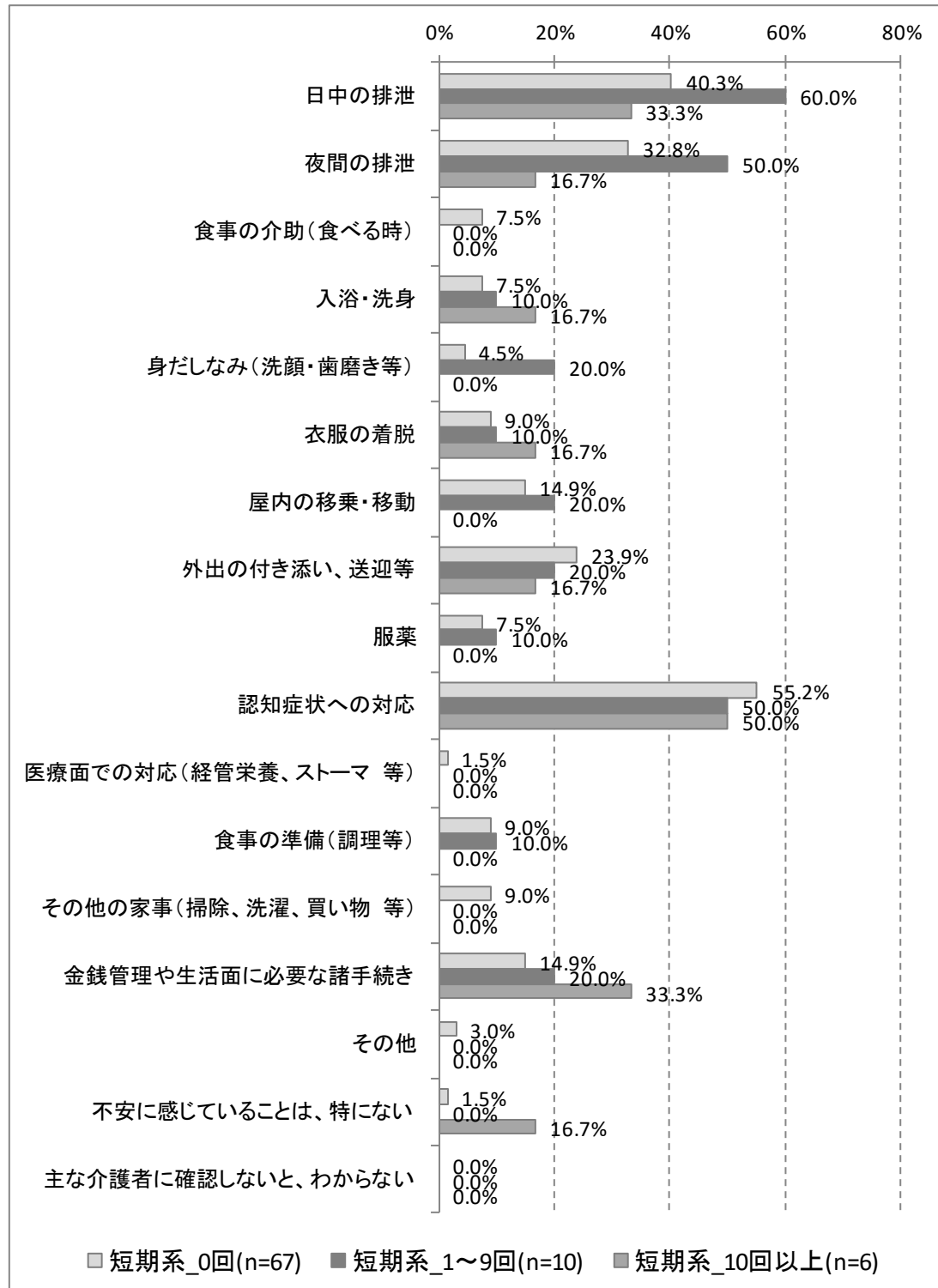
要介護3以上のケースにおける短期系サービスの利用についてみると、利用回数と不安の軽減に相関関係は特にみられない。

図表 1-28 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）



要介護3以上のケースにおける短期系サービスの利用についてみると、「外出の付き添い、送迎等」では利用回数の増加に伴って不安が軽減されていることがうかがえる。

図表 1-29 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）



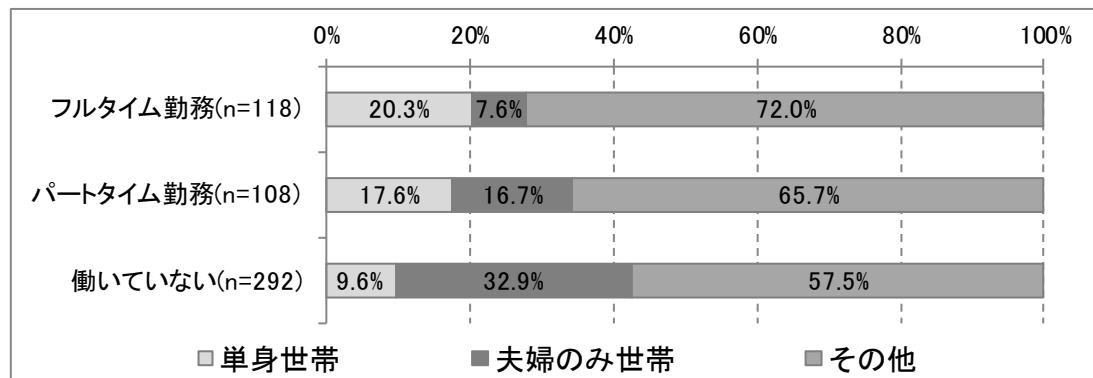
2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

(1) 世帯類型・介護者と本人との関係等

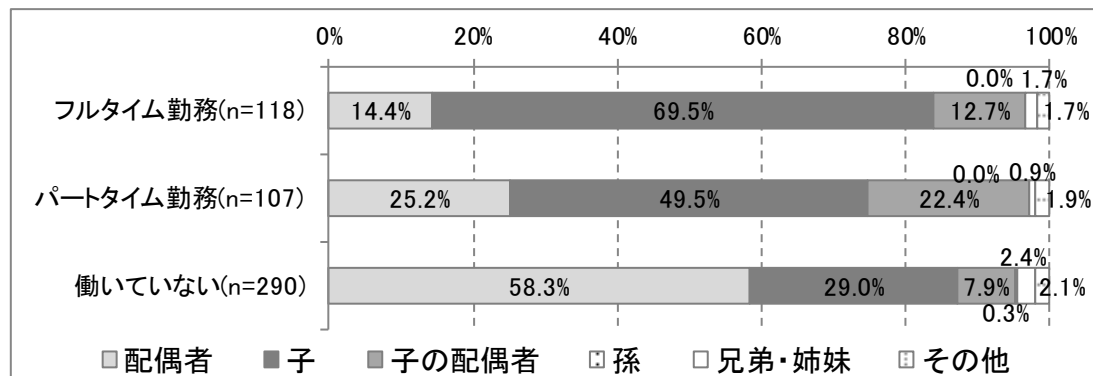
主な介護者の就労状況別にその世帯類型をみると、がフルタイム勤務の場合、「その他世帯」が7割以上を占めている。主な介護者が就労していない世帯の場合、「夫婦のみ世帯」が3割強を占めている。

主な介護者の就労状況別にその年齢をみると、主な介護者がフルタイム勤務をしているケースでは「40歳代」が5割弱を占めており、他よりも高い割合を占めている。

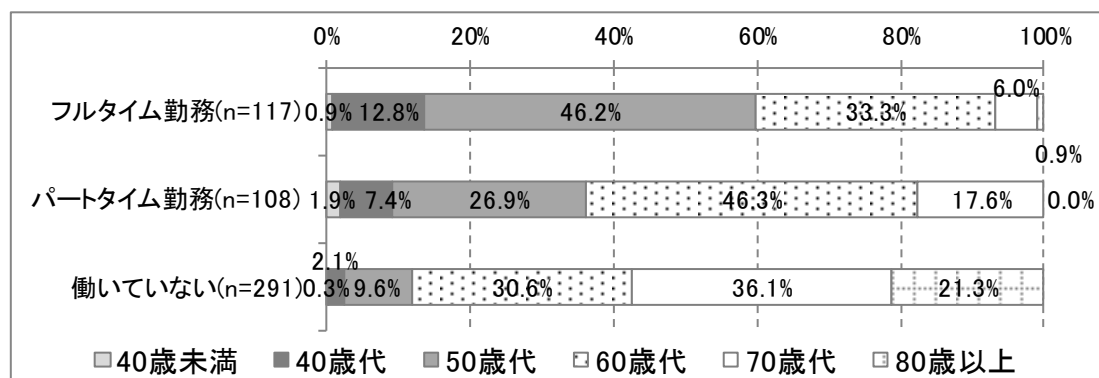
図表 2-1 就労状況別・世帯類型 (***)



図表 2-2 就労状況別・★主な介護者の本人との関係 (***)

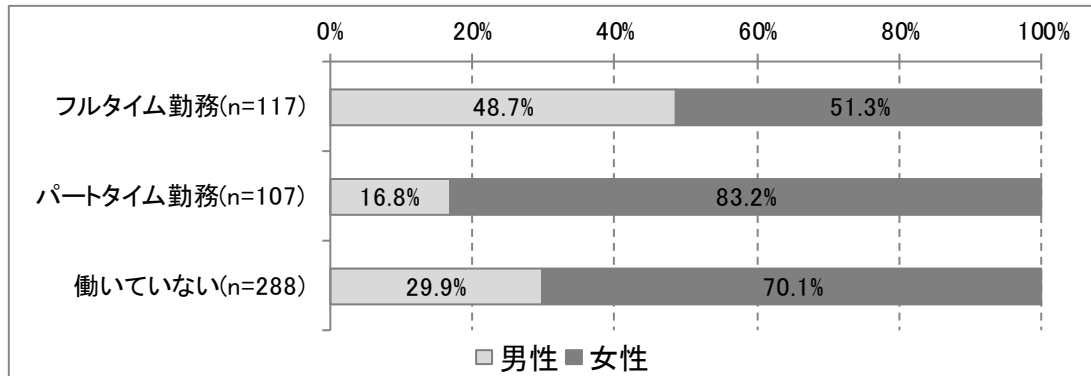


図表 2-3 就労状況別・主な介護者の年齢 (***)

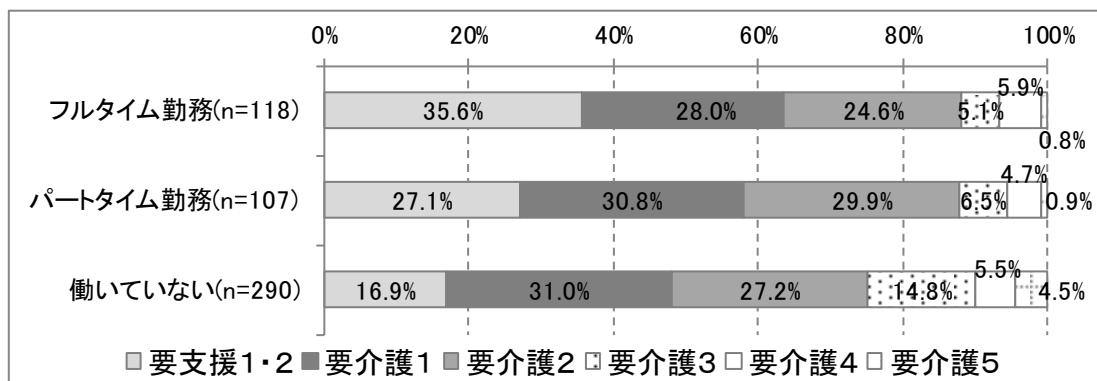


主な介護者の就労状況別にその性別をみると、パートタイム勤務の場合では「女性」が8割強、就労していない場合では7割強を占めるのに対し、フルタイム勤務では5割強となっている。

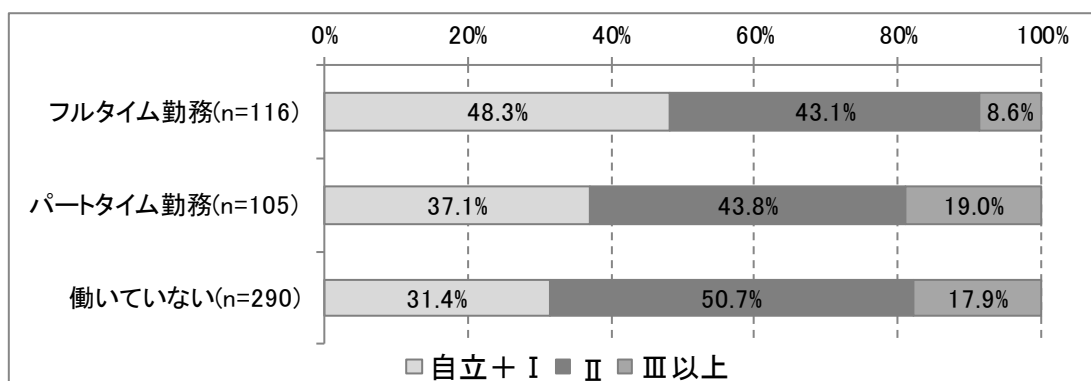
図表 2-4 就労状況別・主な介護者の性別 (***)



図表 2-5 就労状況別・要介護度 (***)



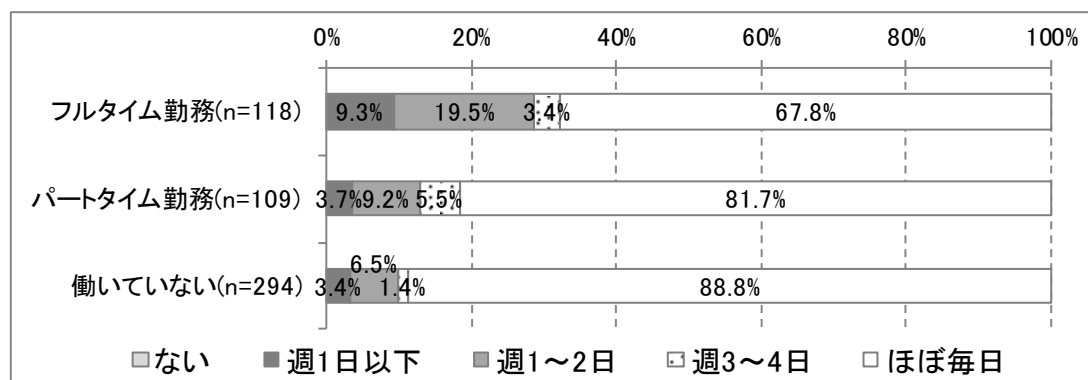
図表 2-6 就労状況別・認知症自立度 (*)



（２）就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

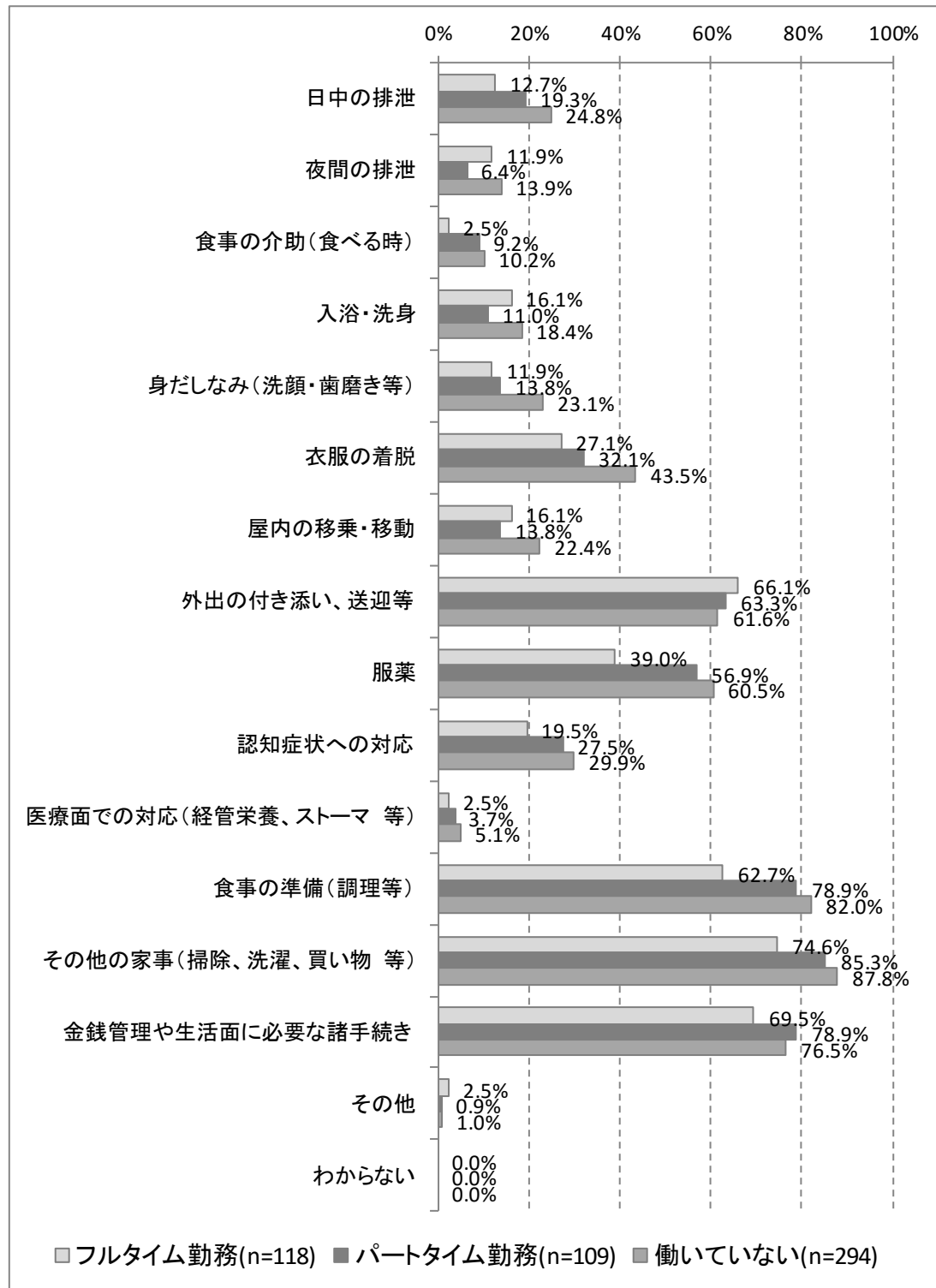
家族等による介護の頻度についてみると、パートタイム勤務と働いていないケースでは「ほぼ毎日」がいずれも８割以上を占めるのに対し、フルタイム勤務では７割弱となっている。

図表 2-7 就労状況別・家族等による介護の頻度(***)



就労状況別に主な介護者が行っている介護についてみると、いずれも「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の割合が高くなっている。

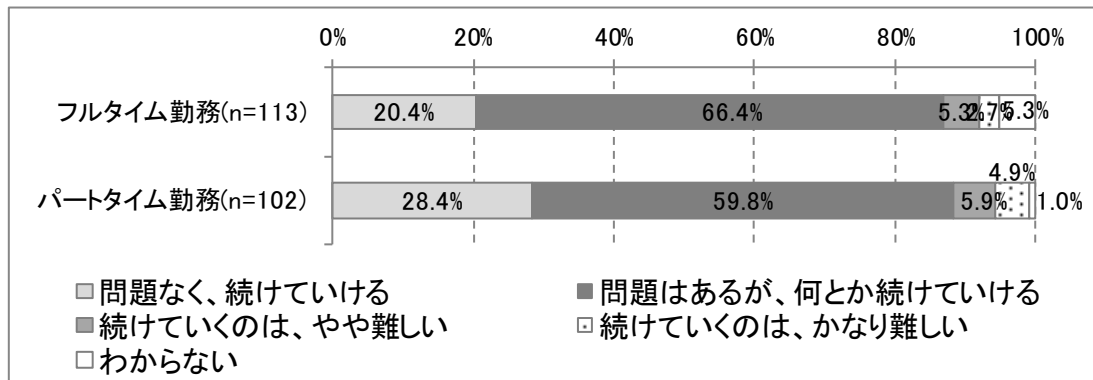
図表 2-8 就労状況別・★主な介護者が行っている介護



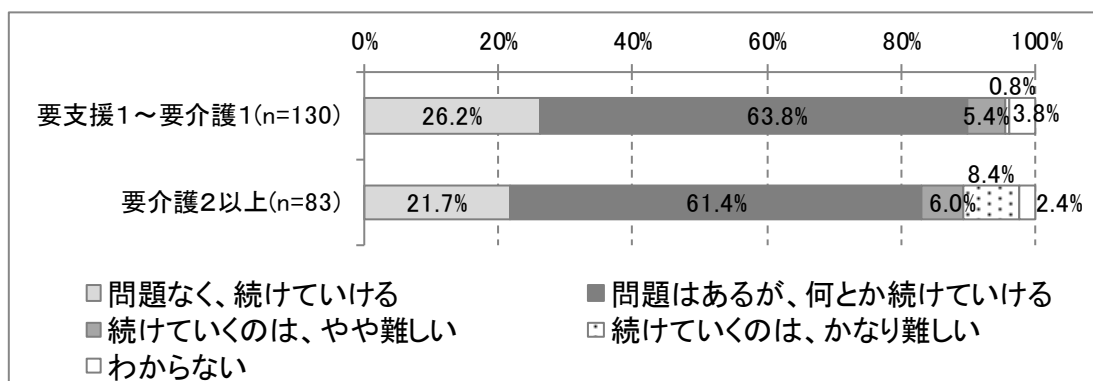
就労状況別に就労継続見込みについてみると、「問題なく、続けていける」の割合はフルタイム勤務よりパートタイム勤務の方が高く、3割弱を占めている。

要介護度別に就労継続見込みについてみると、要介護2以上では「続けていくのはかなり難しい」が1割弱を占めている。

図表 2-9 就労状況別・就労継続見込み

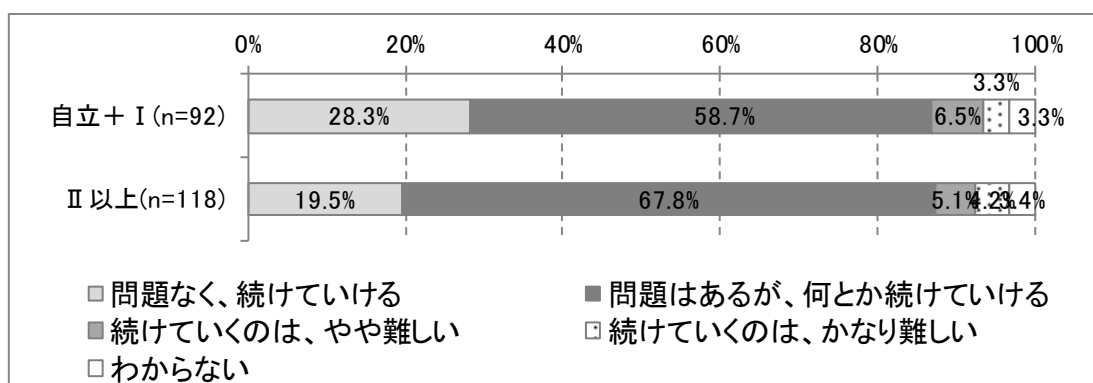


図表 2-10 要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）（+）



認知症自立度別に就労継続見込みについてみると、自立＋Ⅰでは「問題なく、続けていける」が28.3%を占めるのに対し、Ⅱ以上では19.5%にとどまっている。

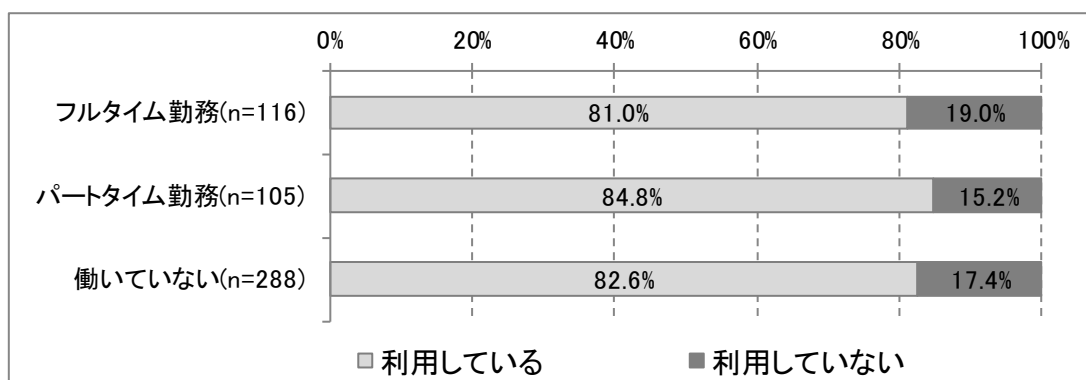
図表 2-11 認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

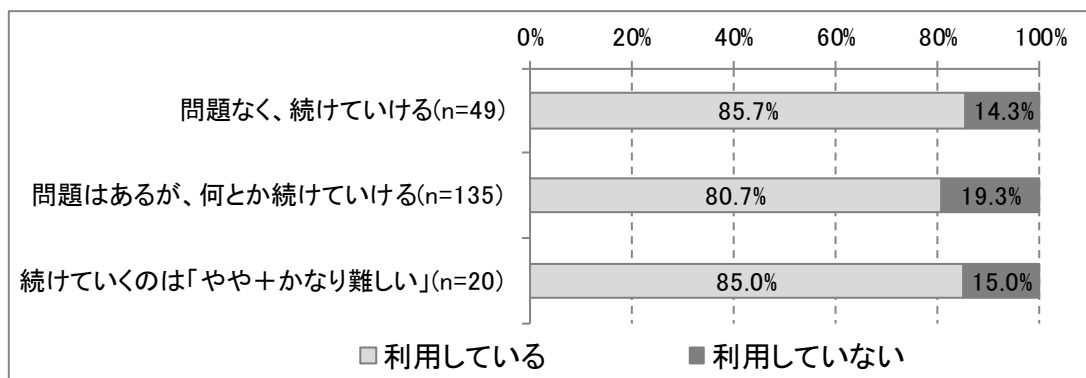
就労状況別に介護保険サービス利用の有無をみると、いずれも「利用している」が8割強となっており、就労状況により大きな差はみられない。

図表 2-12 就労状況別・★介護保険サービス利用の有無

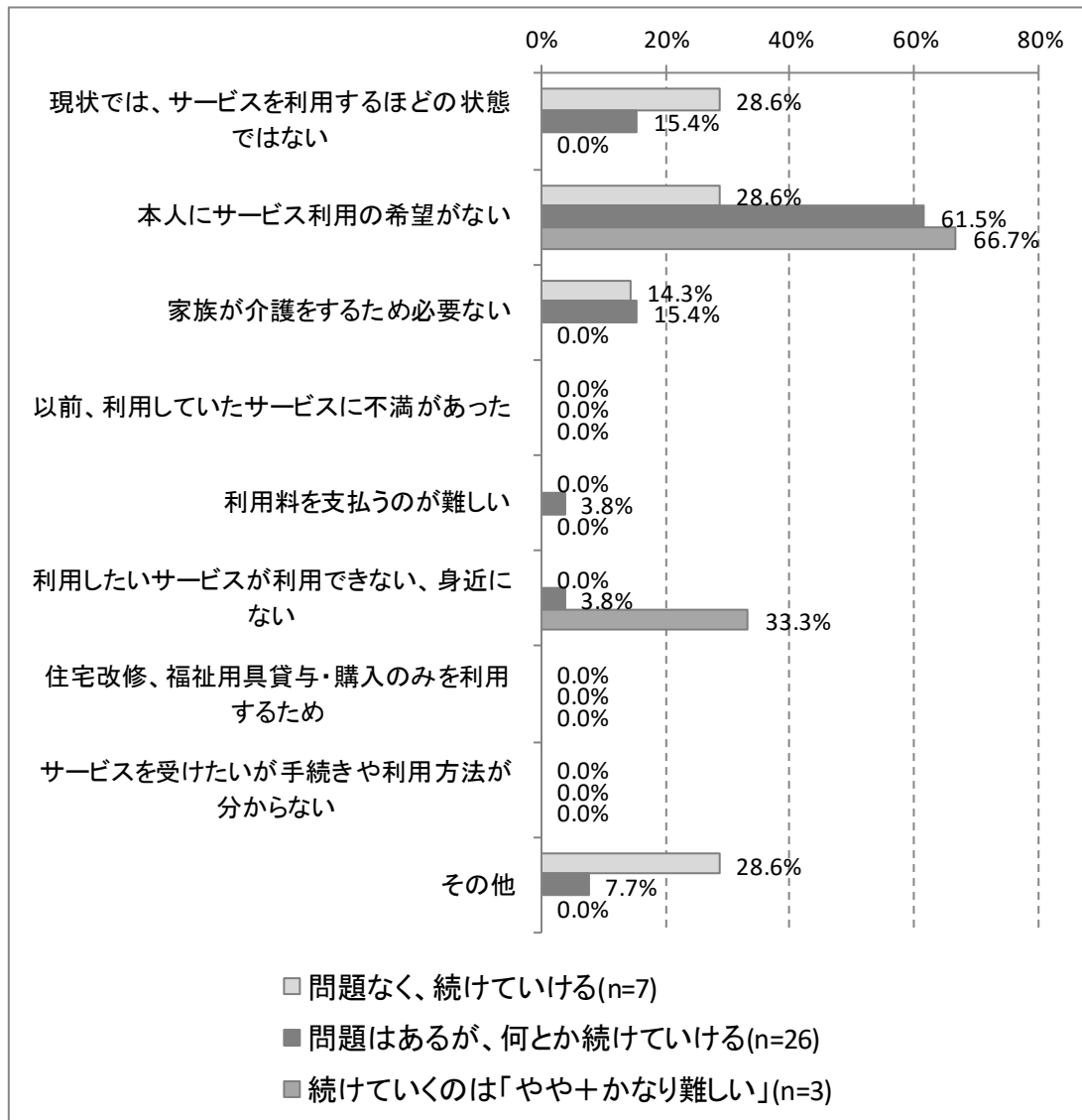


就労継続見込み別に、介護保険サービス利用の有無をみると、「問題なく、続けていける」と「続けていくのは『やや＋かなり難しい』」ではいずれも「利用している」が85%程度を占めている。

図表 2-13 就労継続見込み別・★介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）

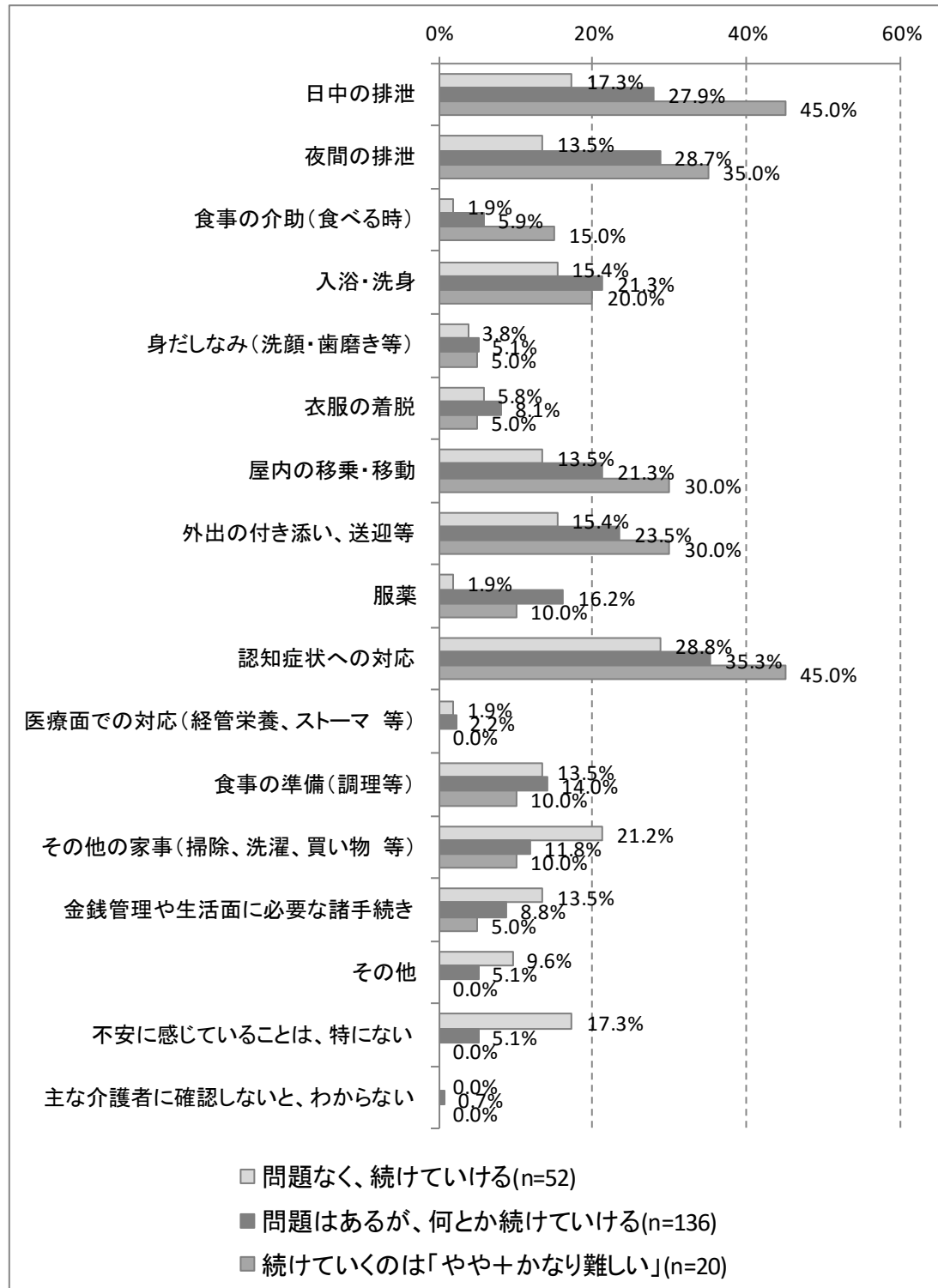


図表 2-14 就労継続見込み別・★サービス未利用の理由（フルタイム勤務＋パート勤務）



就労継続見込別に介護者が不安に感じる介護についてみると、「続けていくのは『やや＋かなり難しい』」では「日中の排泄」と「認知症状への不安」がともに 45.0%を占めている。また、「夜間の排泄」や「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」も、就労継続が困難と判断している人ほど高い割合を示している。

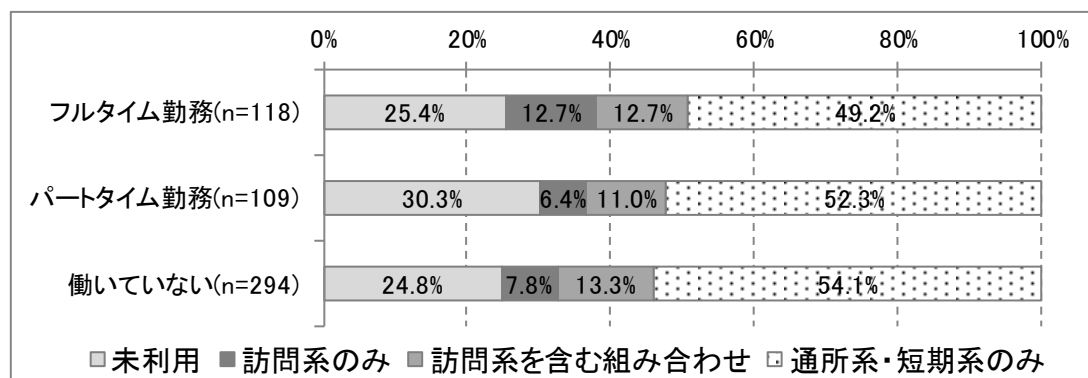
図表 2-15 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



(4)「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

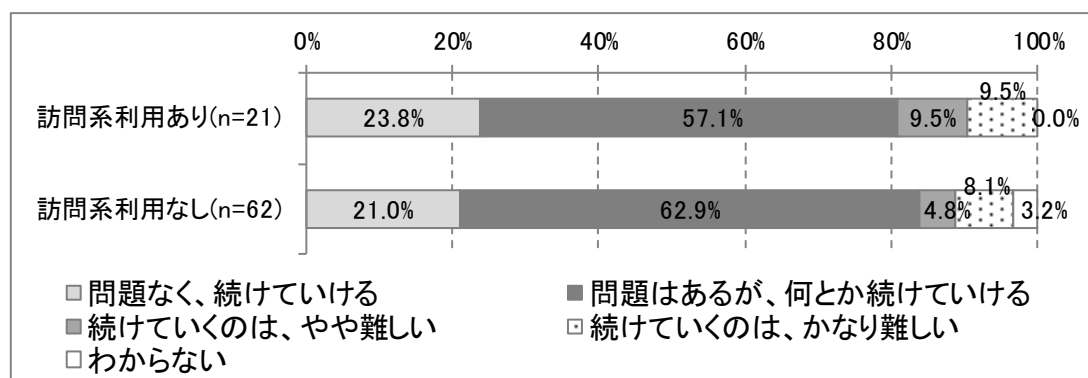
就労状況別にサービス利用の組み合わせをみると、フルタイム勤務では「訪問系のみ」が12.7%を占めており、パートタイム勤務、就労していないケースよりも高い割合を占めている。

図表 2-16 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



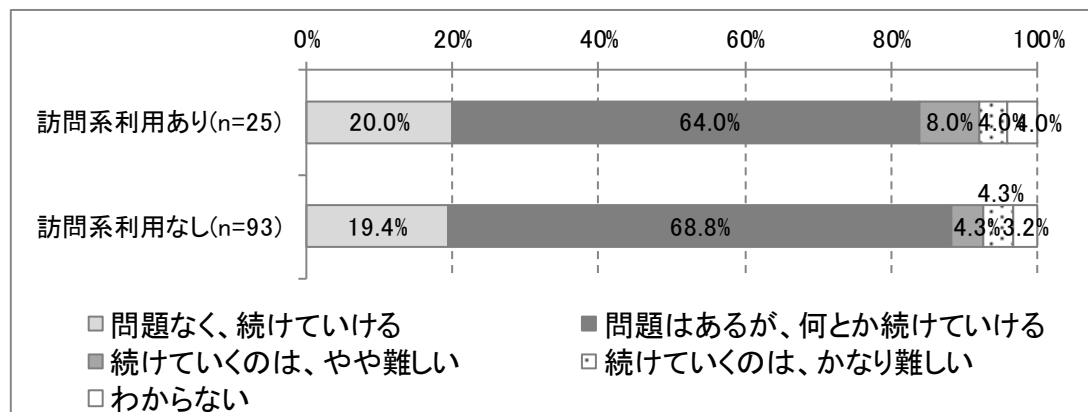
図表 2-17 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み

(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



図表 2-18 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み

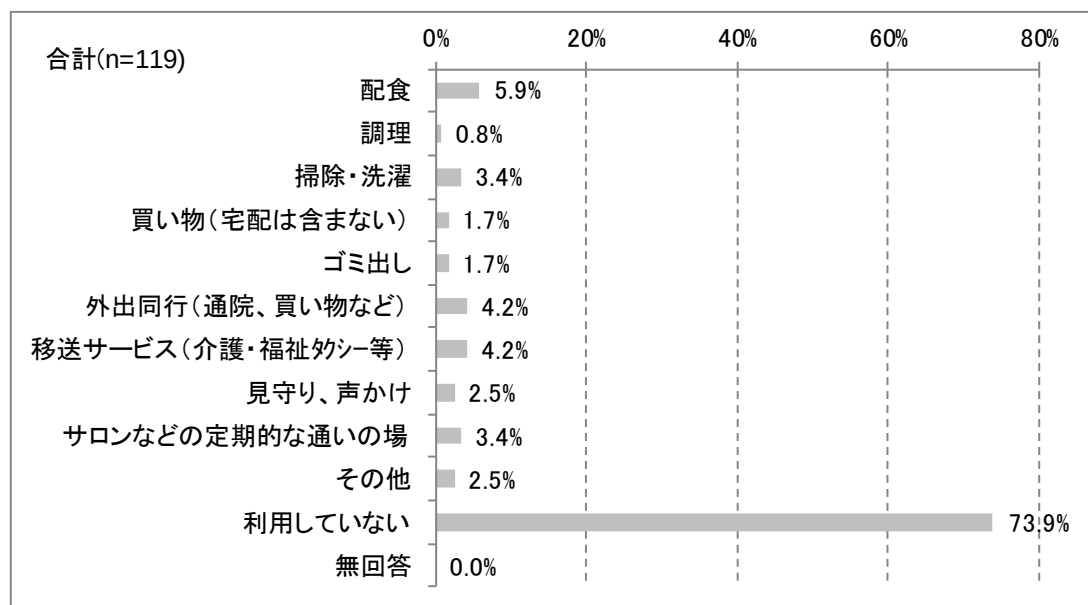
(認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



（５）就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

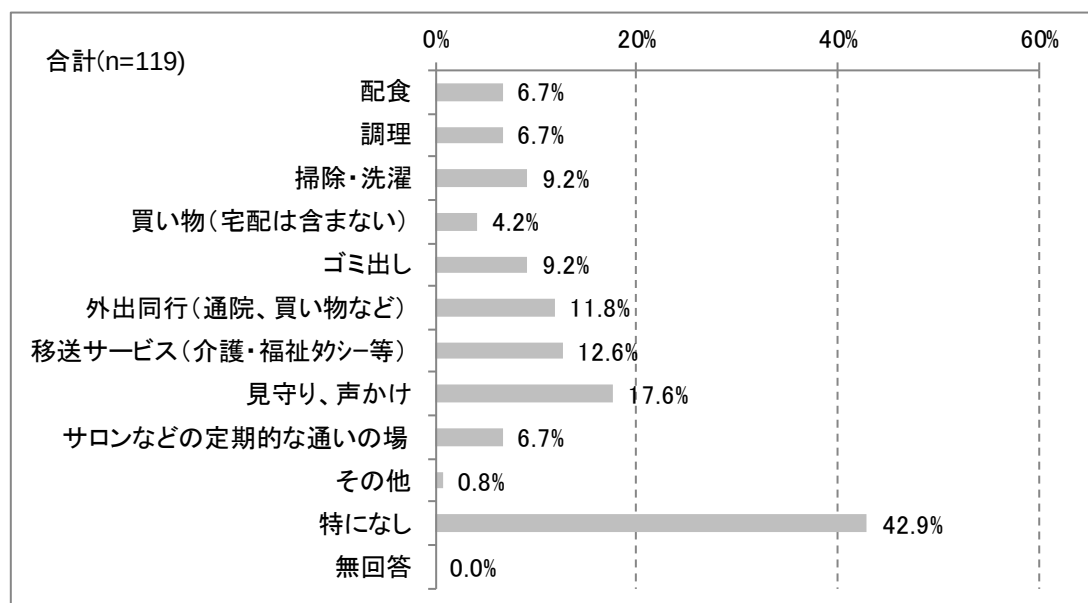
フルタイム勤務の場合における、利用している保険外の支援・サービスについてみると、「配食」が5.9%で最も多く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」・「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」などとなっている。なお、「利用していない」は73.9%となっている。

図表 2-19_1 ★利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）



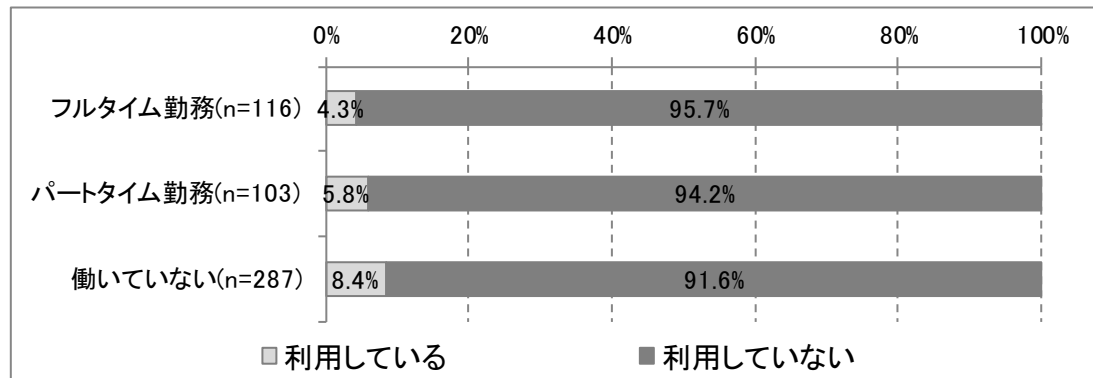
フルタイム勤務の場合における、在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについてみると、「見守り、声かけ」が17.6%で最も多く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「外出同行（通院、買い物など）」などとなっている。

図表 2-19_2 ★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）



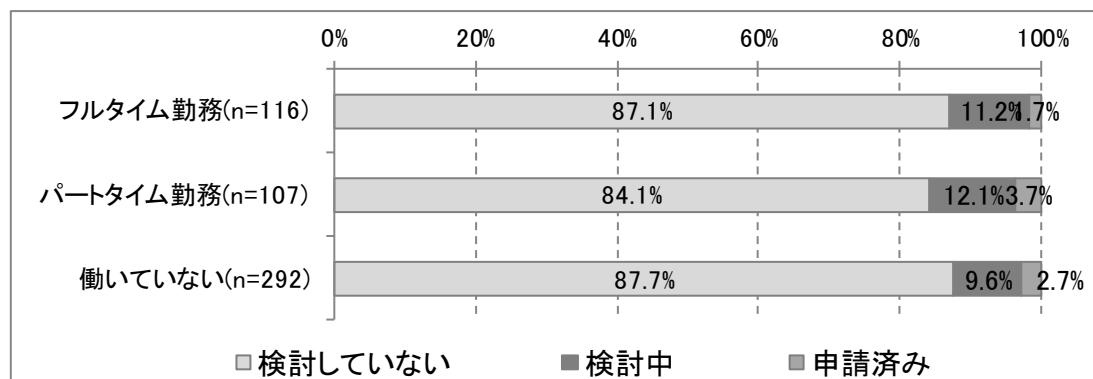
就労状況別に訪問診療の利用の有無についてみると、いずれも「利用していない」が9割台を占めており、「利用している」は1割未満となっている。

図表 2-20 就労状況別・★訪問診療の利用の有無



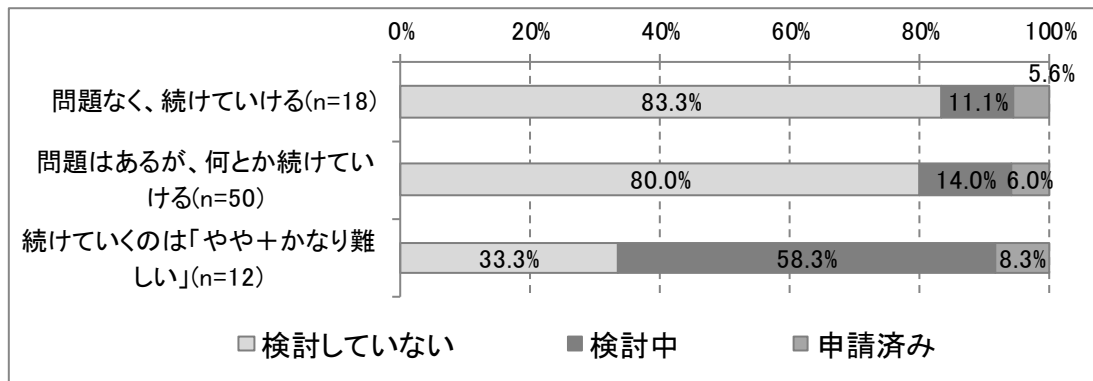
就労状況別に施設等検討の状況についてみると、いずれも「検討していない」が8割台を占めており、「検討中」は1割程度となっている。

図表 2-21 就労状況別・施設等検討の状況



就労継続見込み別に施設等検討の状況についてみると、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」では「検討していない」が8割程度を占めるのに対し、「続けていくのは『やや＋かなり、難しい』」では「検討中」が6割弱を占めている。

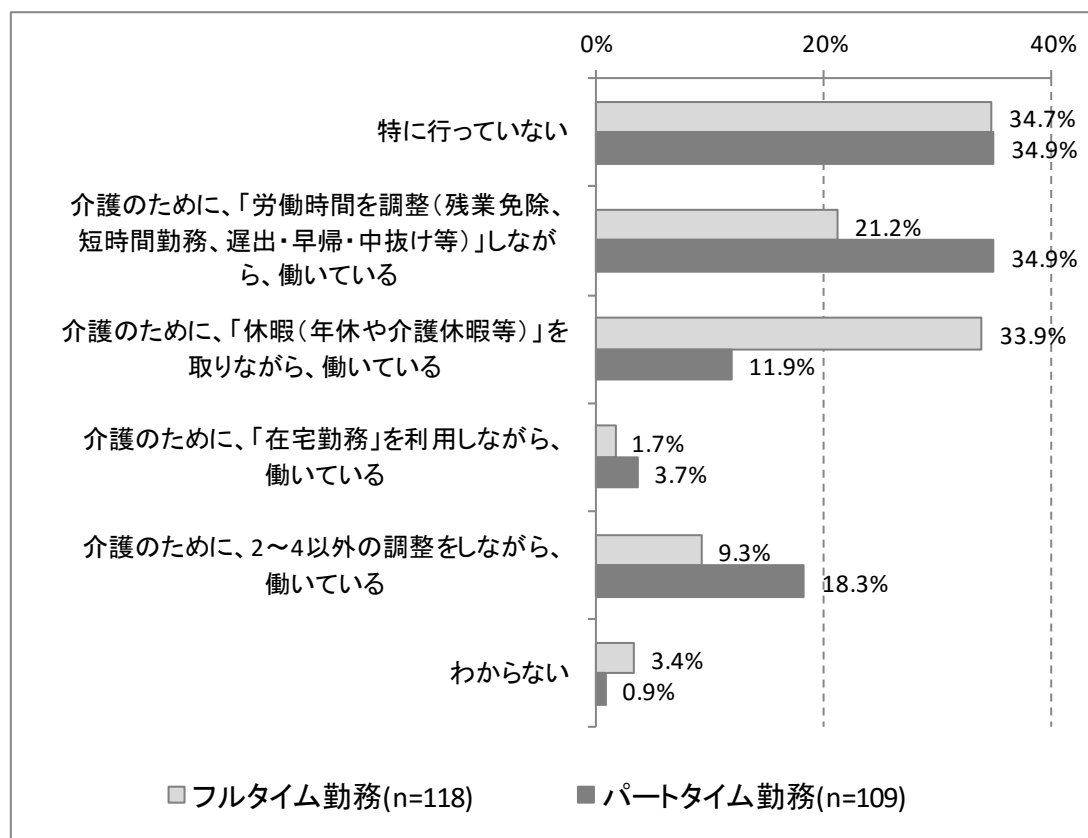
図表 2-22 就労継続見込み別・施設等検討の状況
(要介護2以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務) (**)



（６）就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

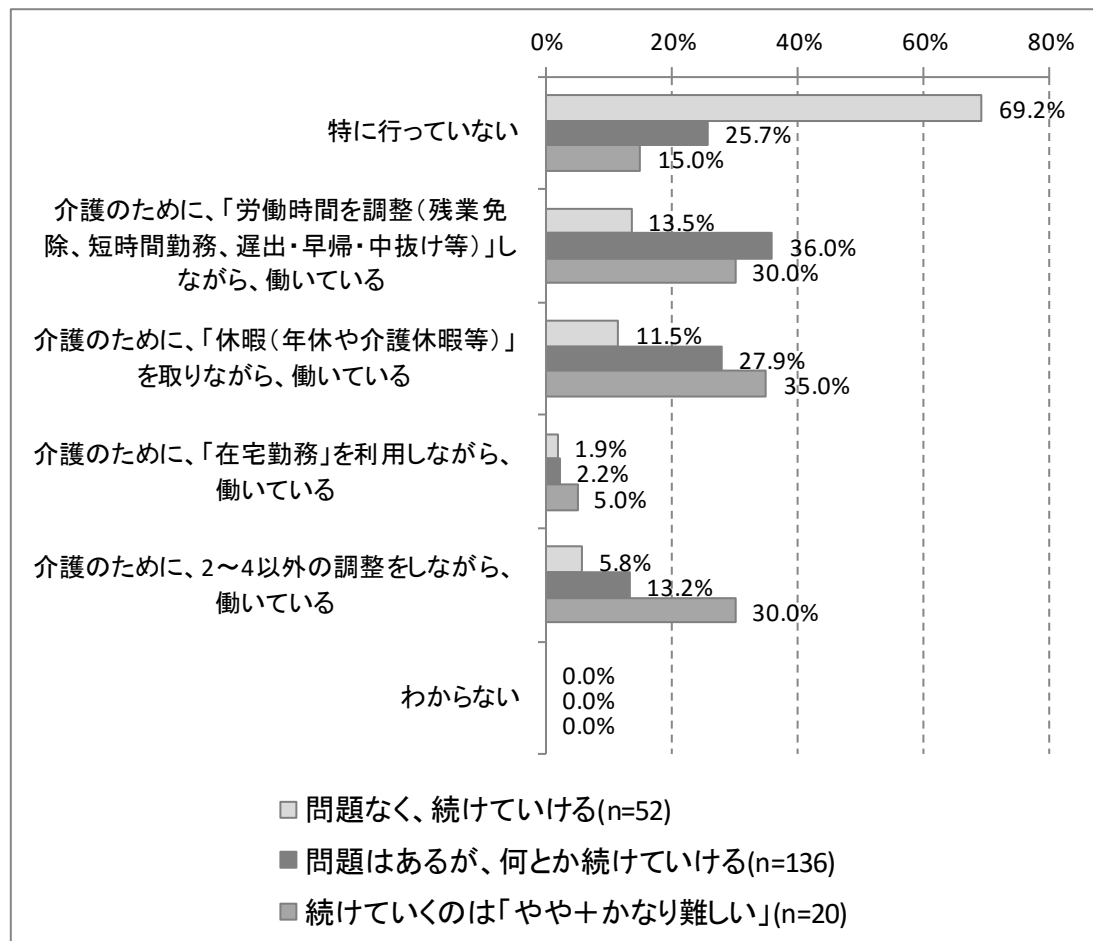
就労状況別に介護のための働き方の調整についてみると、パートタイム勤務では「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」が34.9%を占めるのに対し、フルタイム勤務では「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」が33.9%となっている。

図表 2-23 就労状況別・介護のための働き方の調整



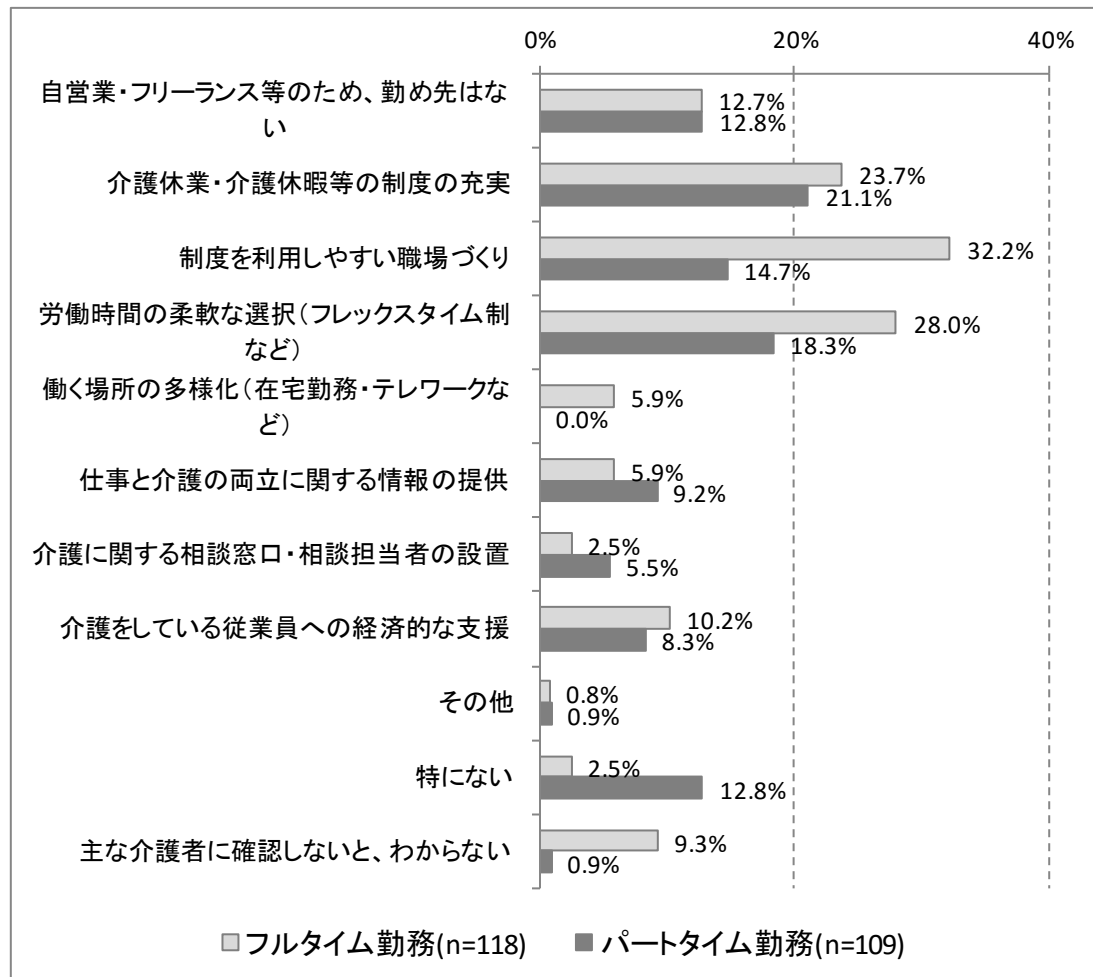
就労継続見込み別に介護のための働き方の調整についてみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が7割近くを占める。「続けていくのは『やや＋かなり難しい』」では「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら働いている」、「介護のために『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら働いている」・「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が3割以上を占めている。

図表 2-24 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



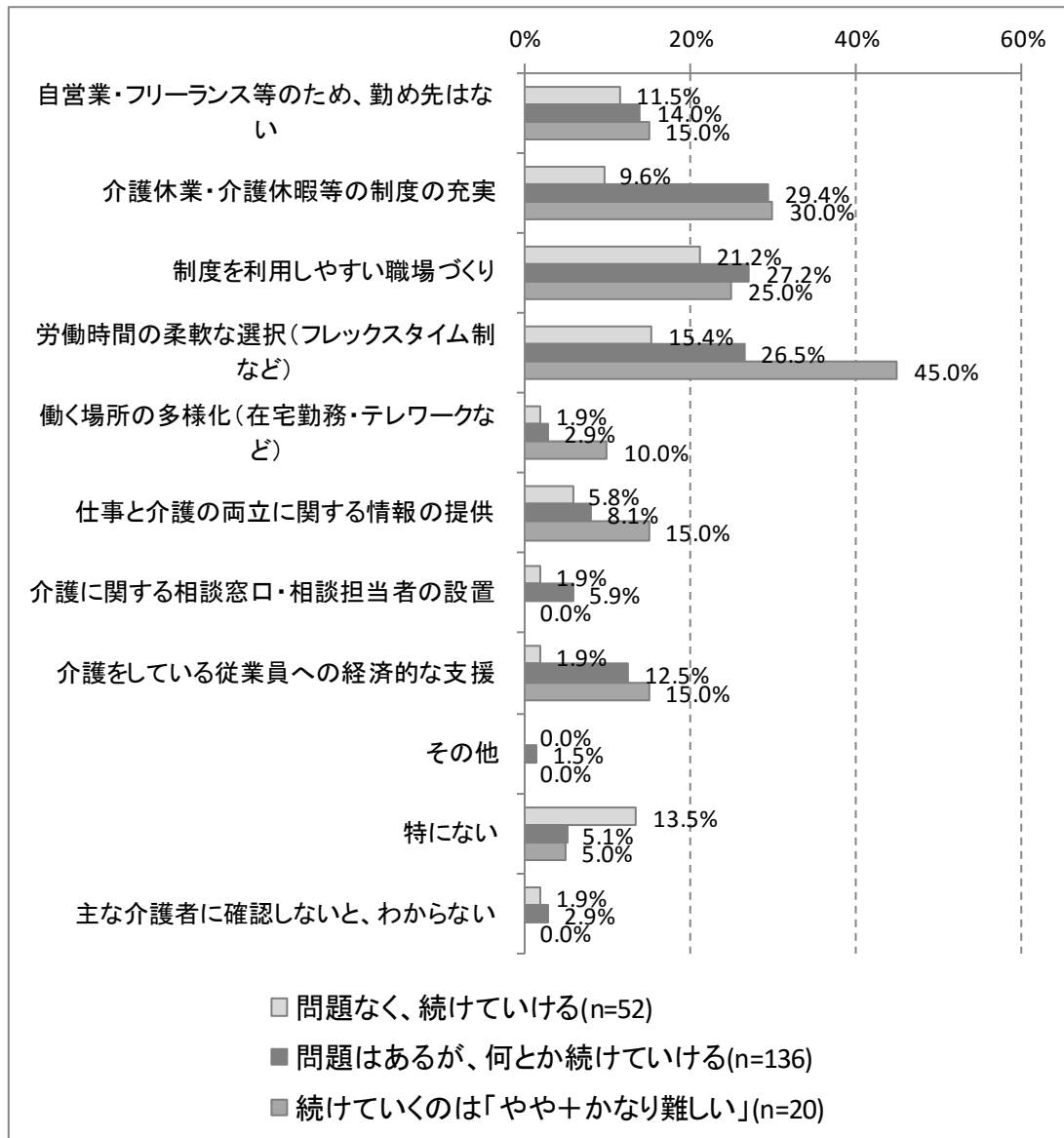
就労状況別に効果的な勤め先からの支援についてみると、フルタイム勤務では「制度を利用しやすい職場づくり」、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」などが比較的高い割合を占めている。

図表 2-25 就労状況別・★効果的な勤め先からの支援



就労継続見込み別に、効果的な勤め先からの支援についてみると、「続けていくのは難しい」では「労働時間の柔軟な選択（フレックス制など）」が 45.0%と、他に比べて高くなっている。

図表 2-26 就労継続見込み別・★効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）

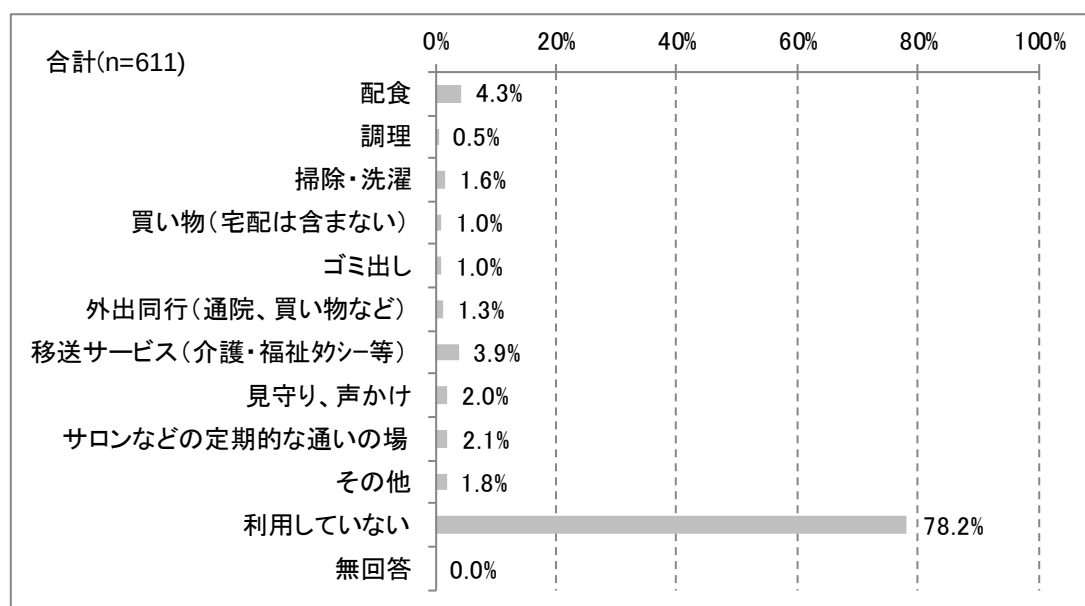


3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

(1) 保険外の支援・サービスの利用状況

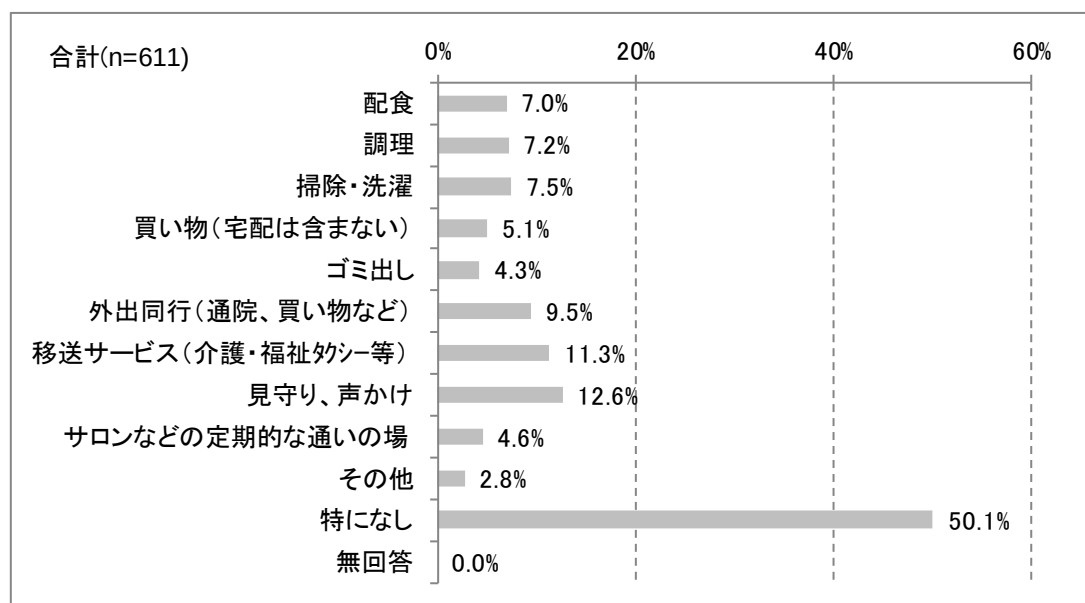
保険外の支援・サービスの利用状況についてみると、「利用していない」が78.2%を占めている。最も利用している割合が高いのは「配食」で4.3%、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」で3.9%となっている。

図表 3-1 ★保険外の支援・サービスの利用状況



在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについては、「見守り、声かけ」が12.6%で最も多く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」(11.3%)、「外出同行（通院、買い物など）」(9.5%) などとなっている。なお、「特になし」が50.1%を占めている。

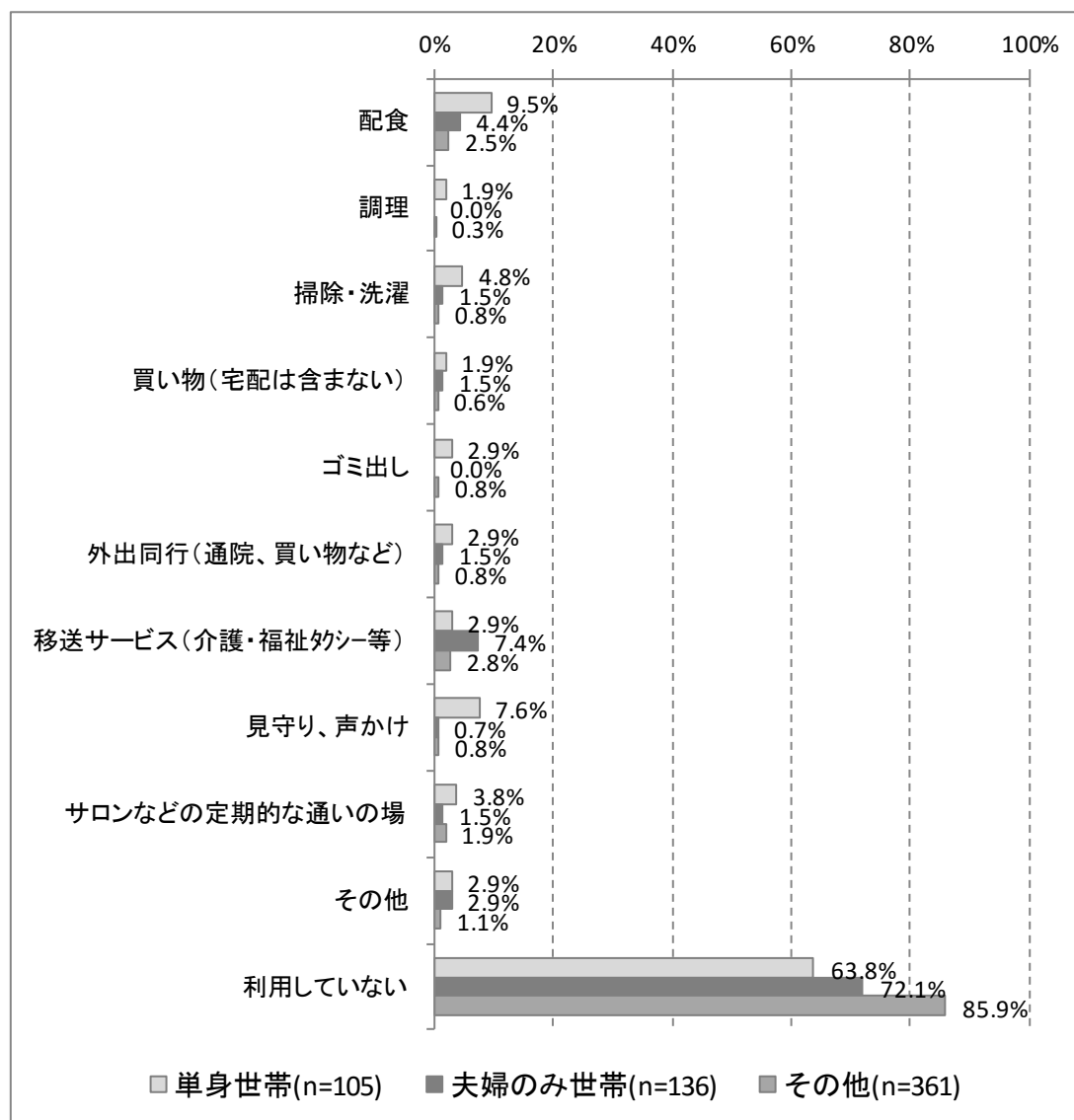
図表 3-2 ★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



（２）世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

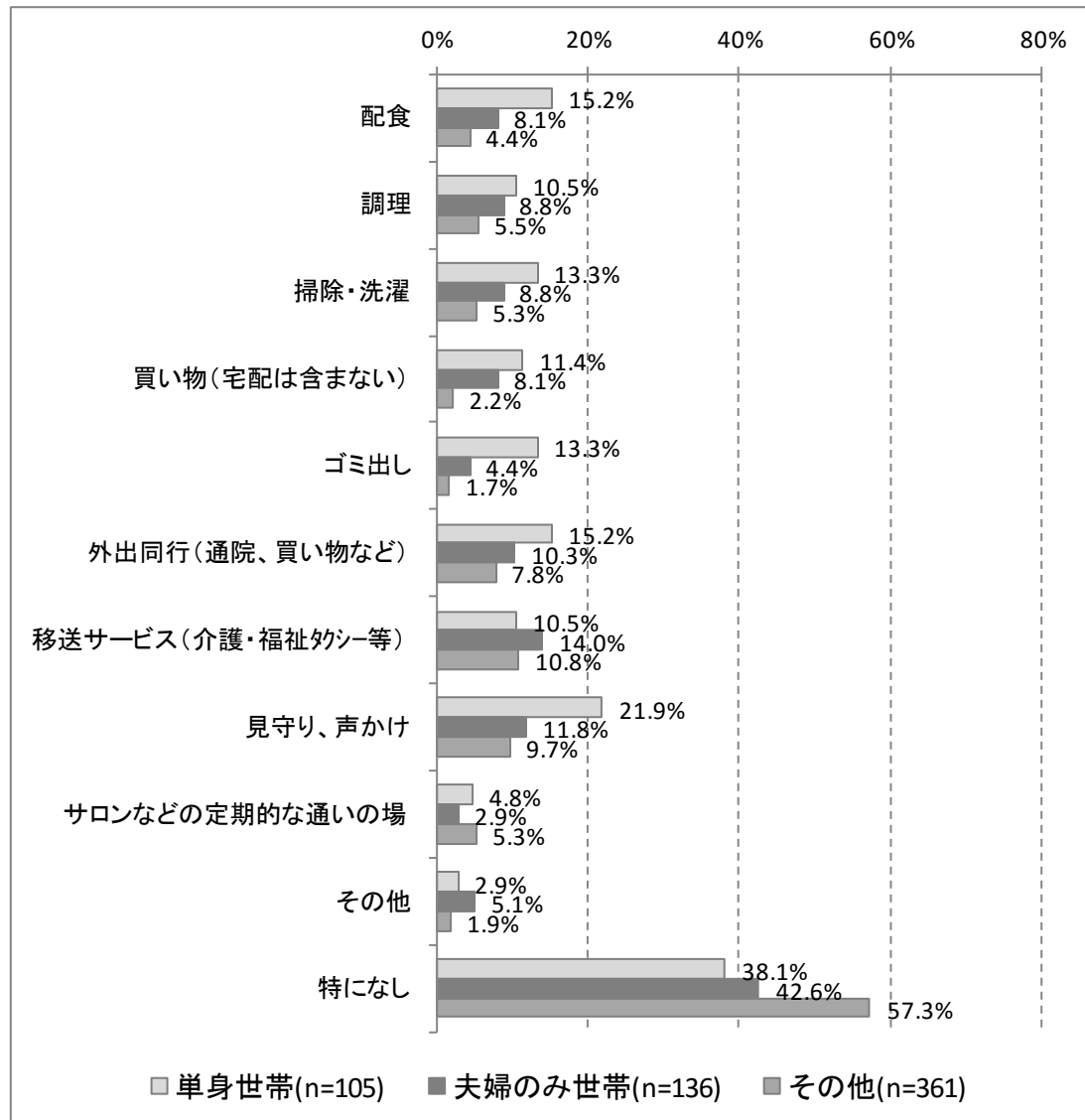
世帯類型別に保険外の支援・サービスの利用状況をみると、単身世帯では「配食」の割合が他と比べて高くなっており、1割近くを占めている。「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」は夫婦のみ世帯で最も高くなっている。

図表 3-3 世帯類型別・★保険外の支援・サービスの利用状況



在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについてみると、単身世帯では「見守り、声かけ」が21.9%で最も高くなっており、夫婦のみ世帯では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が14.0%で最も高くなっている。

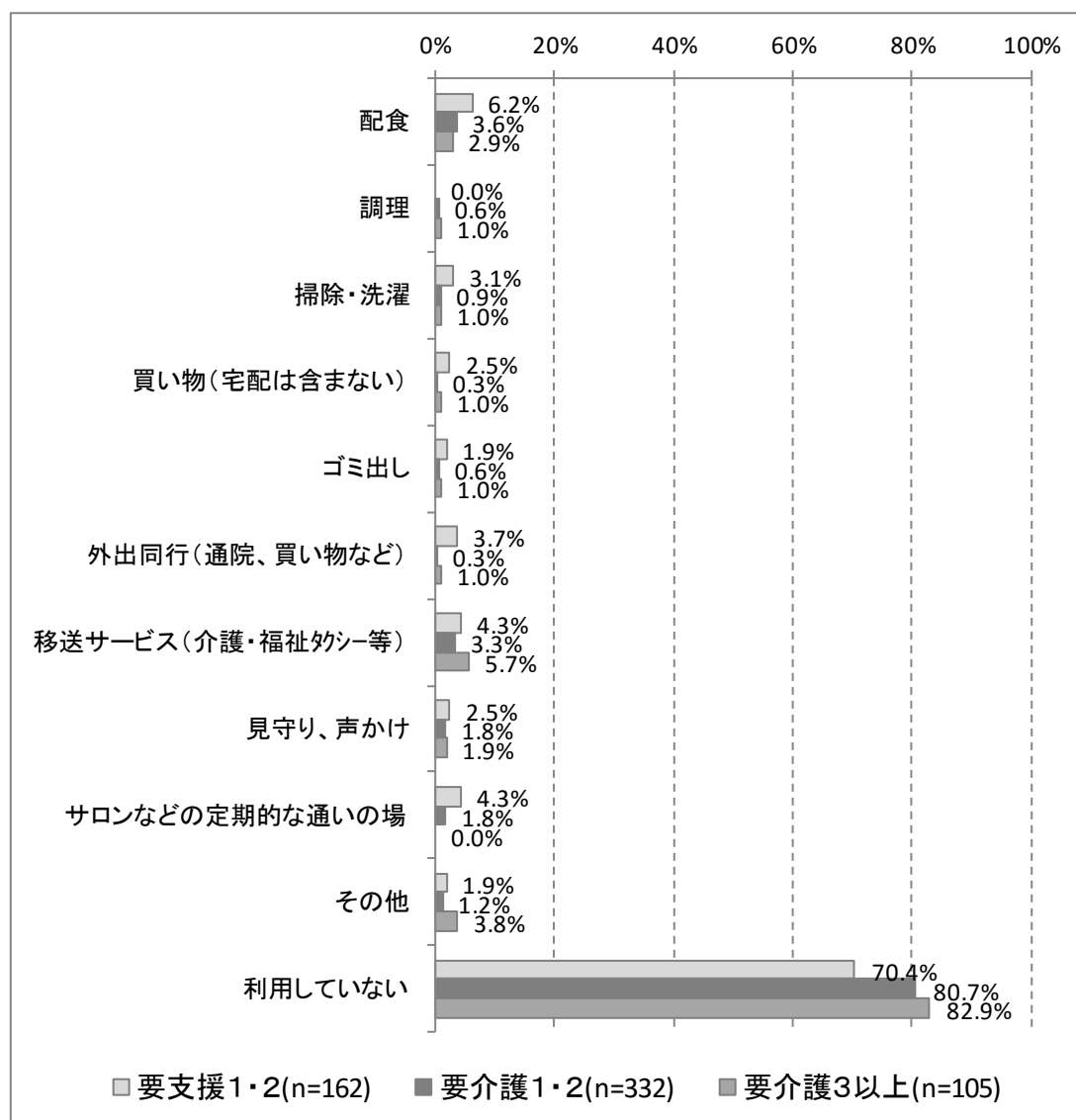
図表 3-4 世帯類型別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」

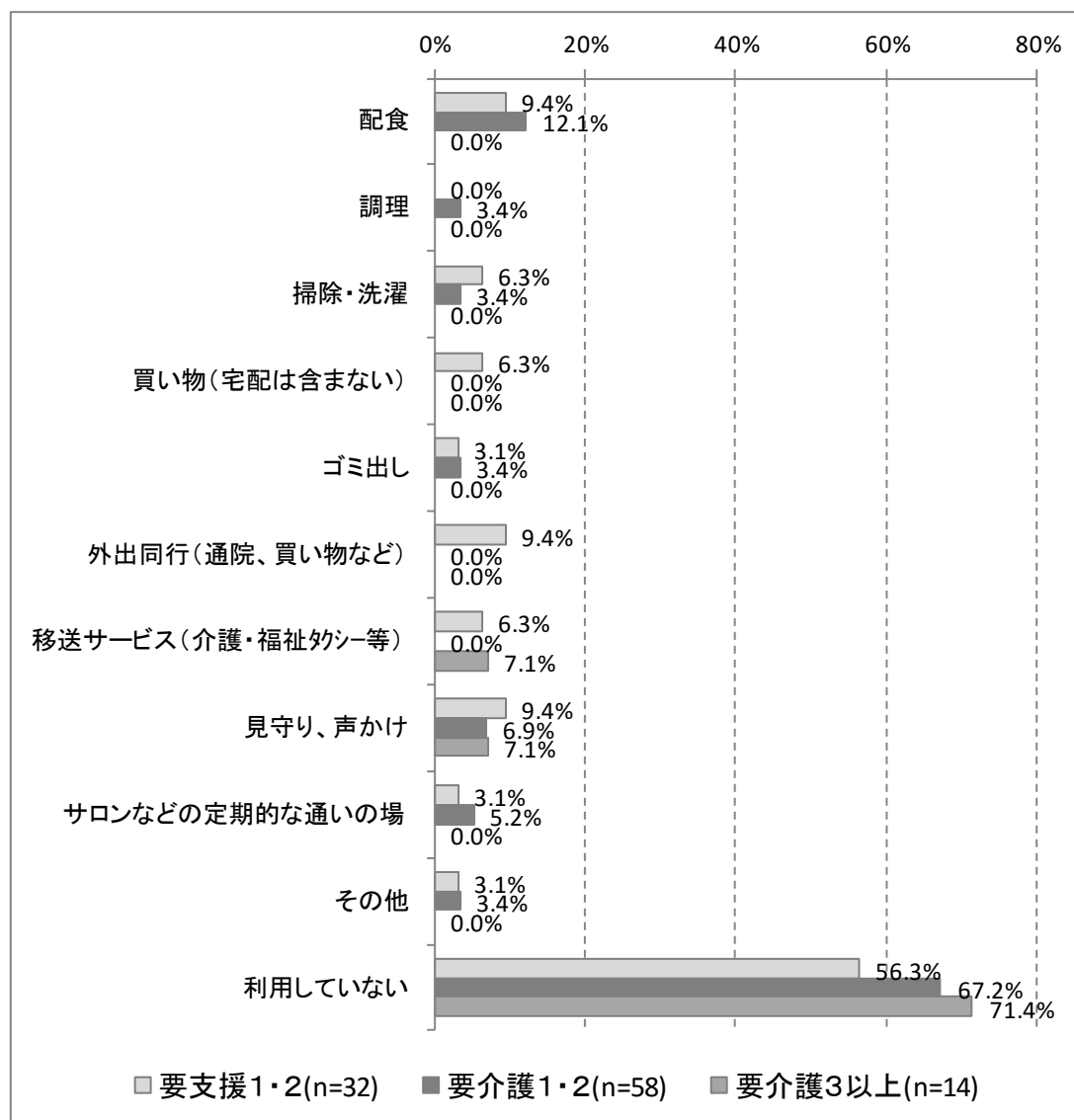
保険外の支援・サービスの利用状況について、要介護度別にみると、要支援1・2では「配食」が6.3%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」・「サロンなどの定期的な通いの場」が4.3%を占めている。

図表 3-5 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況

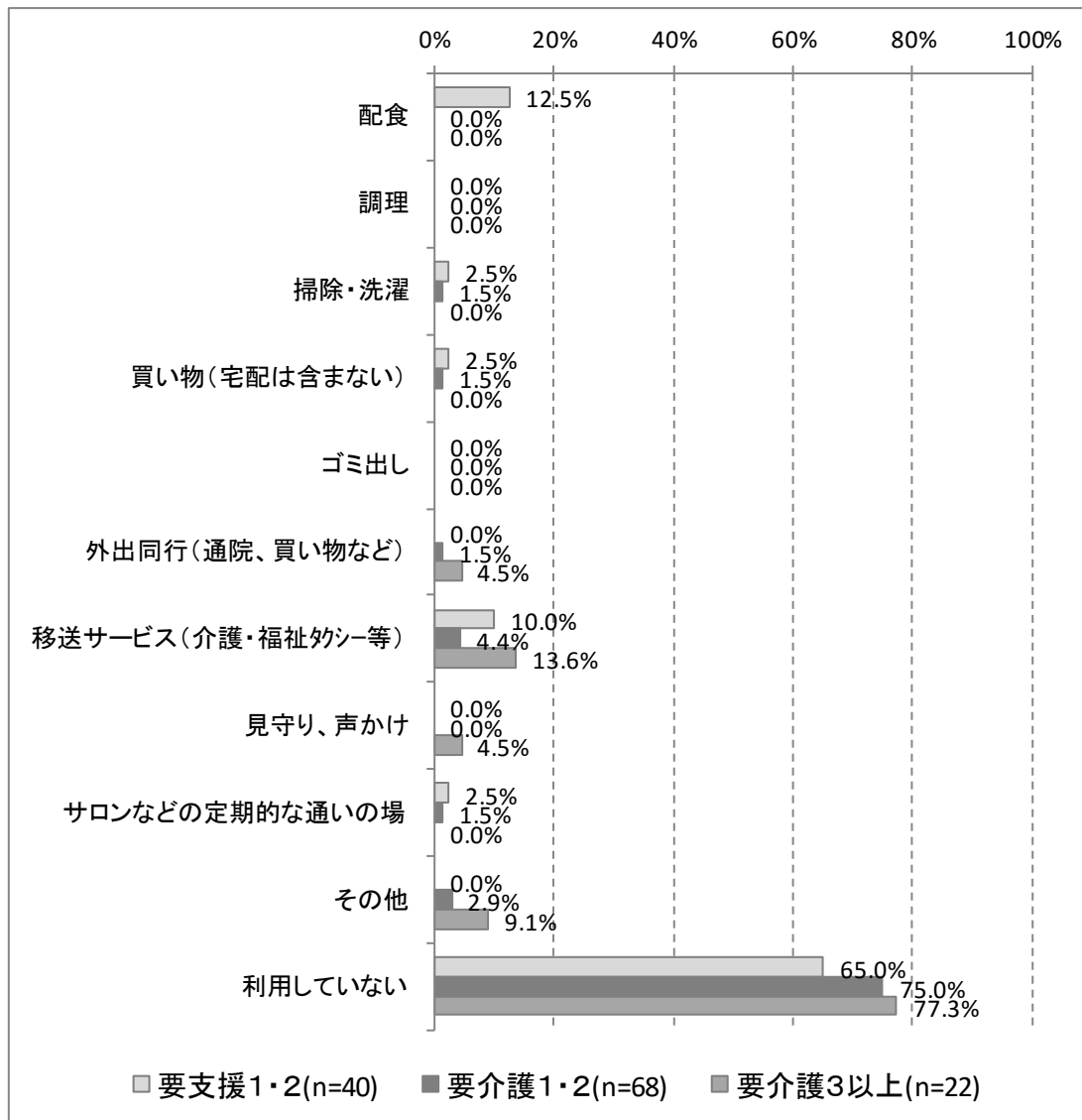


単身世帯のみでみると、要介護1・2では「配食」が12.1%を占めている。

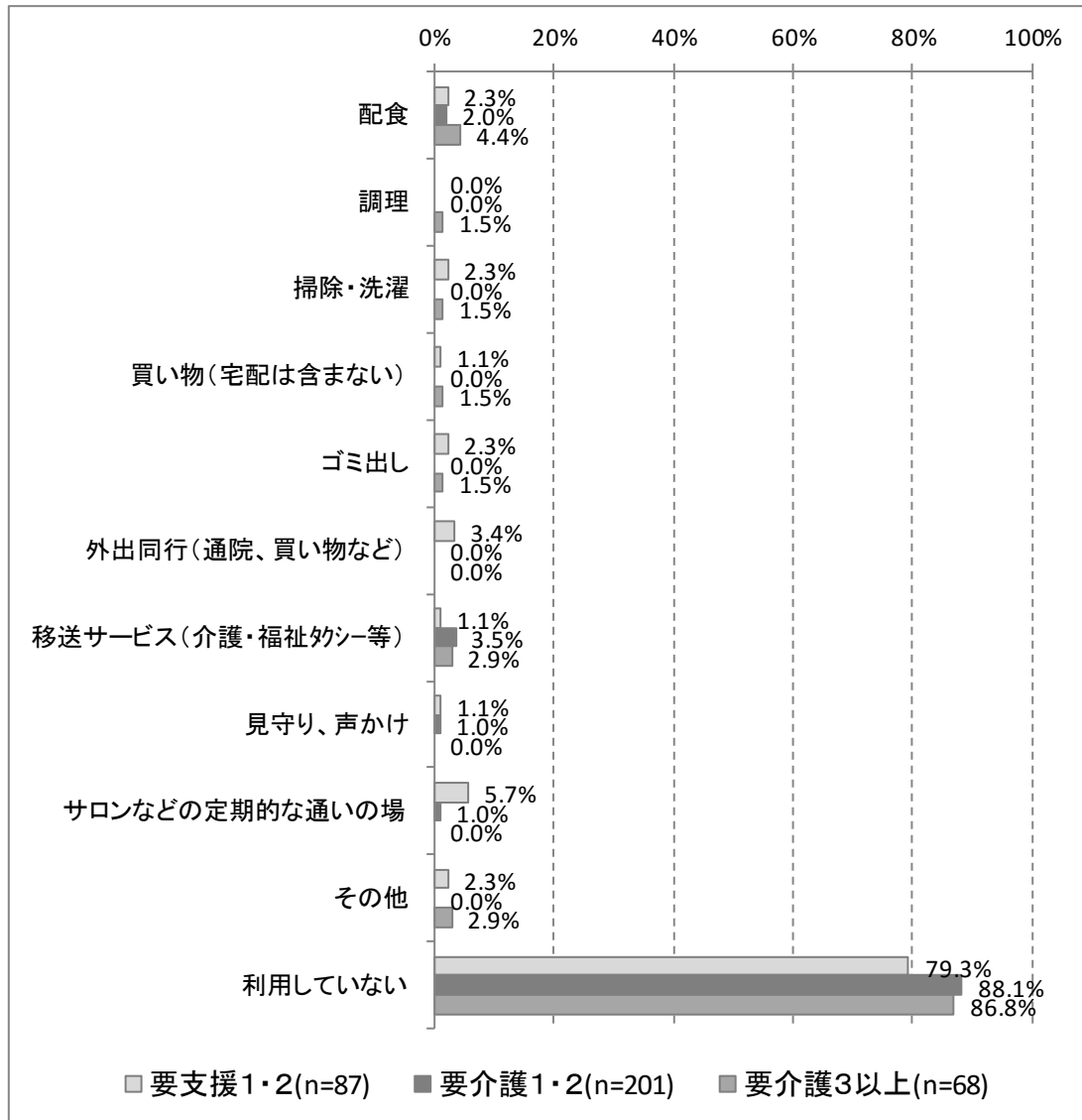
図表 3-6 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）



図表 3-7 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）



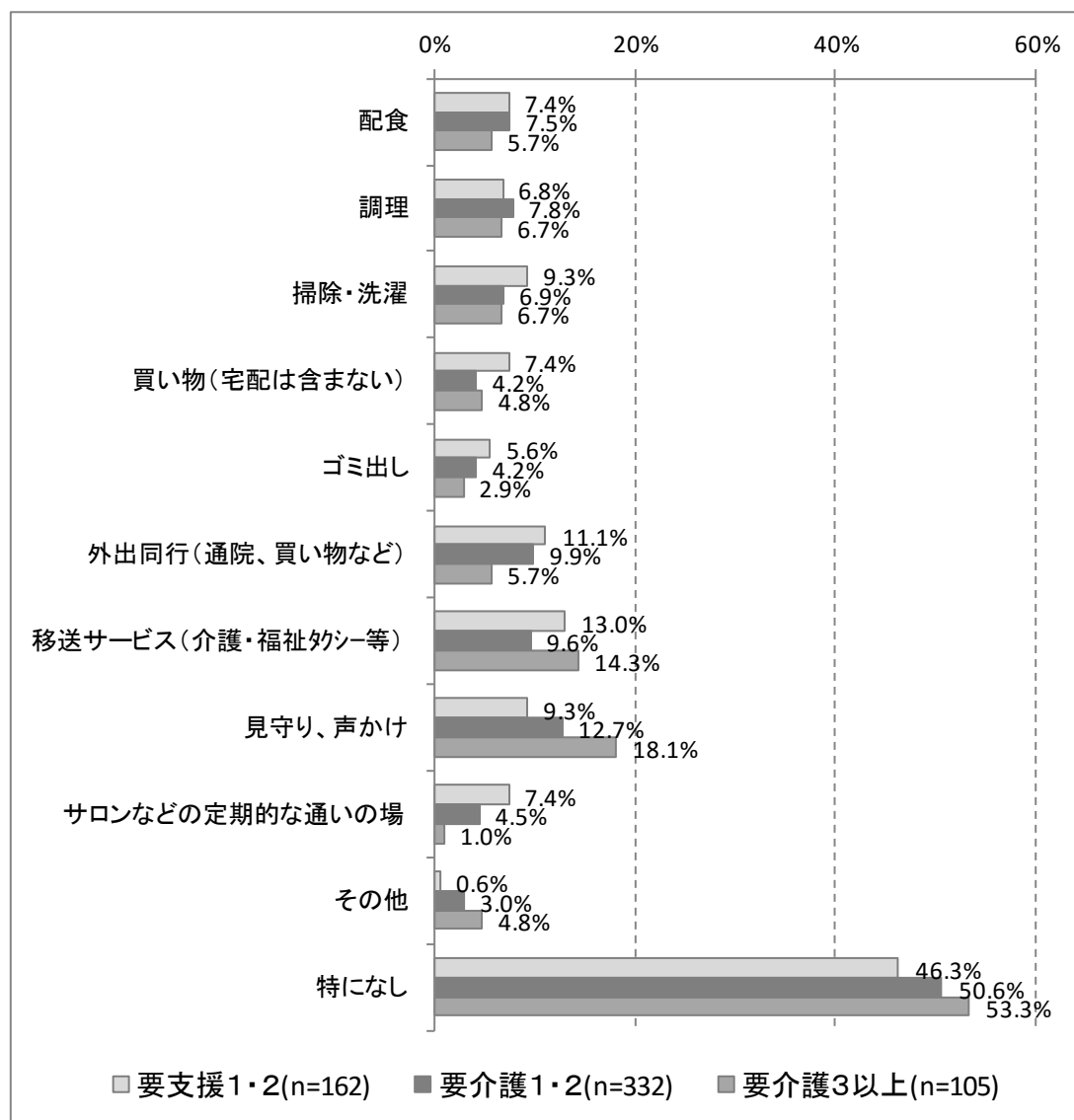
図表 3-8 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）



(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

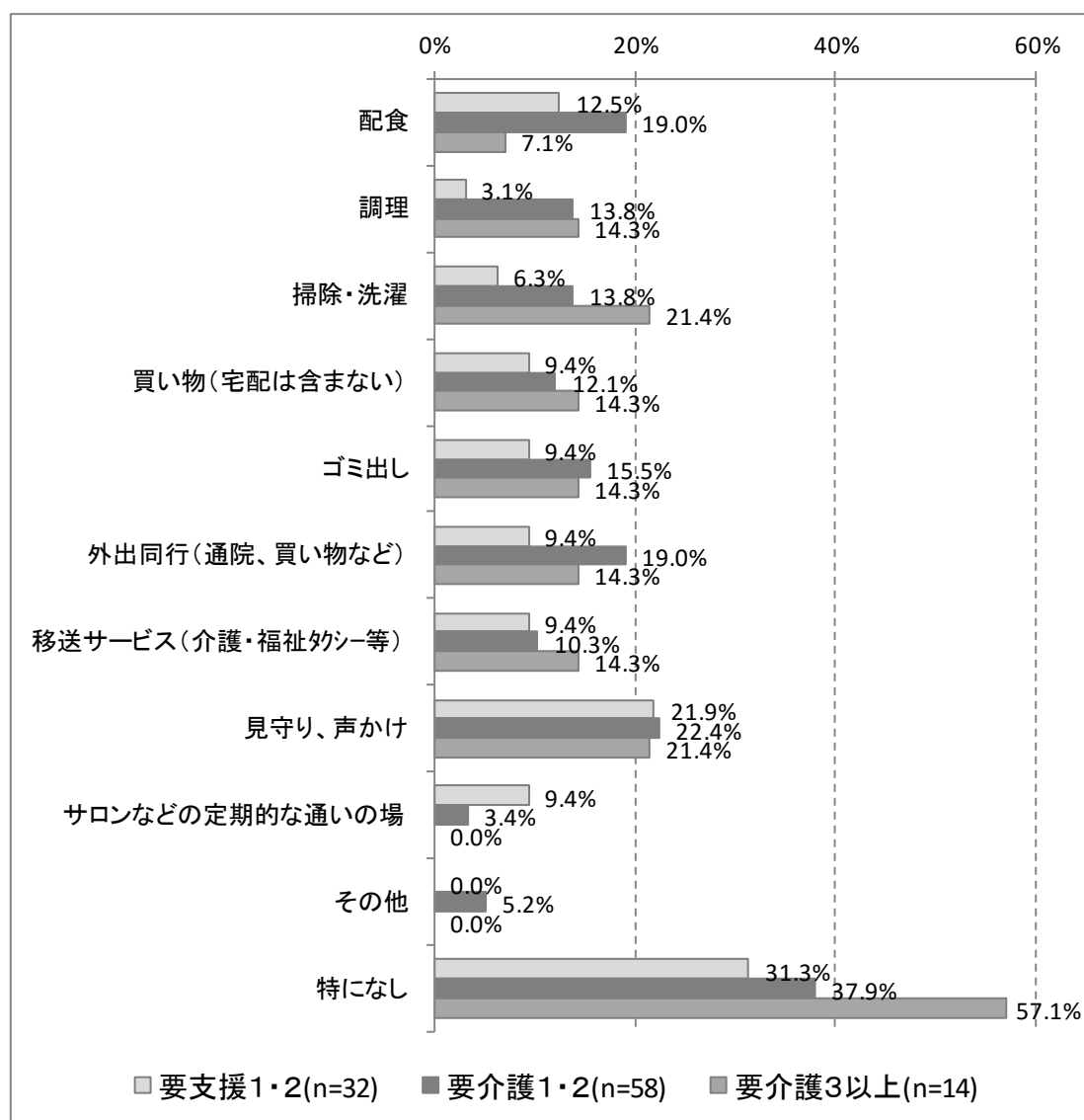
在宅生活の継続に必要と感じるサービスについて、要介護度別にみると、「外出同行(通院、買い物など)」と「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」、「見守り、声かけ」の割合が他と比べて高くなっていることがわかる。「外出同行」では要介護度が上昇するにつれて割合が低下するのに対し、「見守り、声かけ」は高くなる傾向がうかがえる。

図表 3-9 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



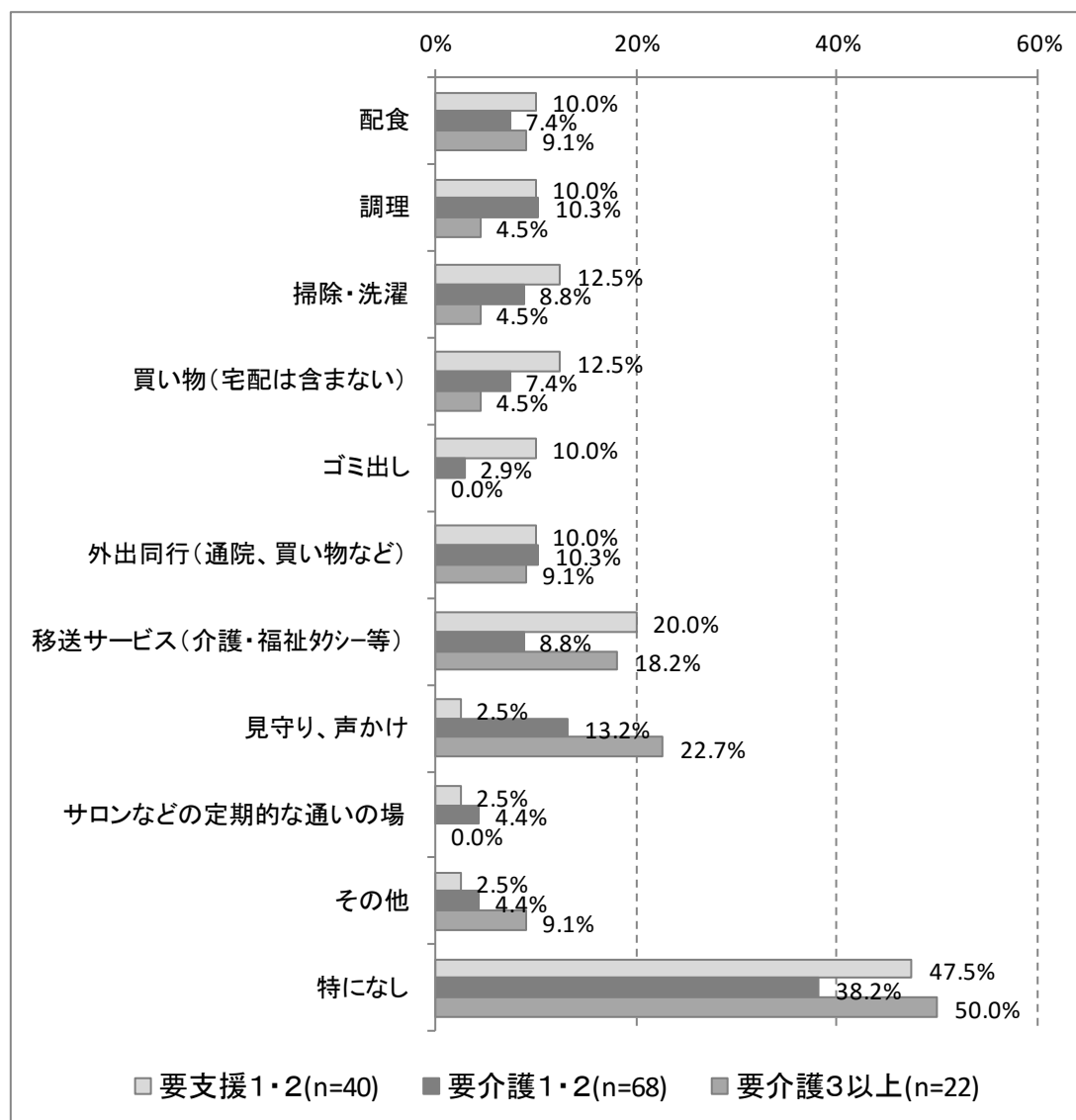
単身世帯でみると、どの属性でも「見守り、声かけ」の割合が最も高くなっている。

図表 3-10 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



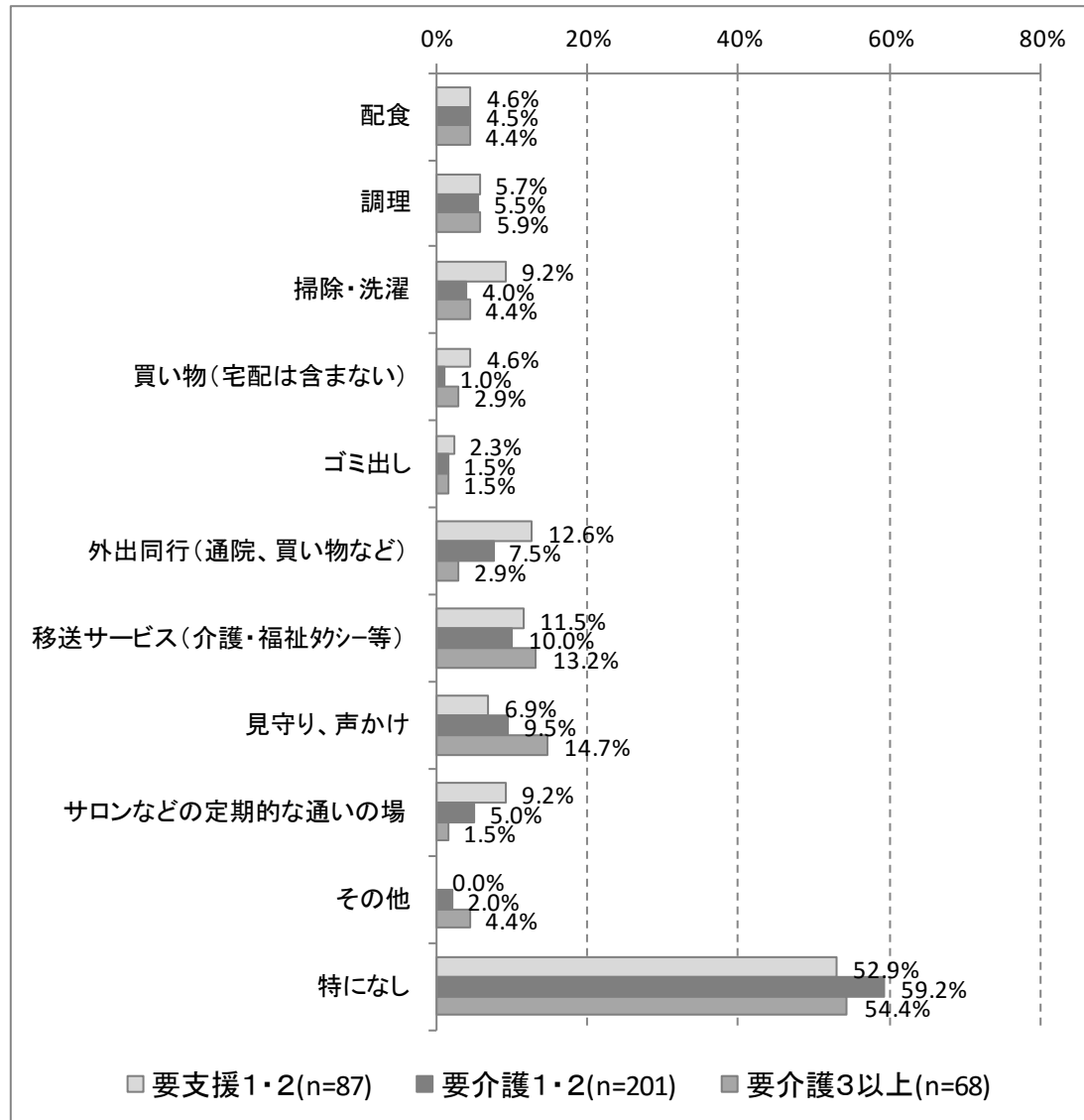
夫婦のみ世帯でみると、要介護3以上では「見守り、声かけ」のほか、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」がともに2割程度を占めている。要支援1・2では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」2割を占めている。

図表 3-11 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



その他世帯では、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」がいずれも1割以上を占めている。

図表 3-12 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）



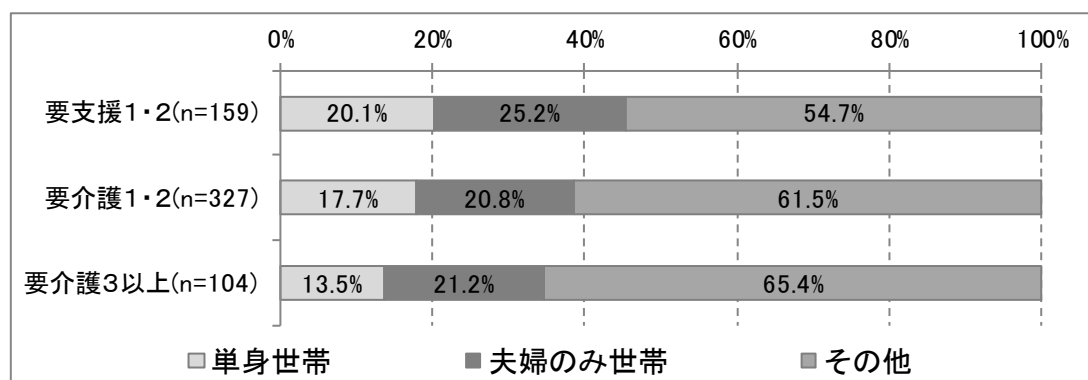
4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

(1) 要介護度と世帯類型

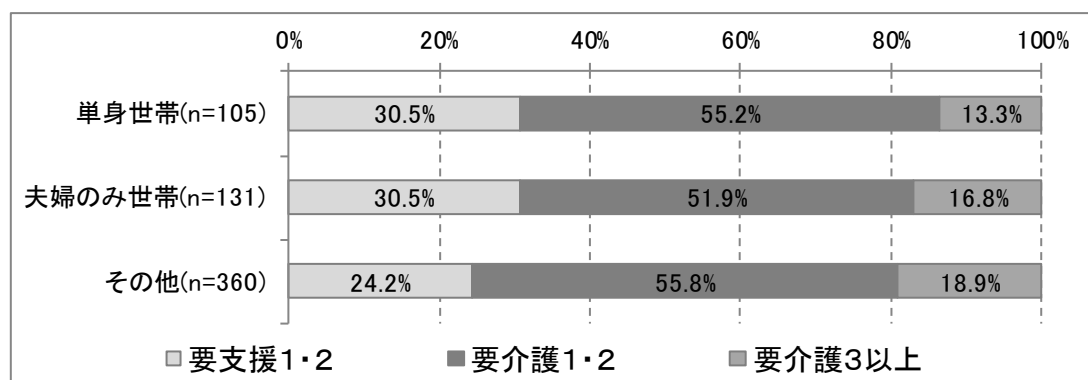
要介護度別に世帯類型をみると、要介護度が上昇するにつれて「単身世帯」の割合が低くなり、「その他」の割合が高くなる傾向がうかがえる。

世帯類型別に要介護度をみると、単身世帯と夫婦のみ世帯では「要支援1・2」が3割得程度となっているのに対し、その他では2割強にとどまっている。

図表 4-1 要介護度別・世帯類型



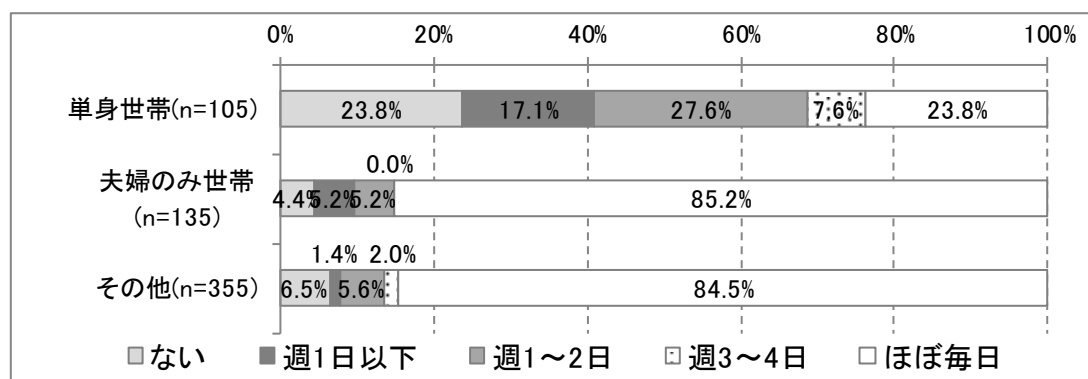
図表 4-2 世帯類型別・要介護度



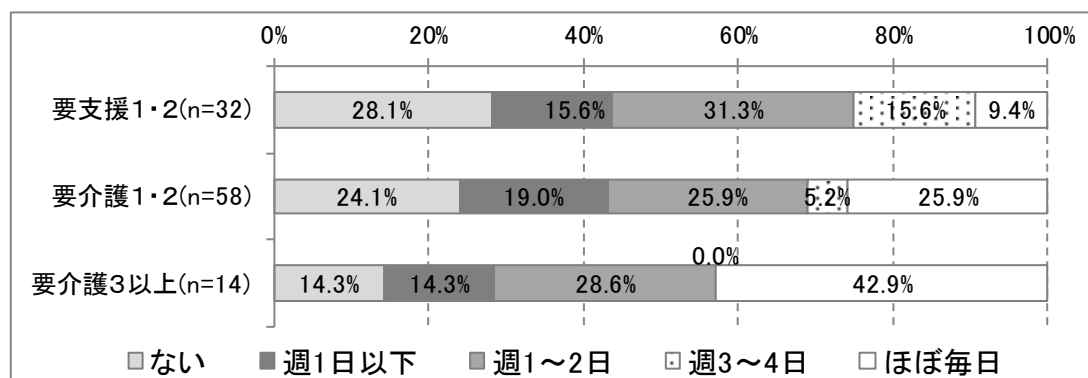
(2)「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

世帯類型別に、家族等による介護の頻度をみると、夫婦のみ世帯とその他では「ほぼ毎日」が8割台半ばを占めるのに対し、単身世帯では「週1～2日」が3割弱、「ない」が2割強を占める。

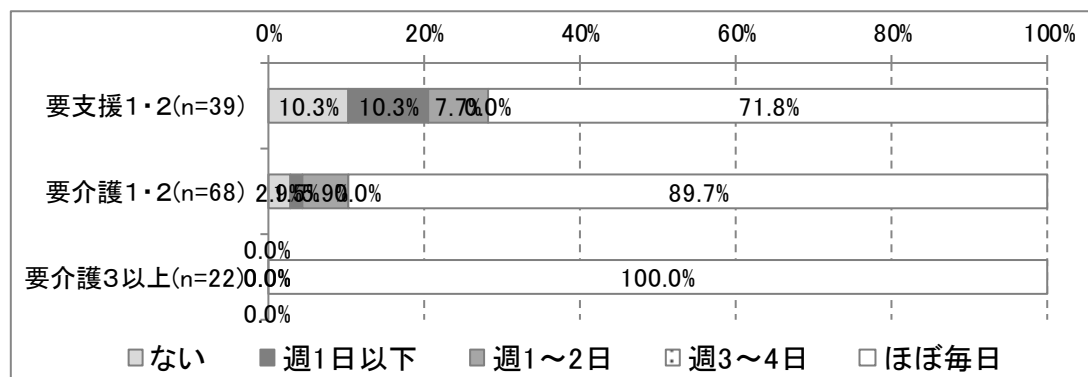
図表 4-3 世帯類型別・家族等による介護の頻度 (***)



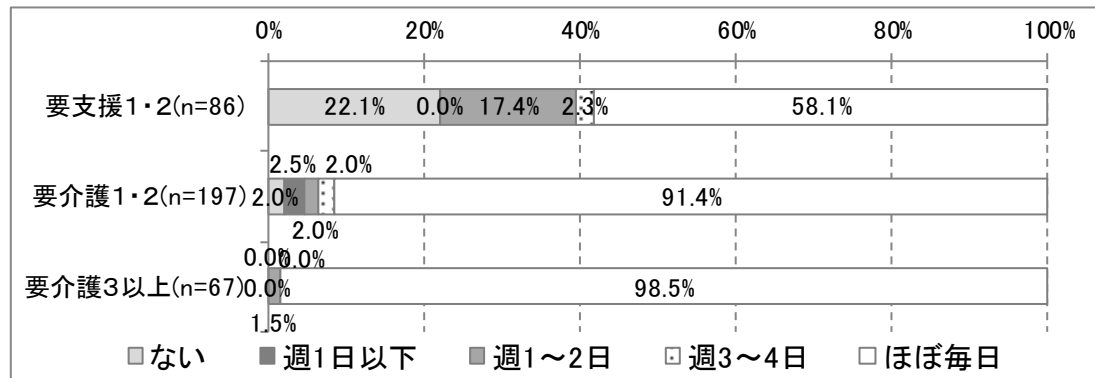
図表 4-4 要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）



図表 4-5 要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）(*)



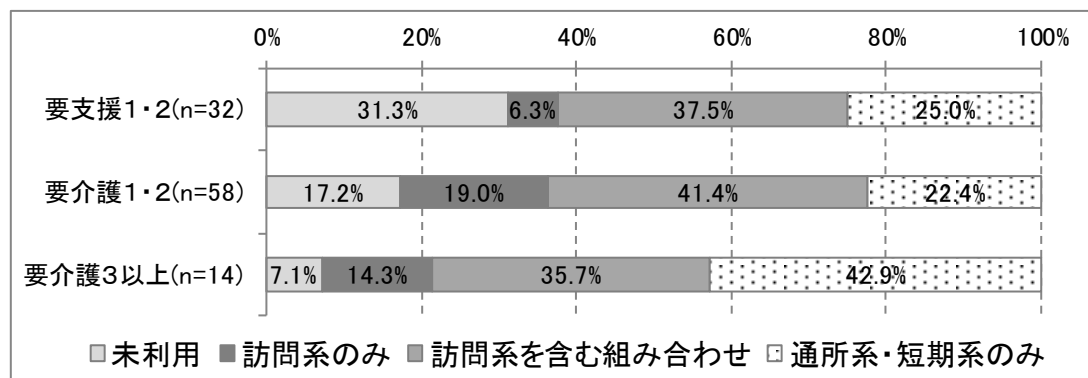
図表 4-6 要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）（***）



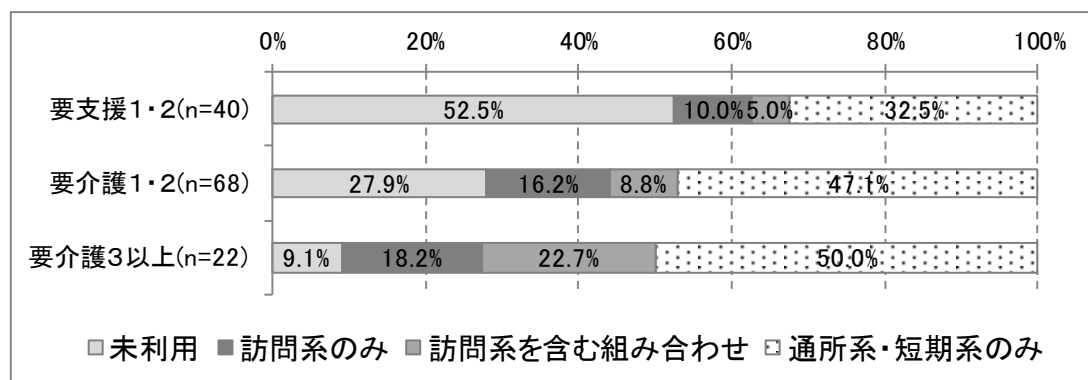
(3)「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

要介護度別に、サービス利用の組み合わせをみると、要介護度が上昇するにつれて「未利用」の割合が低くなる傾向がうかがえる。単身世帯では「訪問系を含む組み合わせ」が要介護度によらず、4割程度を占めているのに対し、夫婦のみ世帯とその他世帯では「通所系・短期系のみ」の割合が比較的高くなっている。

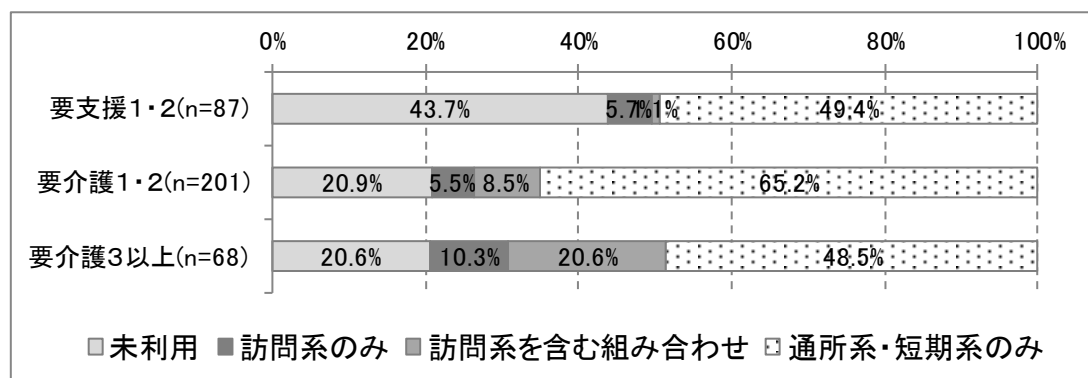
図表 4-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



図表 4-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）(*)

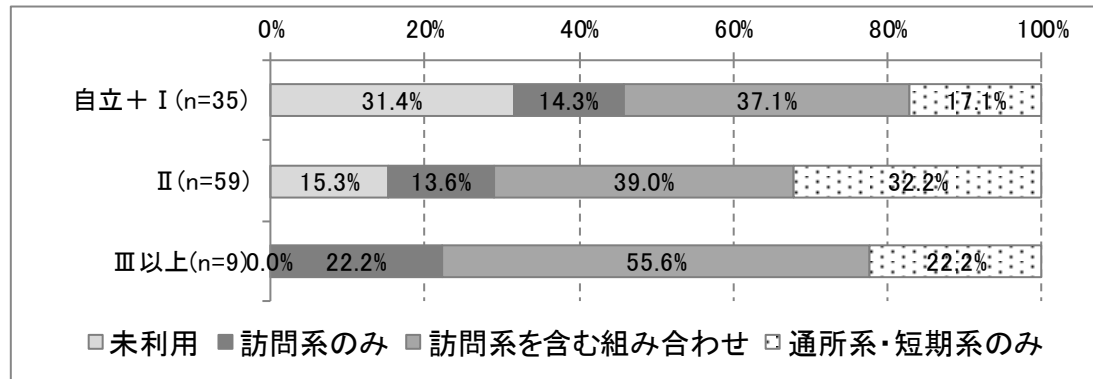


図表 4-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）(***)

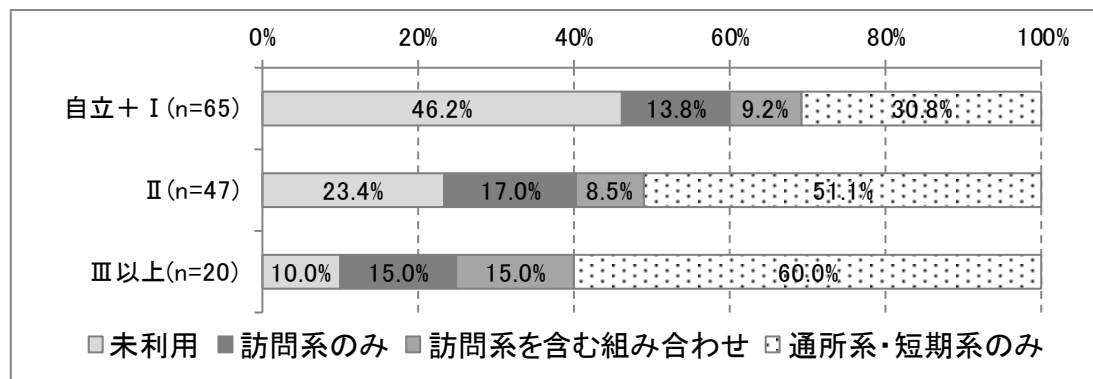


認知症自立度別にサービス利用の組み合わせをみると、夫婦のみ世帯とその他世帯では自立度が低くなるにつれて「通所系・短期系のみ」の占める割合が高くなる傾向がうかがえる。単身世帯では「訪問系を含む組み合わせ」の占める割合が高くなっている。

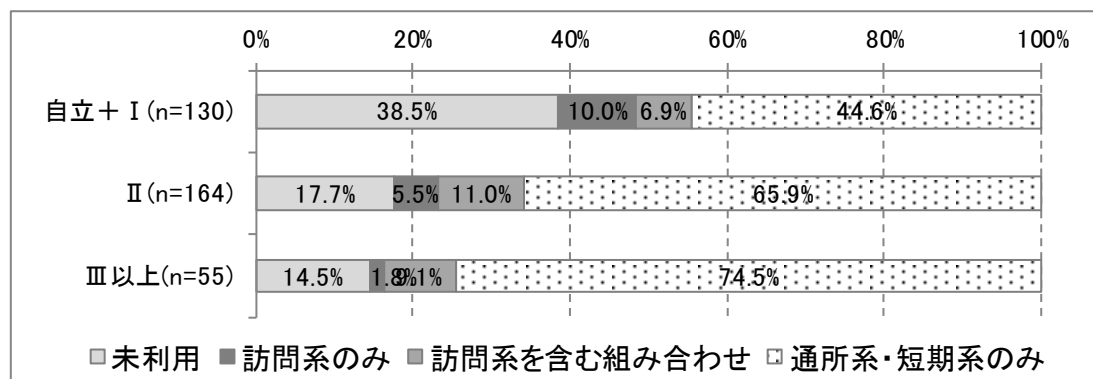
図表 4-10 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



図表 4-11 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）(*)



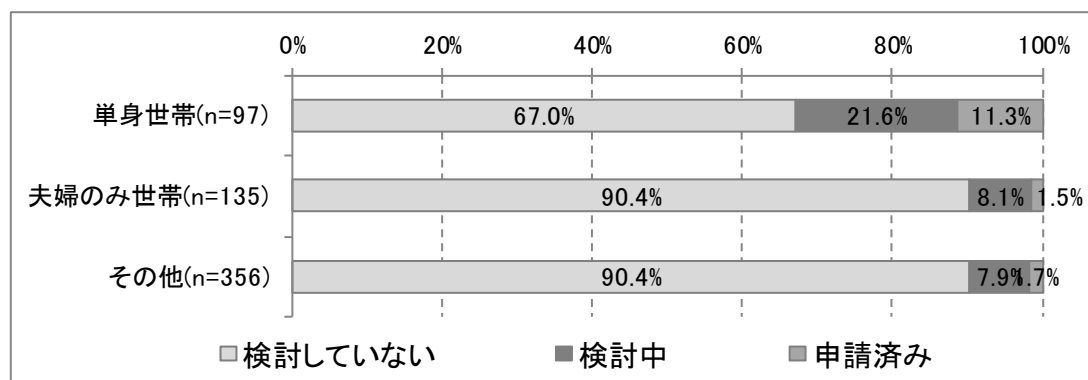
図表 4-12 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）(***)



（４）「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

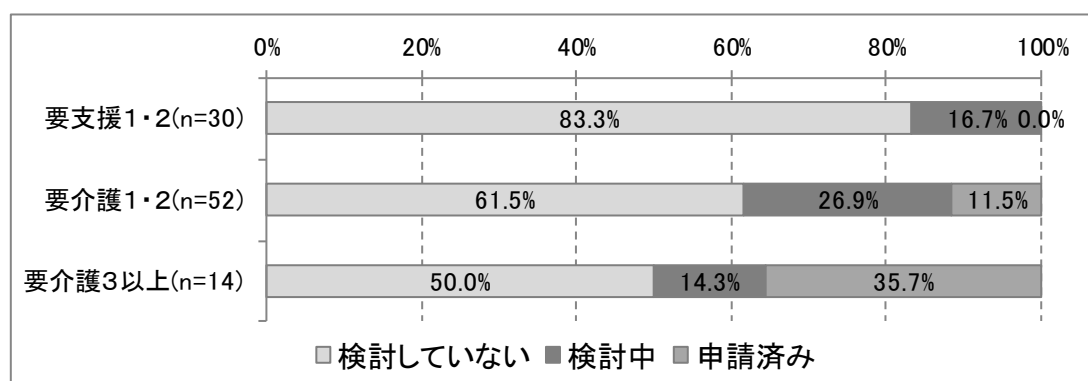
世帯類型別に施設等検討の状況をみると、夫婦のみ世帯とその他では「検討し知恵内」が9割強を占めるのに対し、単身世帯では「検討中」が2割強を占めている。

図表 4-13 世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）（***）



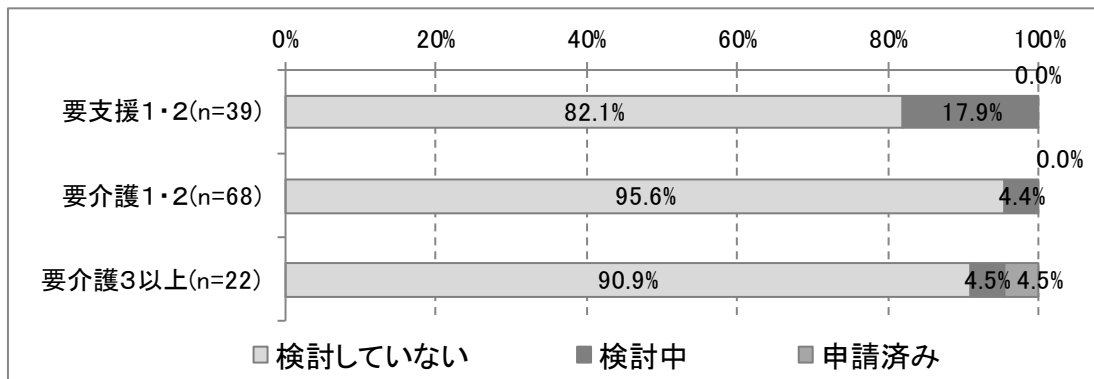
要介護度別に単身世帯の施設等検討の状況をみると、要介護度が上昇するにつれて「検討していない」の割合が低くなり、「申請済み」の割合が高くなる傾向がうかがえる。要介護3以上では「申請済み」が35.7%となっている。

図表 4-14 要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）（**）



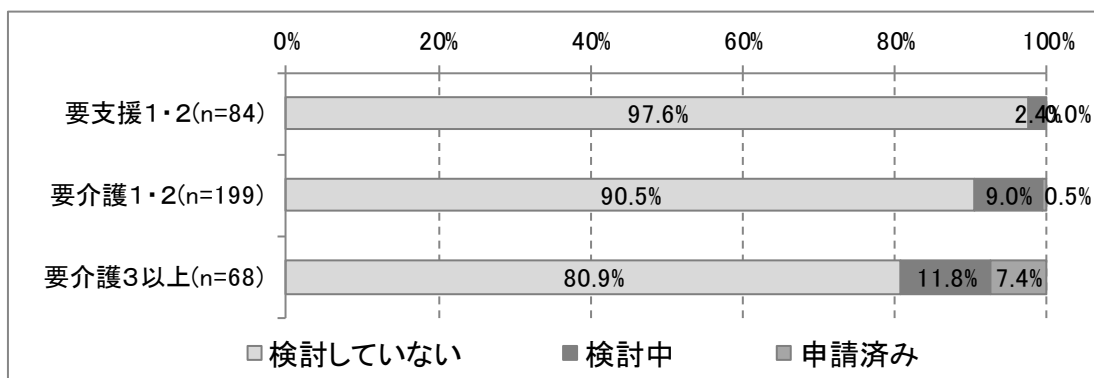
要介護度別に夫婦のみ世帯の施設等検討の状況をみると、要介護１・２、要介護３以上では「検討していない」９割以上を占めている。要支援１・２では「検討中」が２割弱を占めている。

図表 4-15 要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）(*)



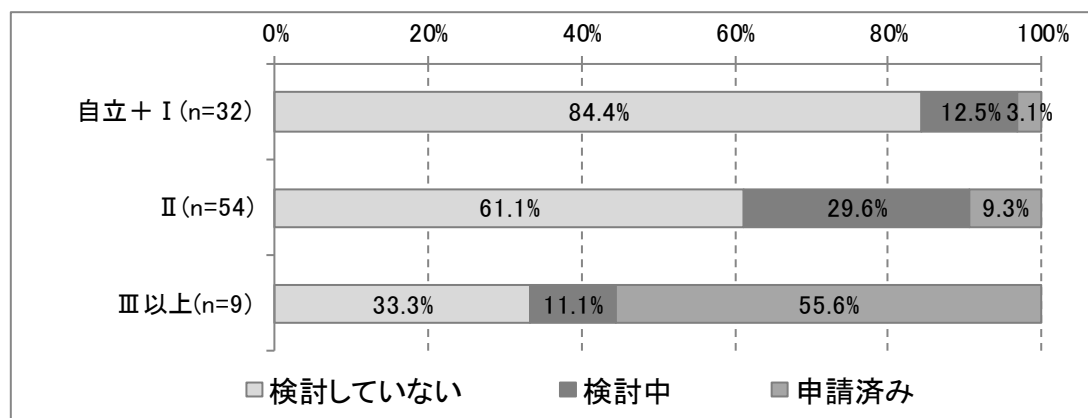
要介護度別にその他世帯の施設等検討の状況をみると、要介護度が上昇するにつれて「検討していない」の割合が低くなり、「検討中」、「申請済み」の割合が高くなる傾向がうかがえる。

図表 4-16 要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）(***)



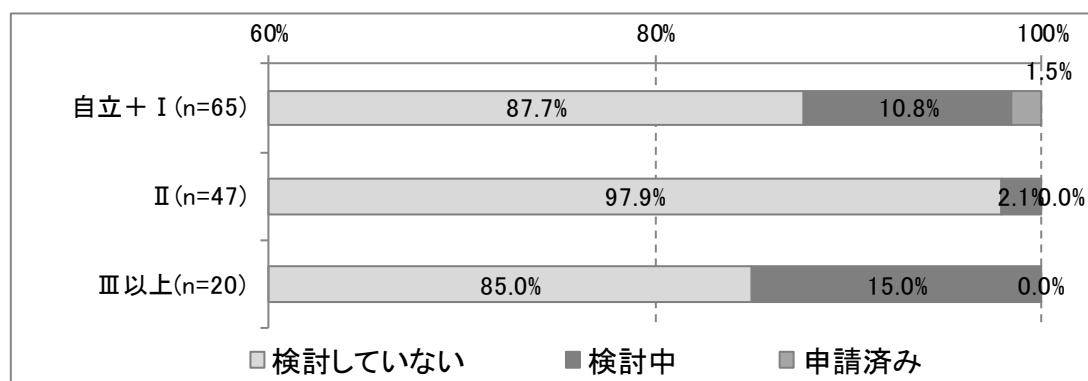
認知症自立度別に単身世帯の施設等検討の状況をみると、自立度が低くなるにつれて「検討していない」の割合が低くなり、「申請済み」の割合が高くなる傾向がうかがえる。Ⅲ以上では「申請済み」が 55.6%を占めている。

図表 4-17 認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）（***）



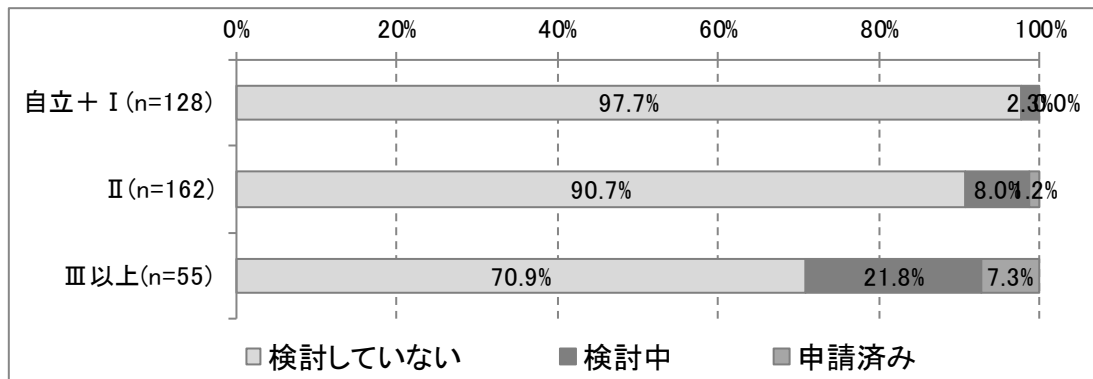
認知症自立度別に夫婦のみ世帯の施設等検討の状況をみると、Ⅱ以上では「検討していない」が 97.9%を占めている。

図表 4-18 認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



認知症自立度別にその他世帯の施設等検討の状況を見ると、自立度が低下するにつれて「検討していない」の割合が低くなり、「検討中」の割合が高くなる傾向がうかがえる。

図表 4-19 認知症自立度別・施設等検討の状況（その他世帯）（***）

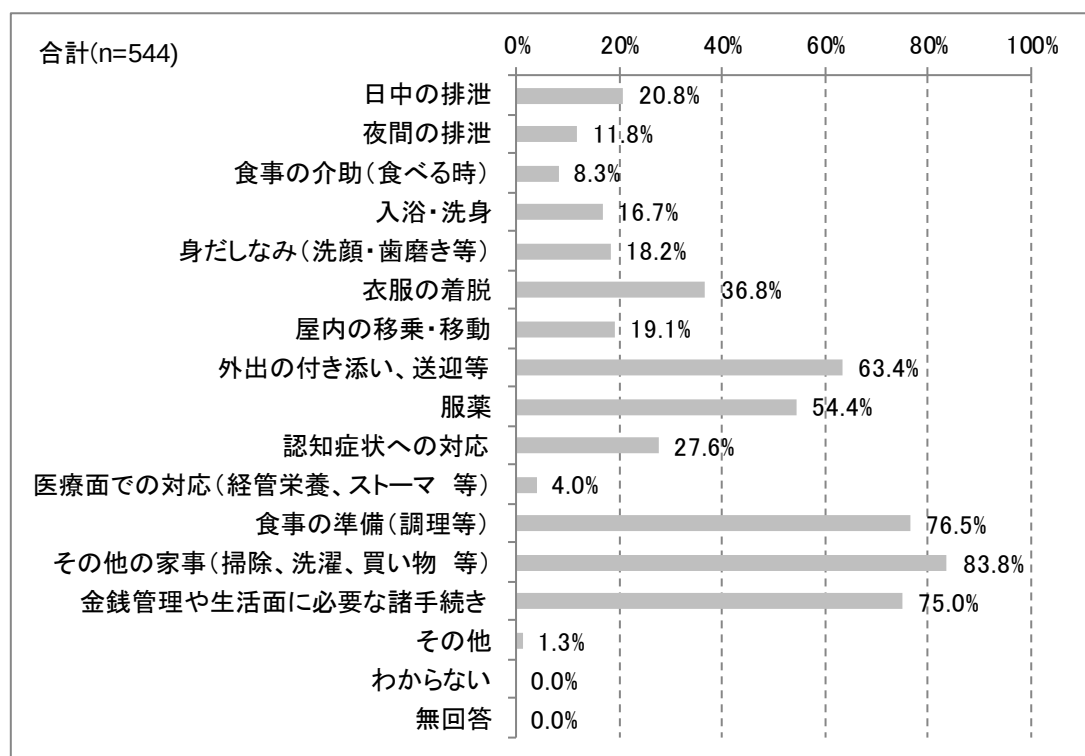


5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

(1) 主な介護者が行っている介護

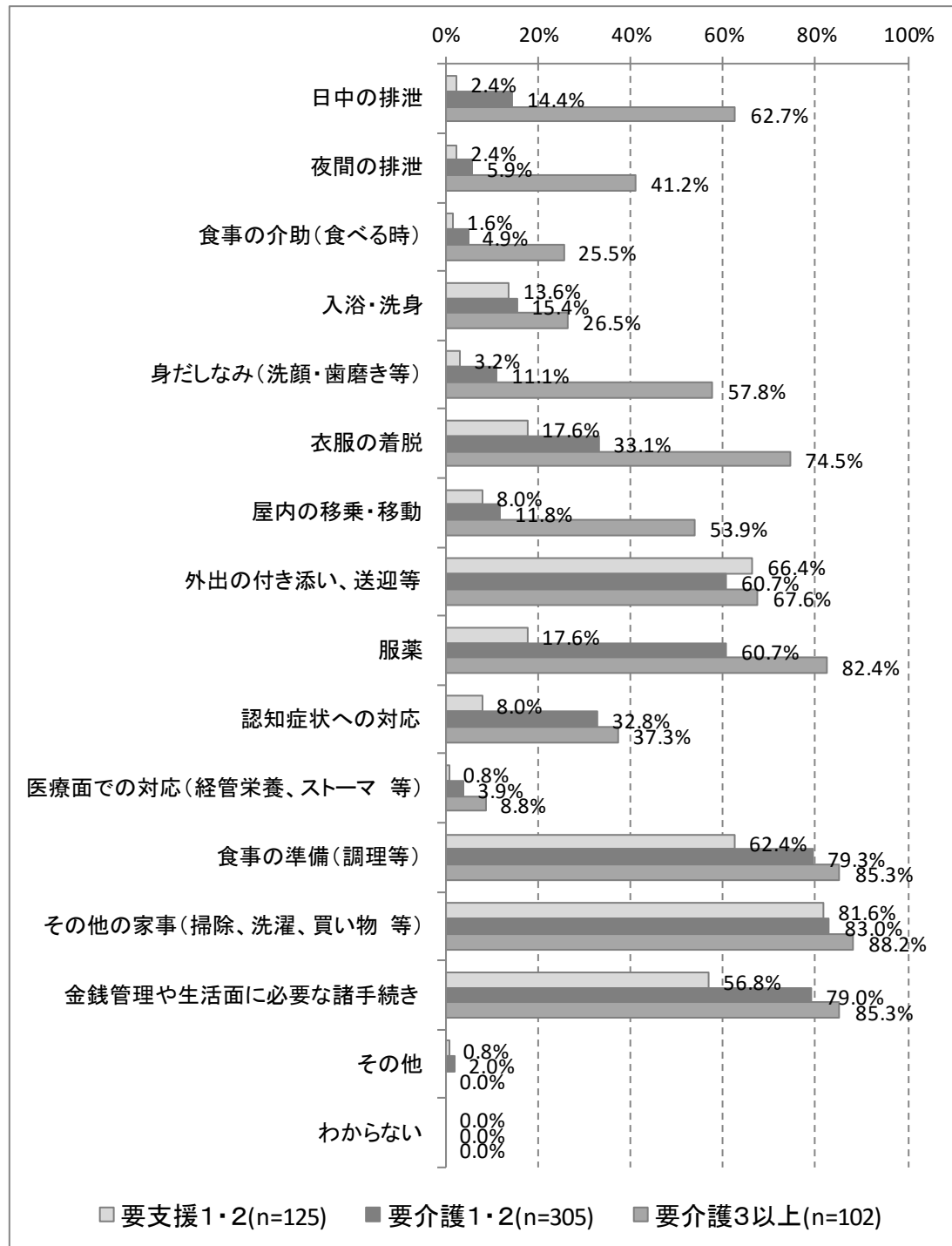
主な介護者が行っている介護についてたずねたところ、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（83.8％）で最も多く、次いで「食事の準備（調理等）」（76.5％）、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（75.0％）などとなっている。

図表 5-1 ★主な介護者が行っている介護

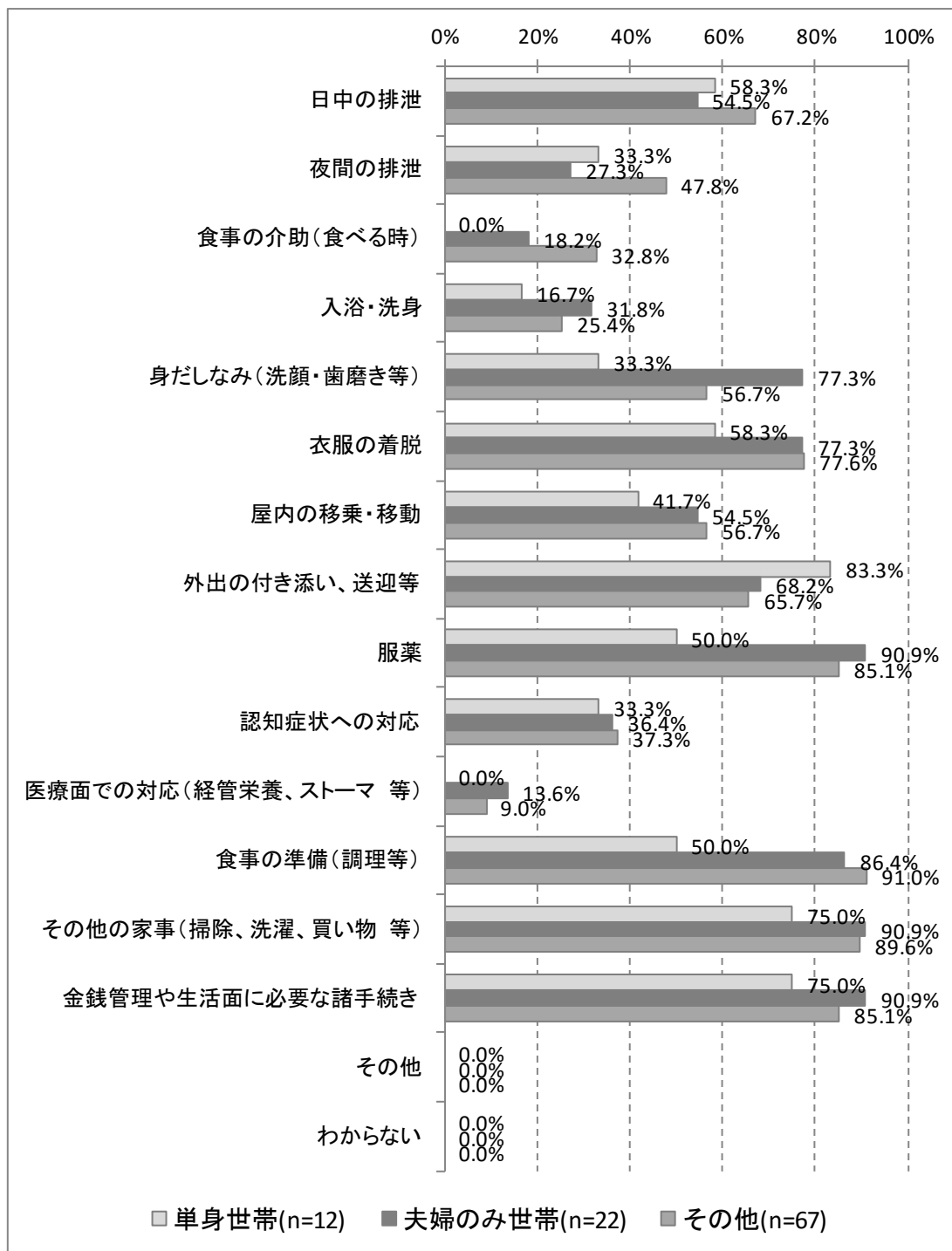


主な介護者が行っている介護について、要介護度別にみると、介護度が上昇するにつれていずれも割合が高くなる傾向がうかがえる。特に「日中の排泄」や「身足並み（洗顔・歯磨き等）」、「衣服の着脱」は、要介護3以上になると急激に割合が高くなる傾向がうかがえる。

図表 5-2 要介護度別・★主な介護者が行っている介護



図表 5-3 世帯類型別・★主な介護者が行っている介護（要介護3以上）

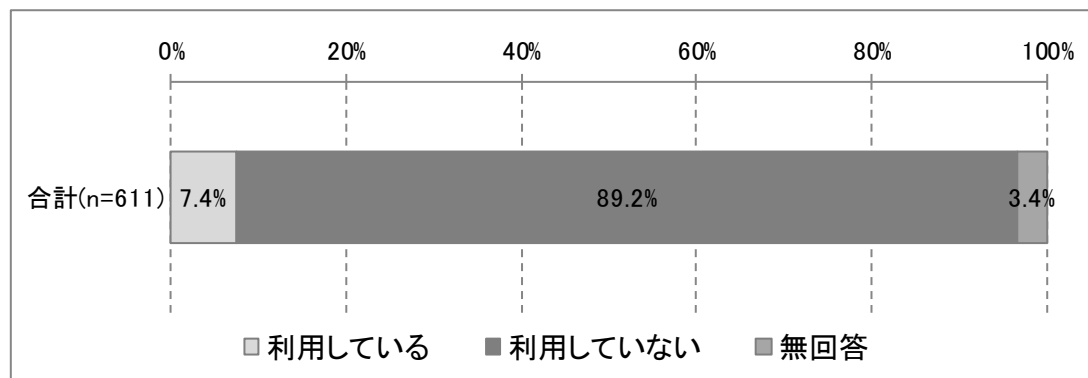


(2) 訪問診療の利用割合

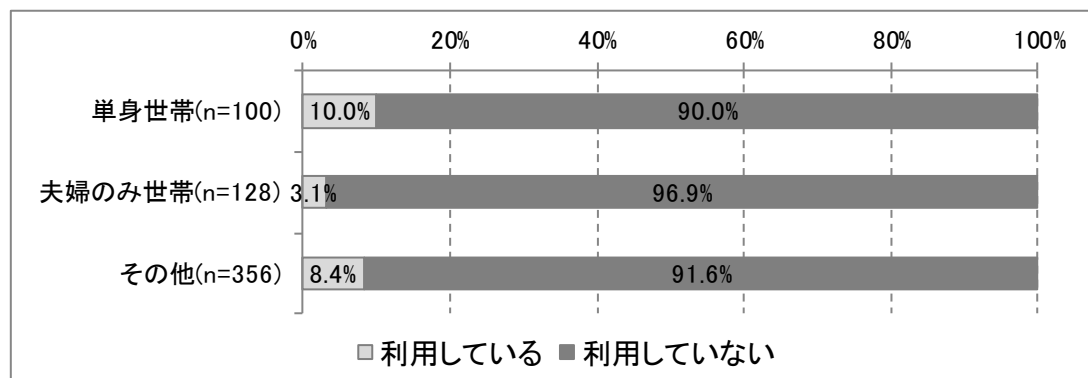
訪問診療の利用の有無についてたずねたところ、「利用していない」が9割弱を占めており、「利用している」は1割に満たない。

要介護度別にみると、介護度が上昇するにつれて「利用している」の割合が高くなる傾向がうかがえる。

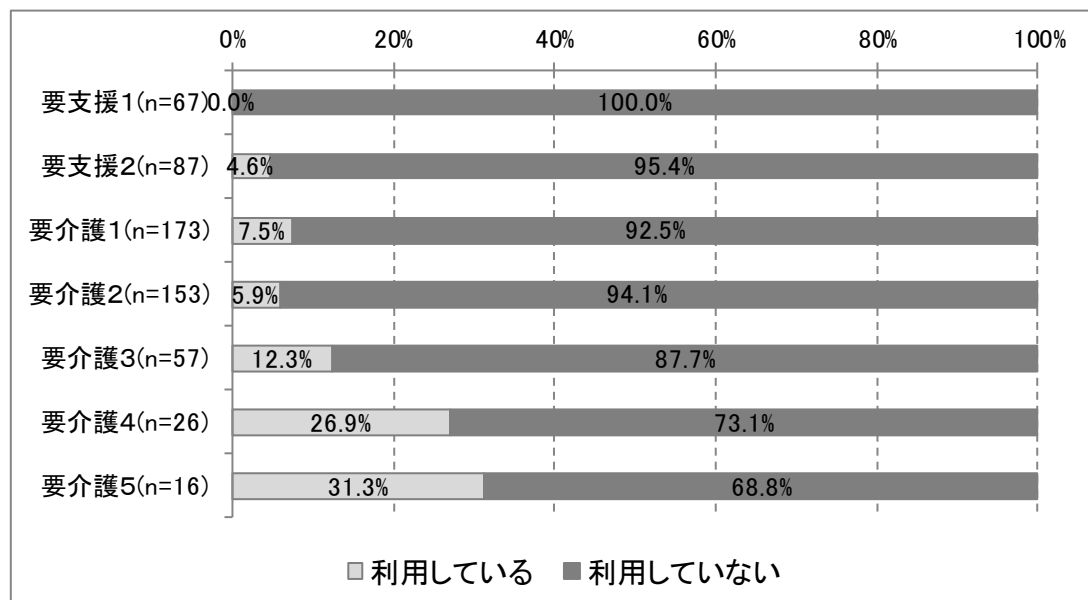
図表 5-4 ★訪問診療の利用の有無



図表 5-5 世帯類型別・★訪問診療の利用割合(+)



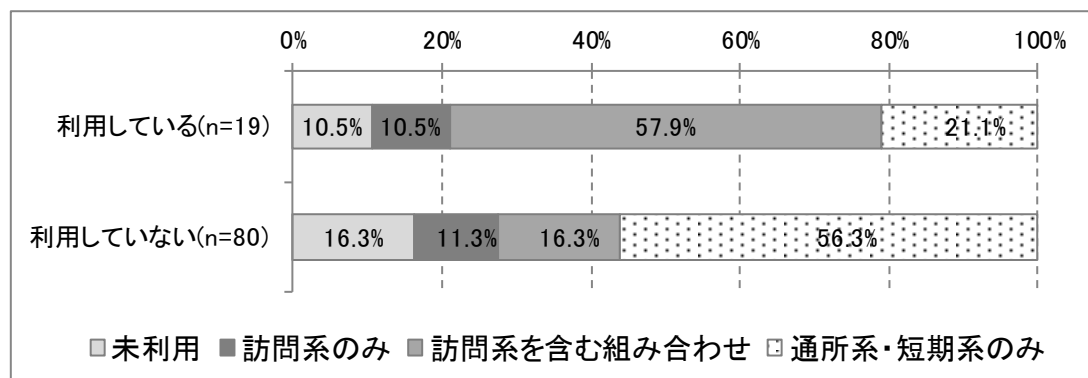
図表 5-6 要介護度別・★訪問診療の利用割合 (***)



（３）訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

主な介護者が行っている介護についてたずねたところ、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（83.8％）で最も多く、次いで「食事の準備（調理等）」（76.5％）、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（75.0％）などとなっている。

図表 5-7 ★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護３以上）（**）

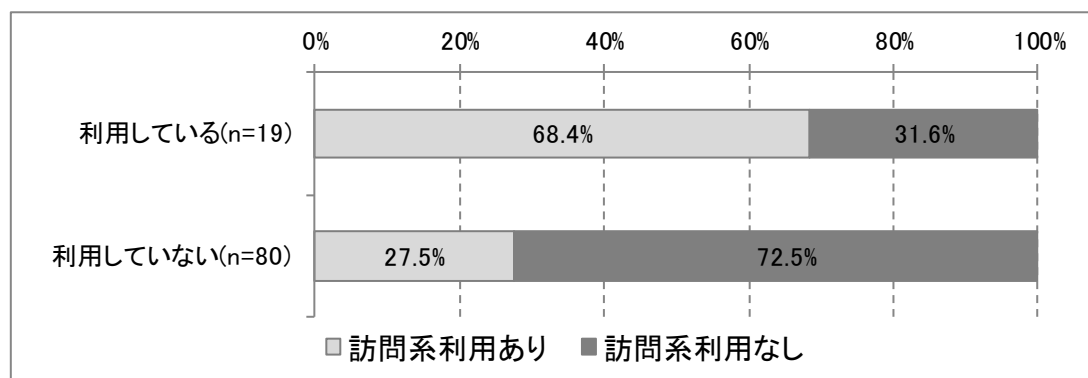


（４）訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無

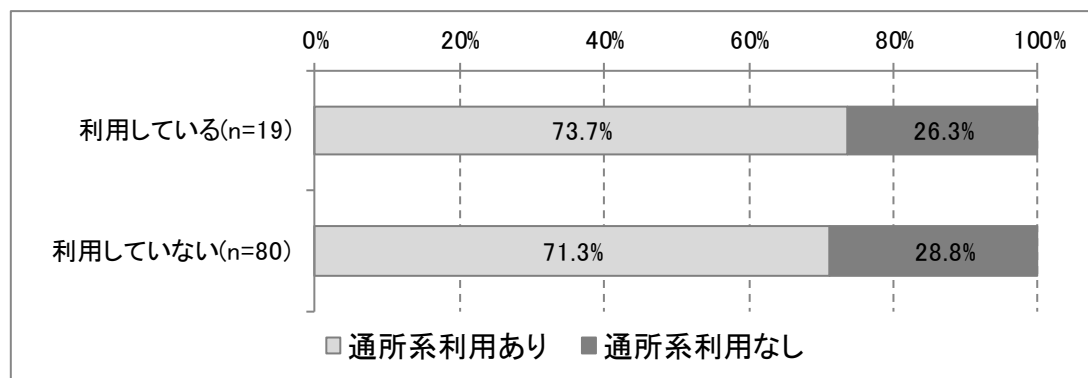
訪問系サービスの利用の有無について、訪問診療の利用の有無別にみると、訪問診療を「利用している」グループでは、「訪問系利用あり」が68.4%で「訪問系利用なし」を上回るのに対し、「利用していない」グループでは、「訪問系利用あり」が27.5%で、「訪問系利用なし」を大きく下回る結果となっている。

通所系サービス、短期系サービスの利用の有無については、「利用している」グループと「利用していない」グループで「通所系利用あり」の割合はほぼ同率となっている。

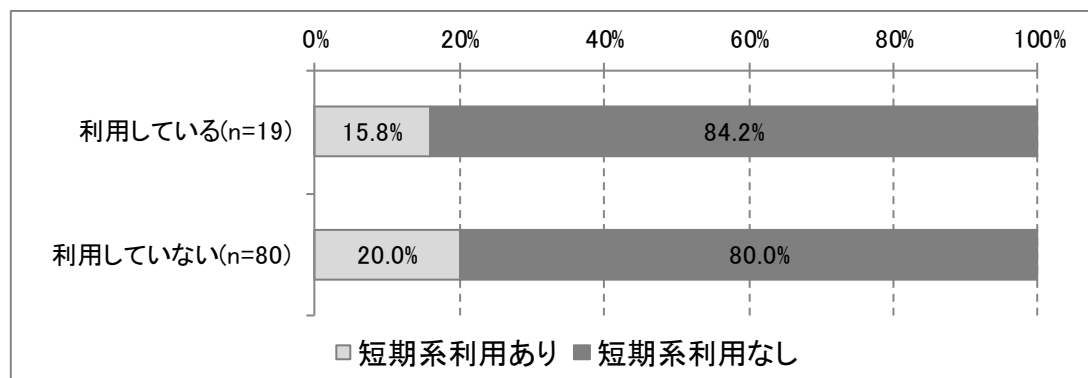
図表 5-8 ★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）（***）



図表 5-9 ★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）



図表 5-10 ★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）

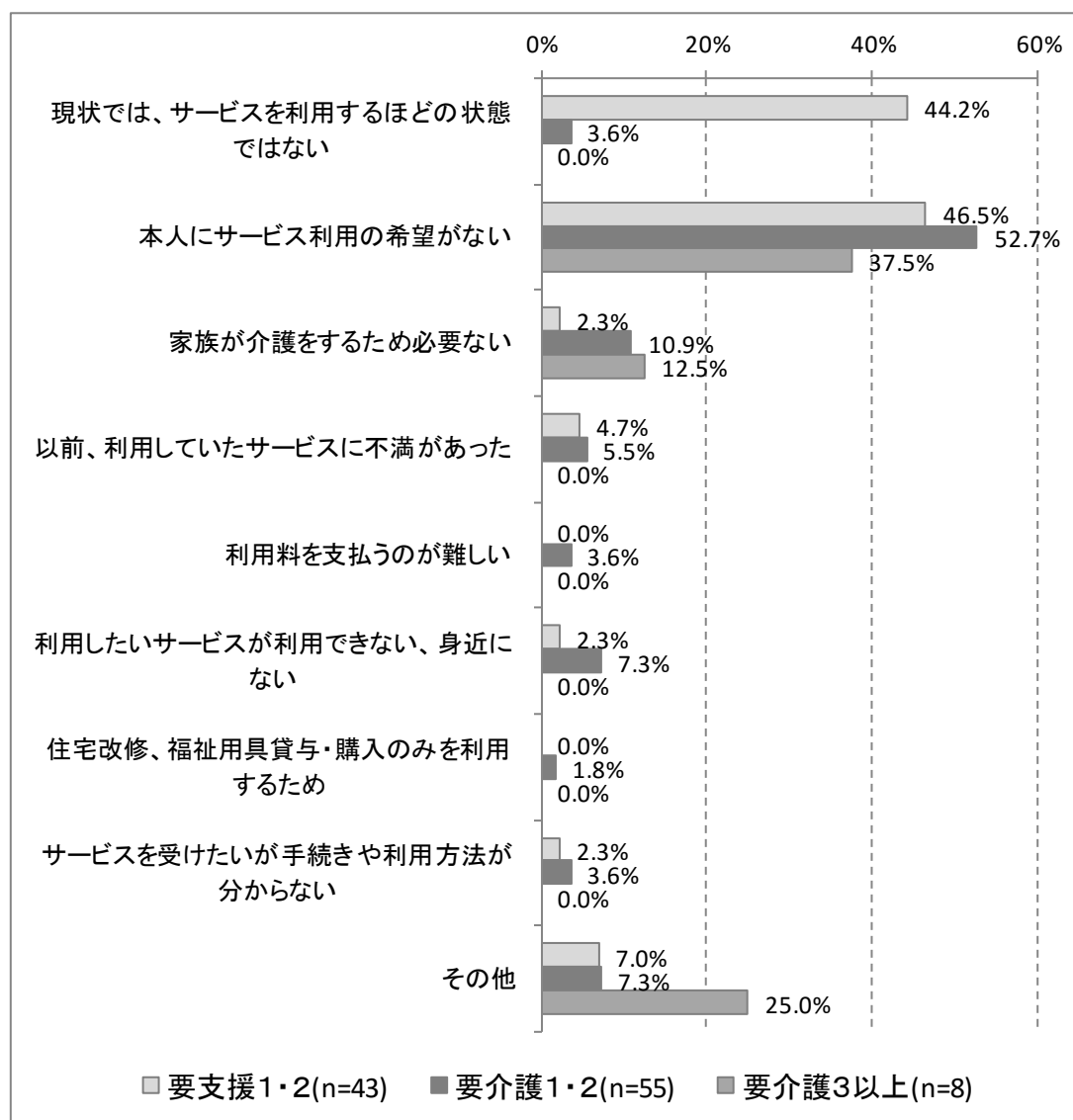


6 サービス未利用の理由など

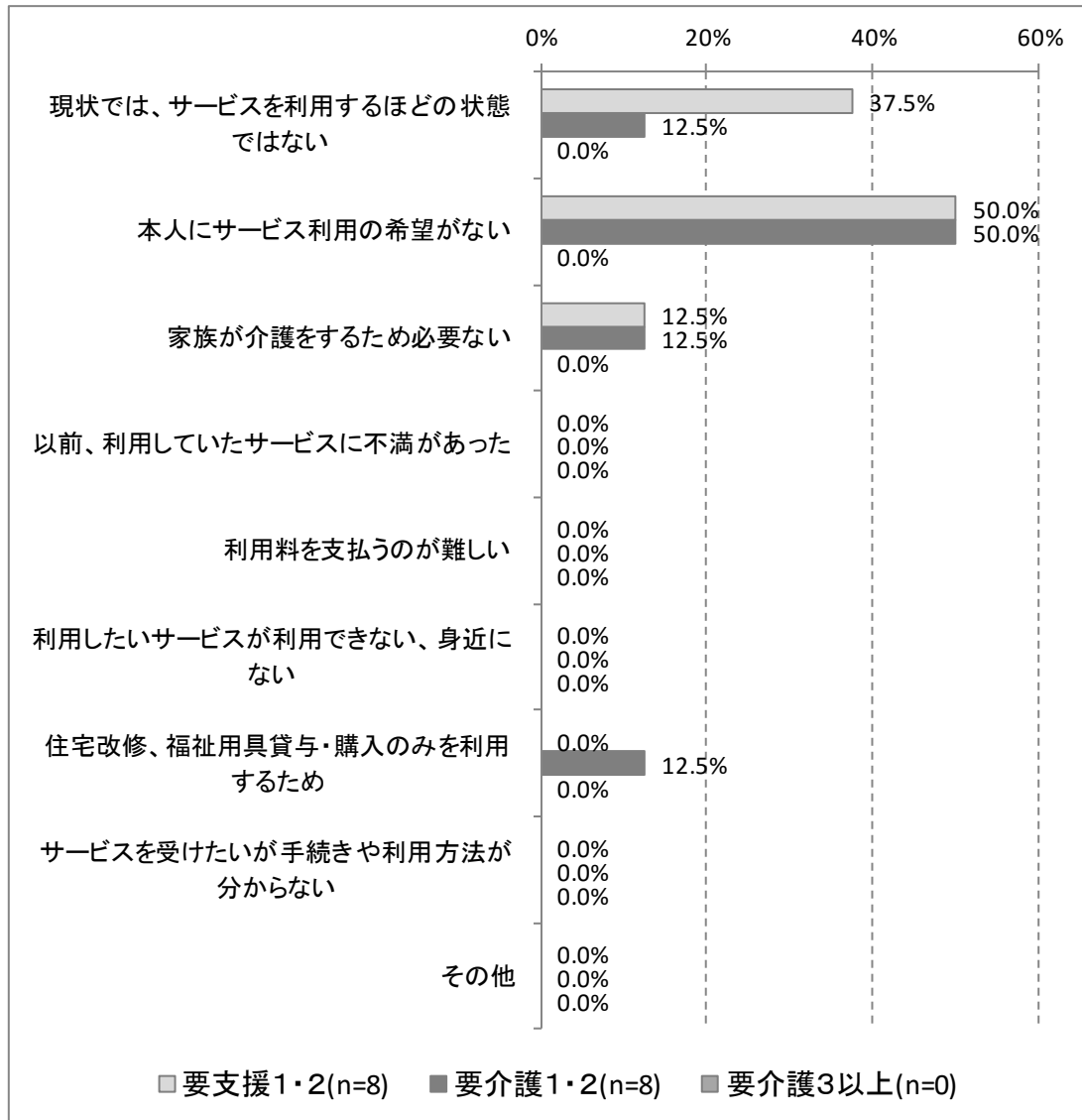
(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

サービスを利用していない理由についてたずねたところ、要支援1・2では「本人にサービス利用の希望がない」と「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が上位を占めるのに対し、要介護1・2と要介護3以上では「本人にサービス利用の希望がない」が第1位となっている。

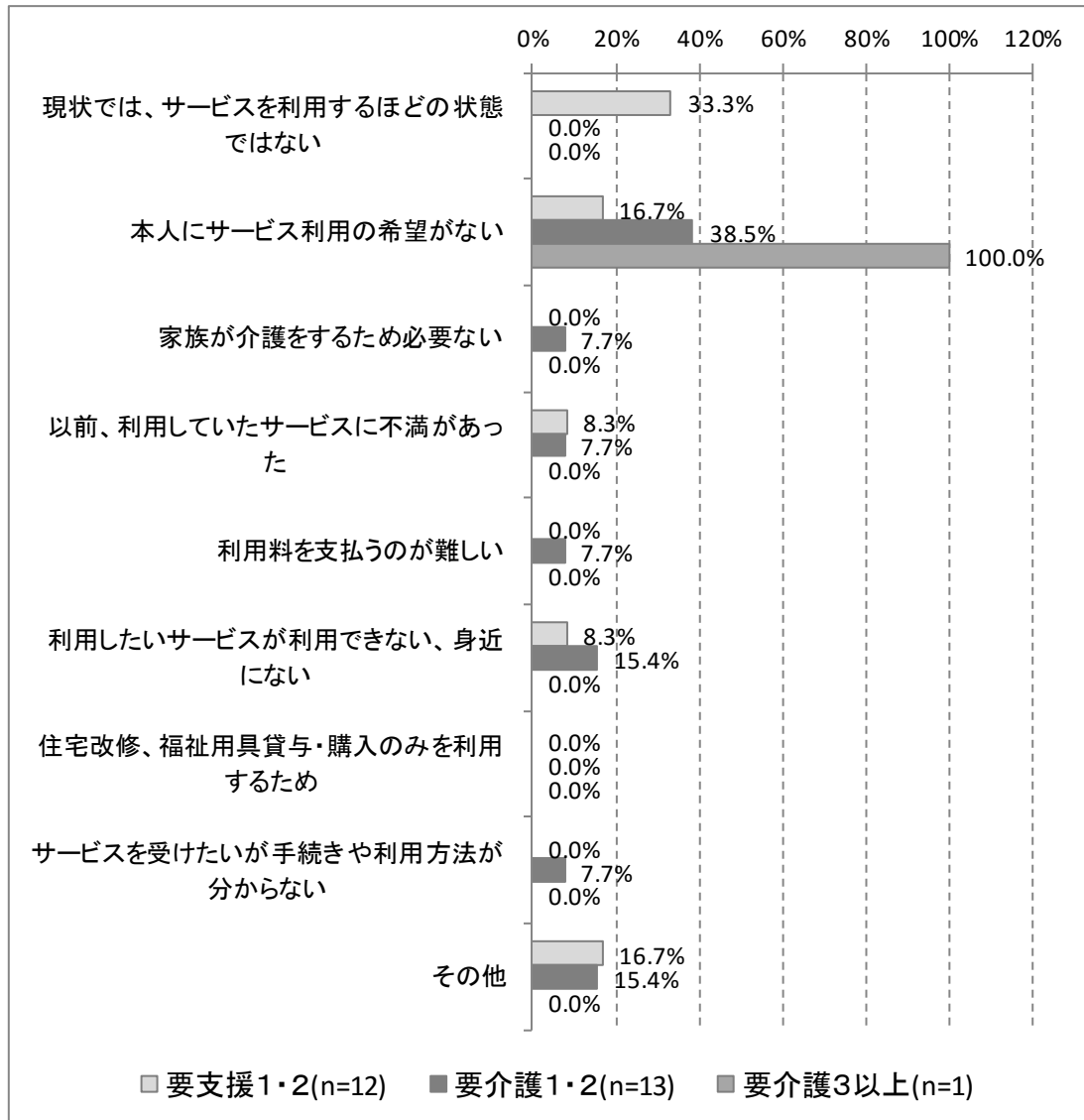
図表 6-1 要介護度別の★サービス未利用の理由



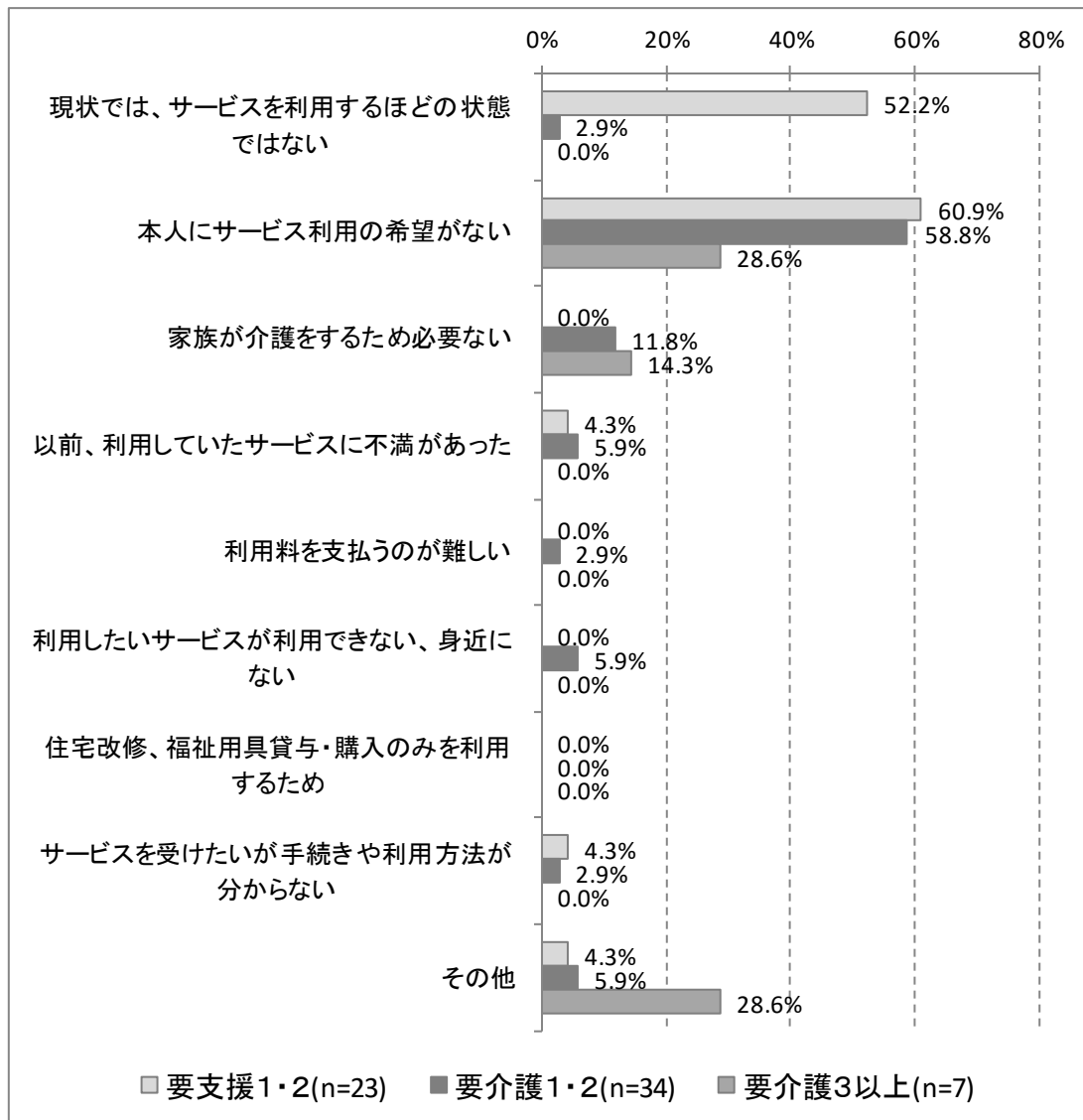
図表 6-2 要介護度別の★サービス未利用の理由（単身世帯）



図表 6-3 要介護度別の★サービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）



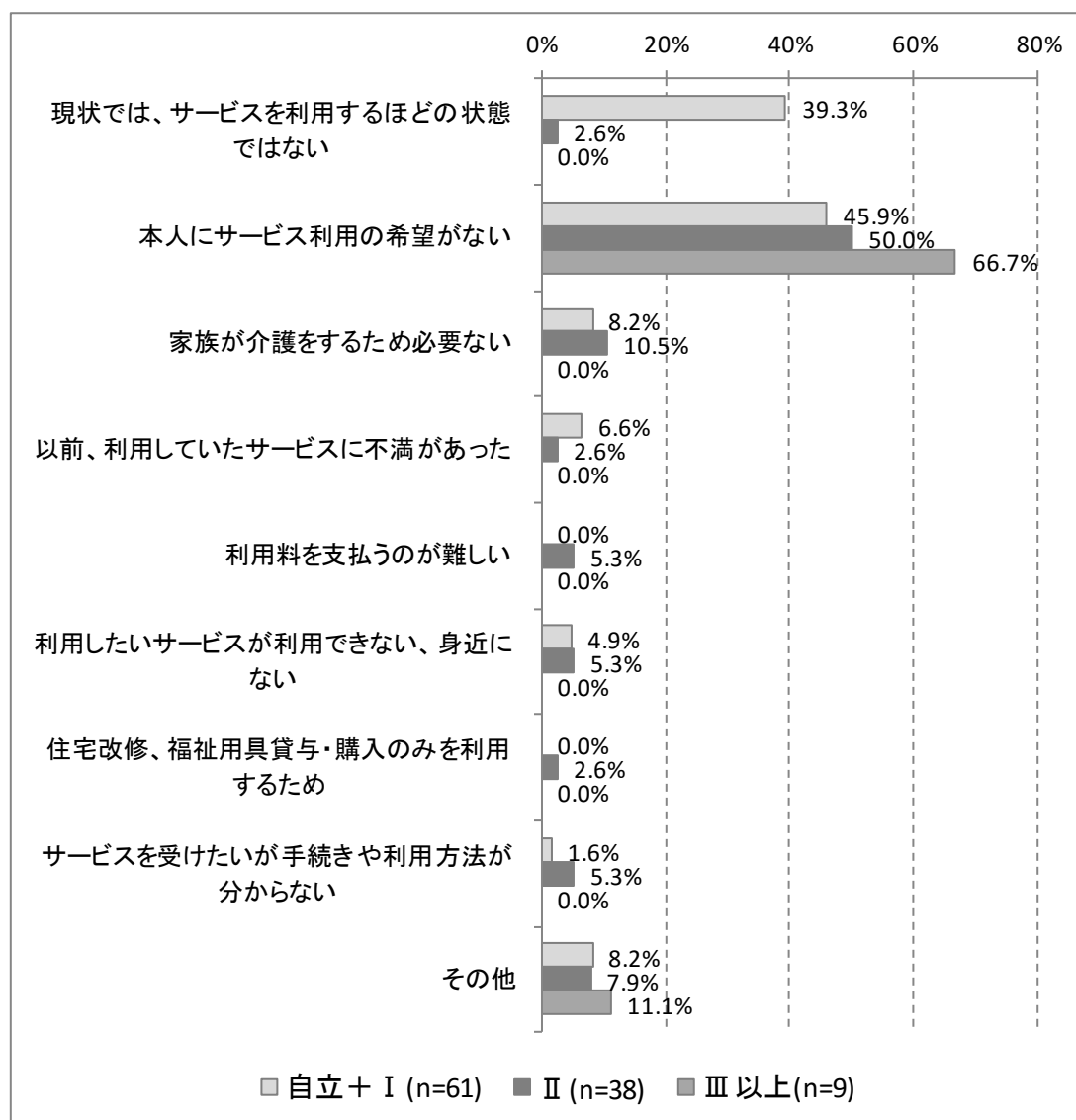
図表 6-4 要介護度別の★サービス未利用の理由（その他世帯）



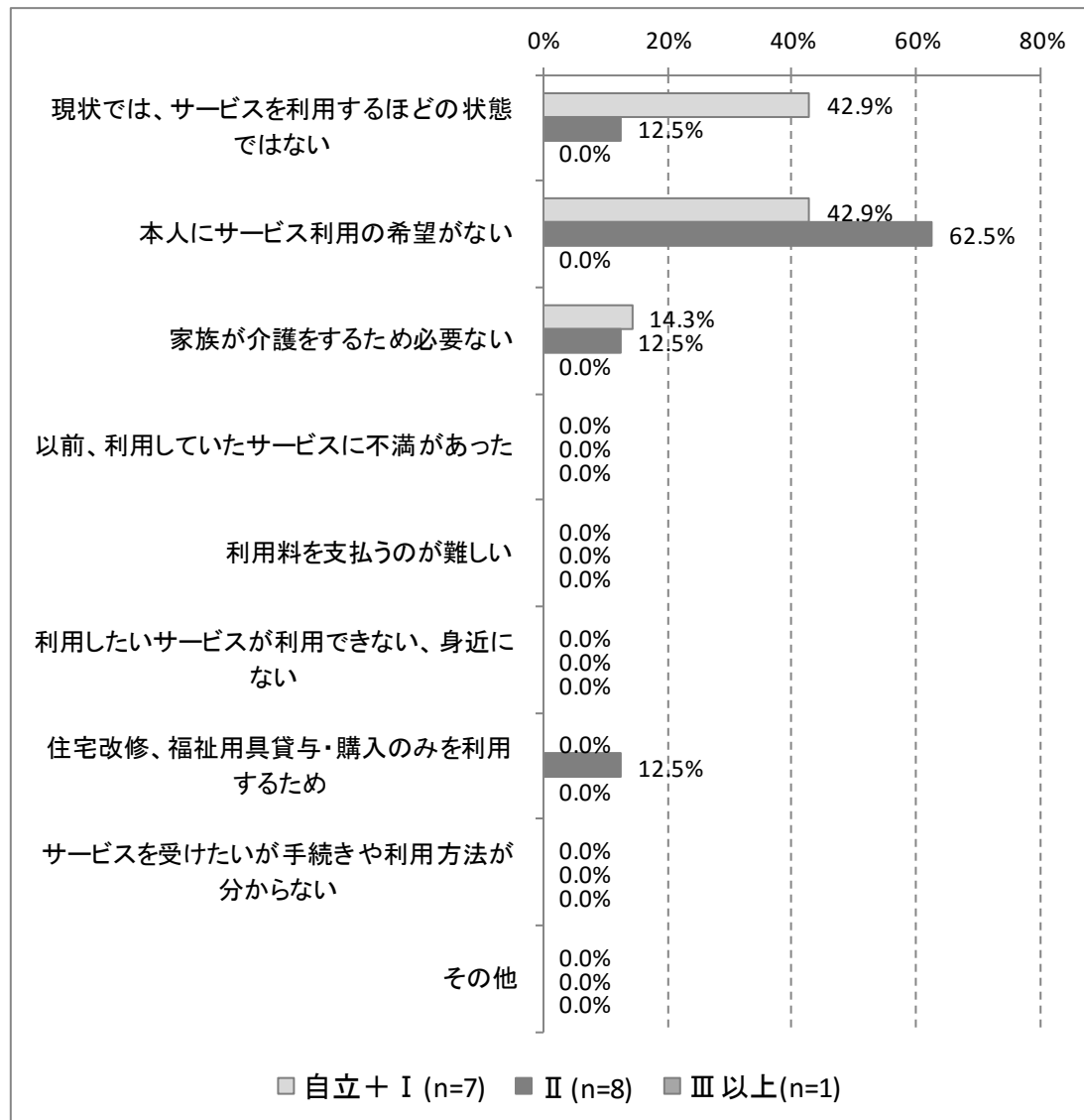
（２）認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

認知症自立度別に、サービスを利用していない理由についてたずねたところ、いずれも「本人にサービス利用の希望がない」が最も高い割合を占めている。自立＋Ⅰでは「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が39.3%を占めている。

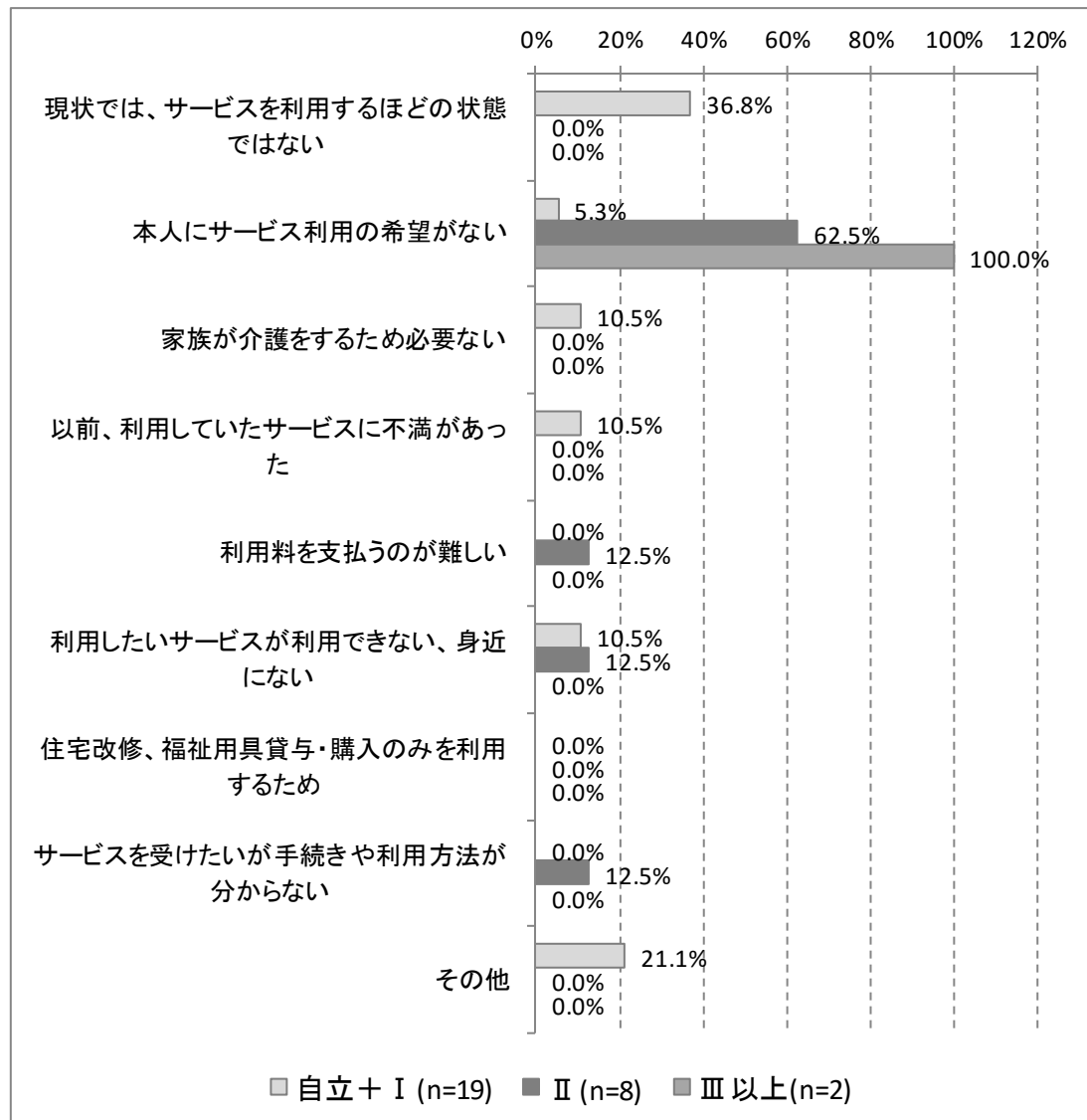
図表 6-5 認知症自立度別の★サービス未利用の理由



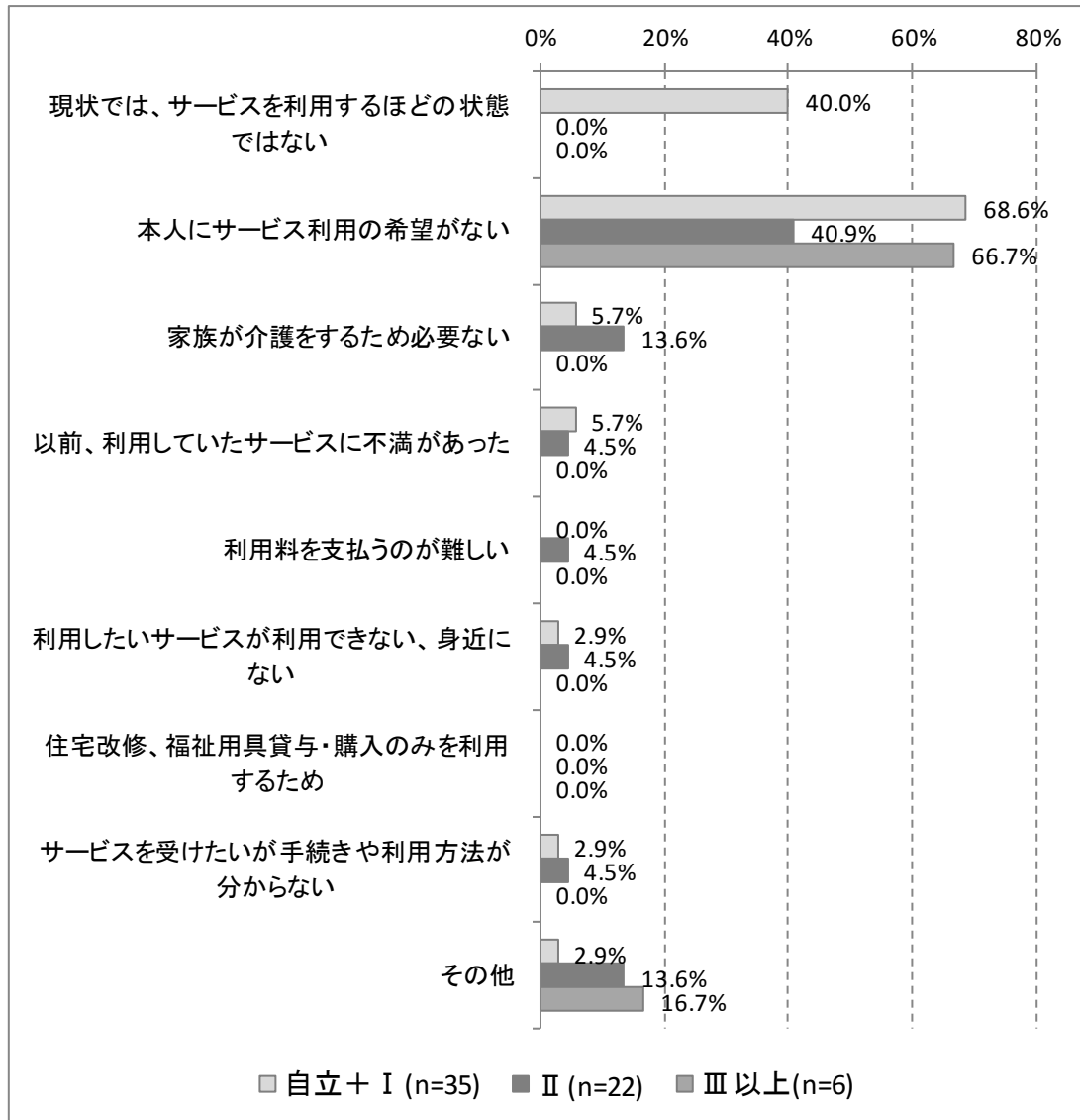
図表 6-6 認知症自立度別の★サービス未利用の理由（単身世帯）



図表 6-7 認知症自立度別の★サービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）



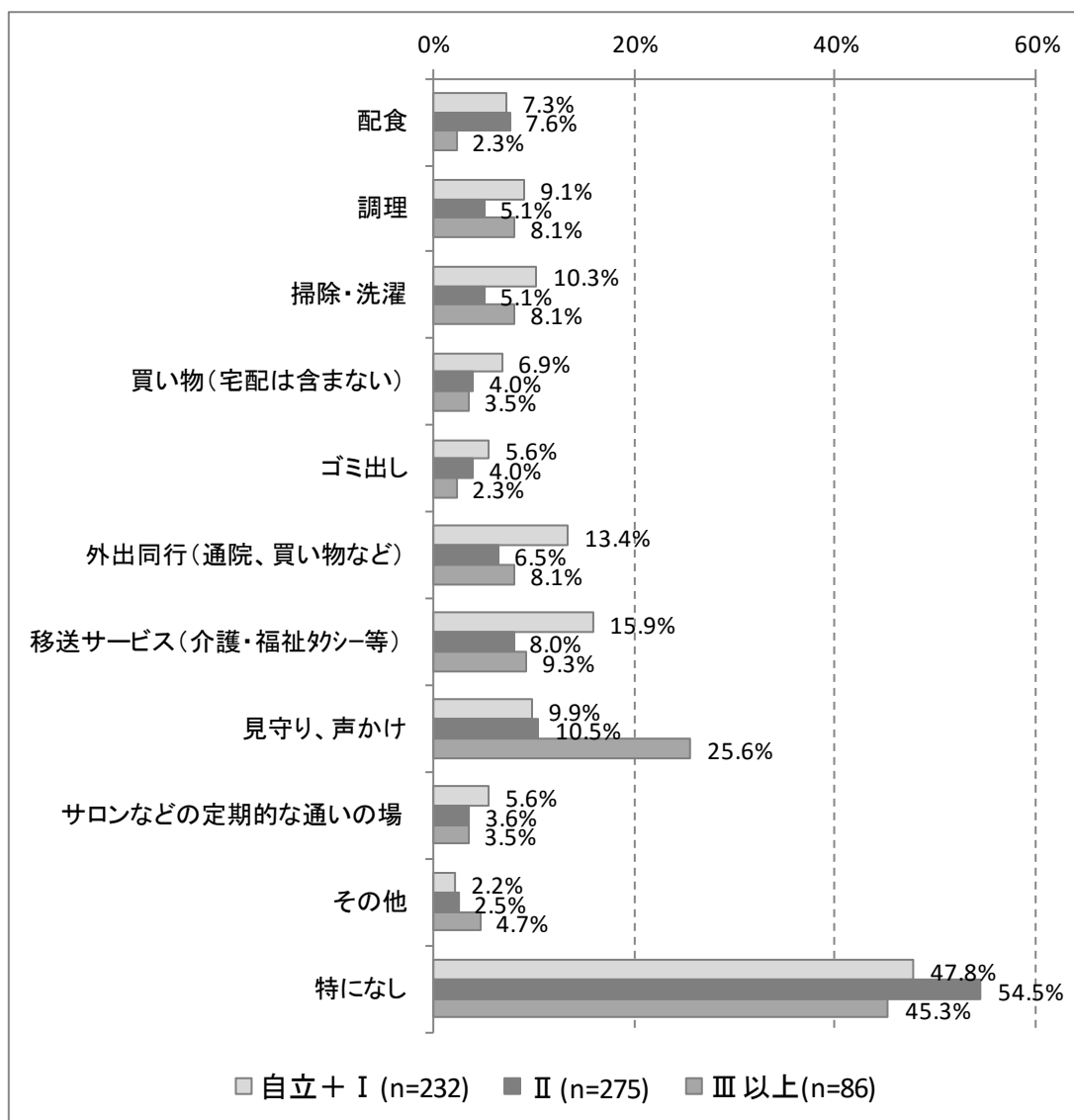
図表 6-8 認知症自立度別の★サービス未利用の理由（その他世帯）



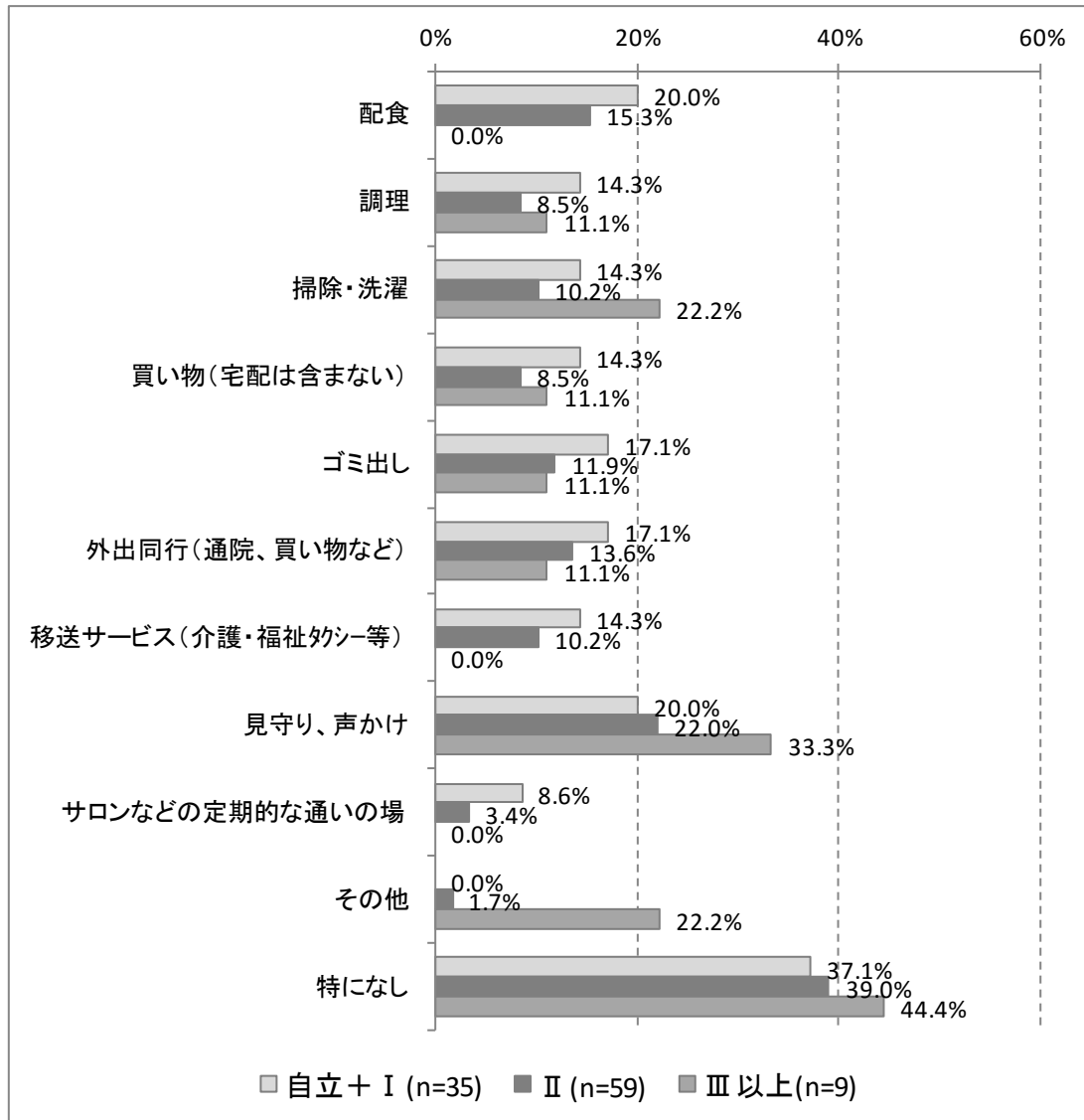
（３）認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス

認知症自立度別に在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについてみると、Ⅲ以上では「見守り、声かけ」が25.6%と、自立+ⅠとⅡよりも高い割合を占めている。

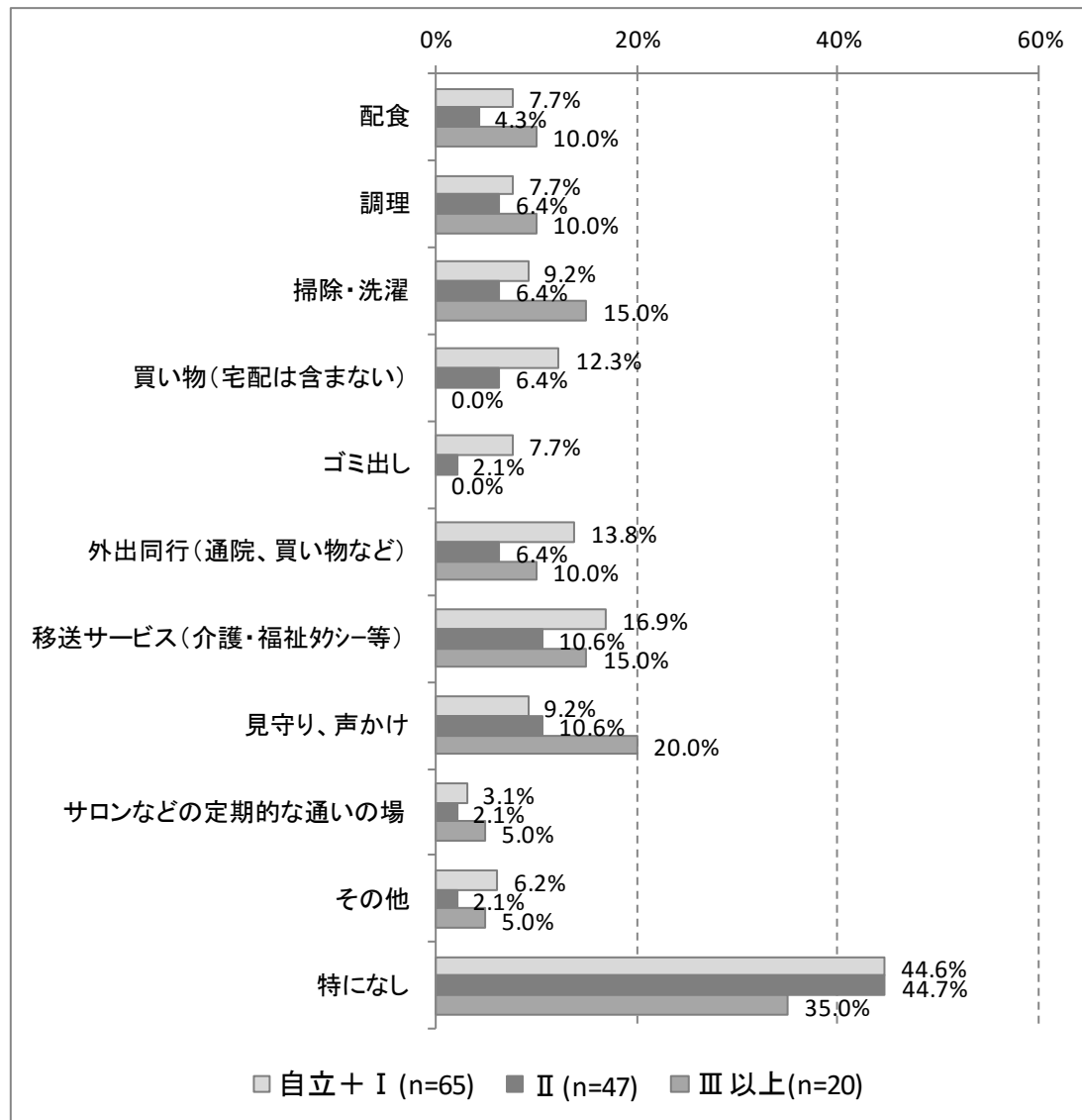
図表 6-9 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



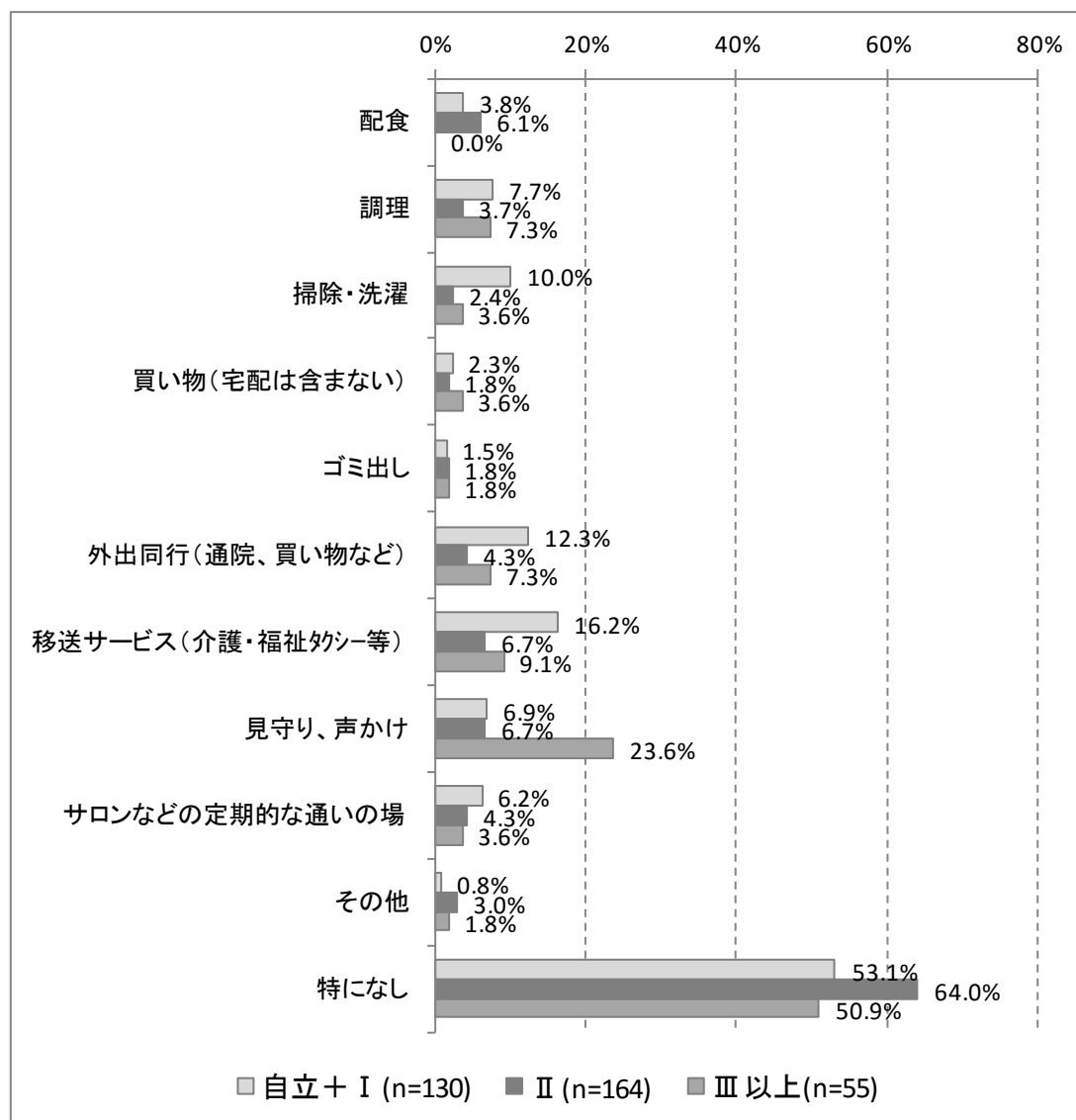
図表 6-10 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



図表 6-11 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



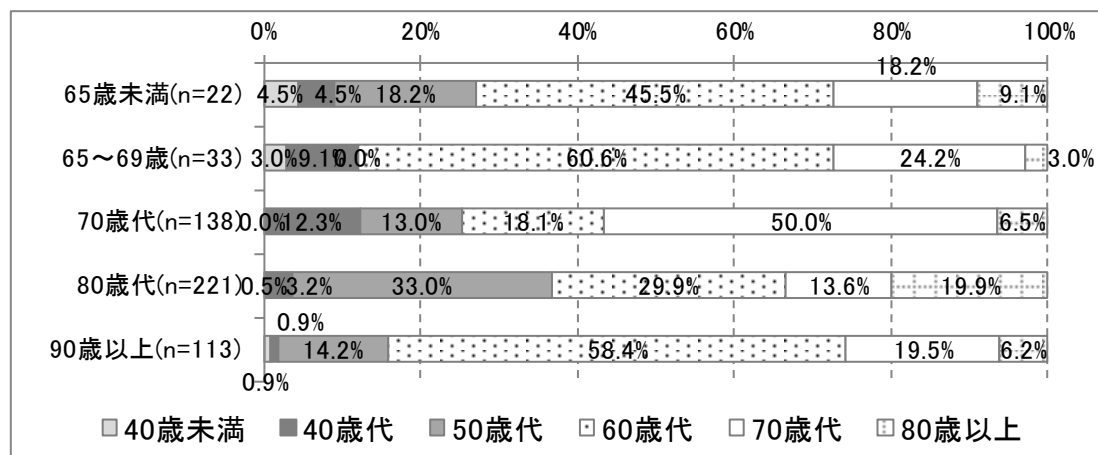
図表 6-12 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）



(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢

本人の年齢別に、主な介護者の年齢についてみると、80歳代では「40歳代」が3割強を占めており、他の年齢層よりも高くなっている。

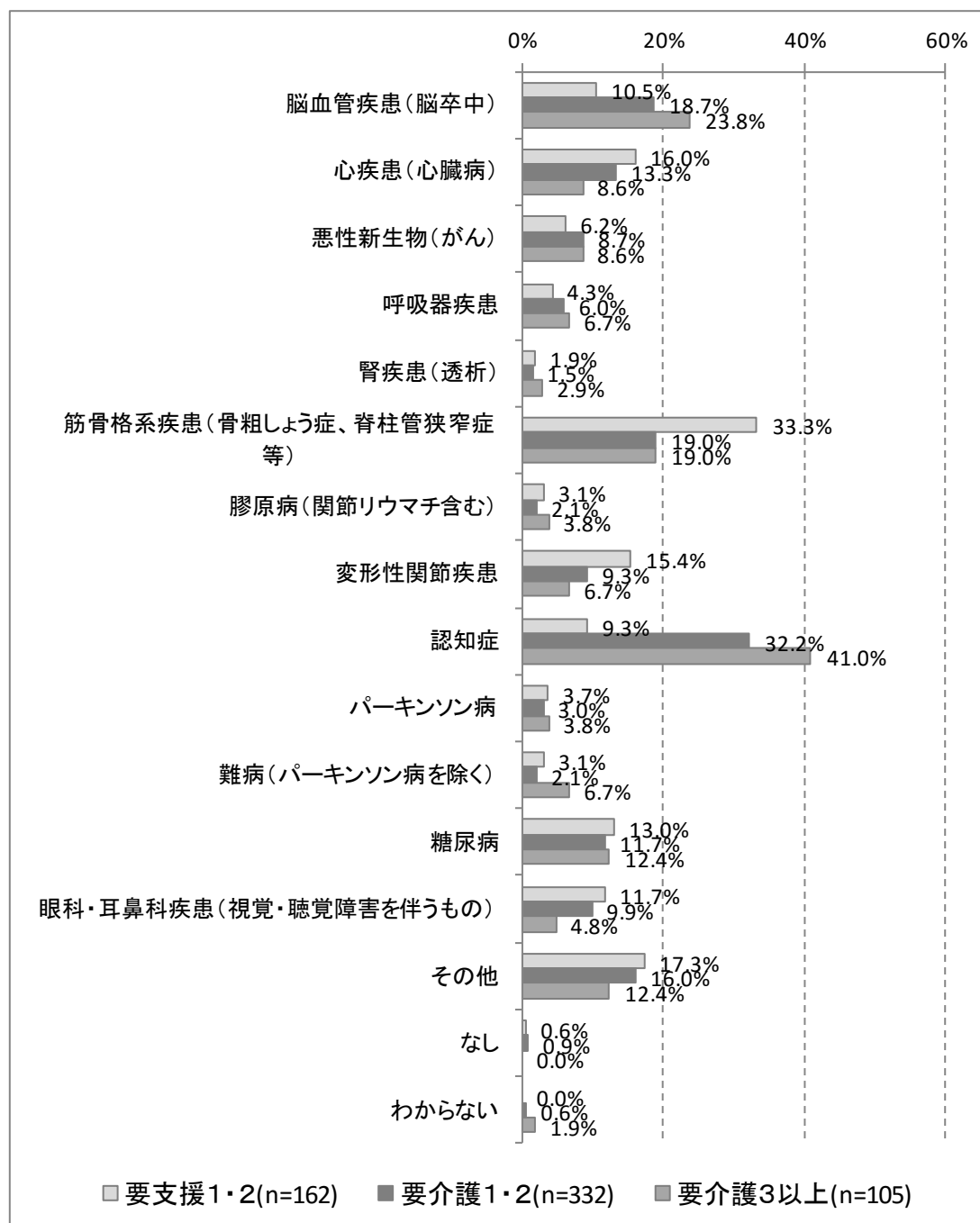
図表 6-13 本人の年齢別・主な介護者の年齢 (***)



（５）要介護度別の抱えている傷病

要介護度別に抱えている傷病についてみると、「認知症」の割合は介護度が上昇するにつれて高くなっており、要介護１・２では 32.2%、要介護３以上では 41.0%となっている。また、要支援１・２では「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が 33.3%となっている。

図表 6-14 要介護度別・★抱えている傷病



（６）訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

訪問診療の利用の有無別に、抱えている傷病をみると、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症・脊柱管狭窄症等）」と「認知症」は利用の有無に関わらず高い割合を占めている。

図表 6-15 ★訪問診療の利用の有無別・★抱えている傷病

